

各種アンケート調査結果

目次

- 1 講座内でのアンケート・・・・・・・・・・ P 1～
- 2 LINEアンケート・・・・・・・・・・ P 13～
- 3 事業者アンケート・・・・・・・・・・ P 33～
- 4 新人職員アンケート・・・・・・・・・・ P 43～
- 5 学童保育所アンケート・・・・・・・・・・ P 51～
- 6 職員 e ラーニング研修アンケート・・・・・・・・ P 59～

1 講座内でのアンケート 調査結果

1 アンケートを実施した講座等

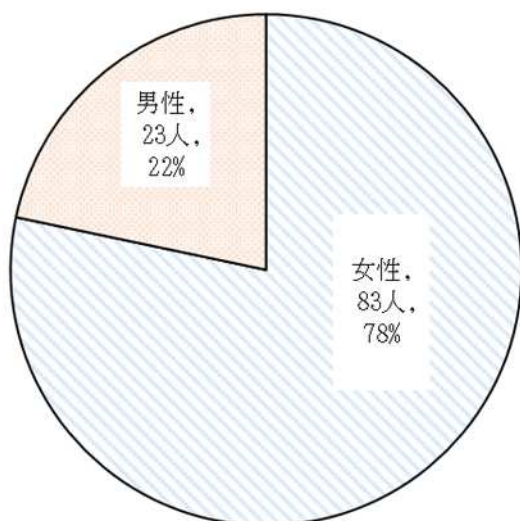
- ・「働く女性のためのストレスの処方箋」
- ・「心を磨く素敵なコミュニケーション」
- ・「シングルマザーの子育てとお金の話」
- ・「片付けパパ@から学ぶタイムマネジメントのヒント」
- ・「女の子のためのココロとカラダのはなし」
- ・「女性のためのプチ起業入門」
- ・「女性のためのフレッシュアップ講座」
- ・「知っておきたい災害時のトイレのはなし」
- ・「男女が共にいきいきと暮らせるまちづくりを目指して」

2 回答者数（全体・性別・年代別）

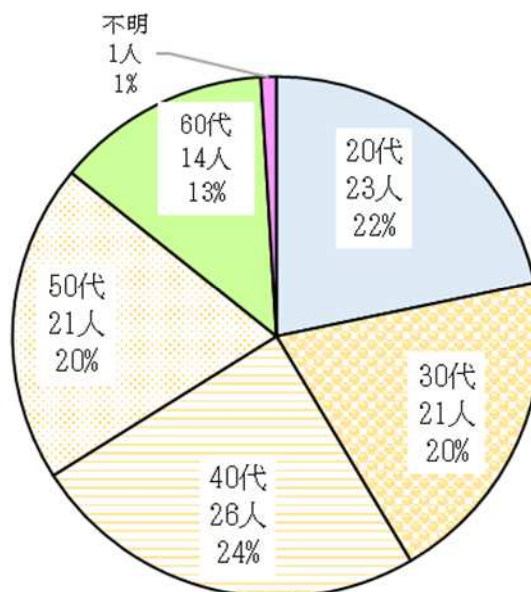
《全体》

	20代	30代	40代	50代	60代	不明	計
女性	16人	19人	22人	15人	10人	1人	83人
男性	7人	2人	4人	6人	4人	0人	23人
計	23人	21人	26人	21人	14人	1人	106人

《性別（n=106）》



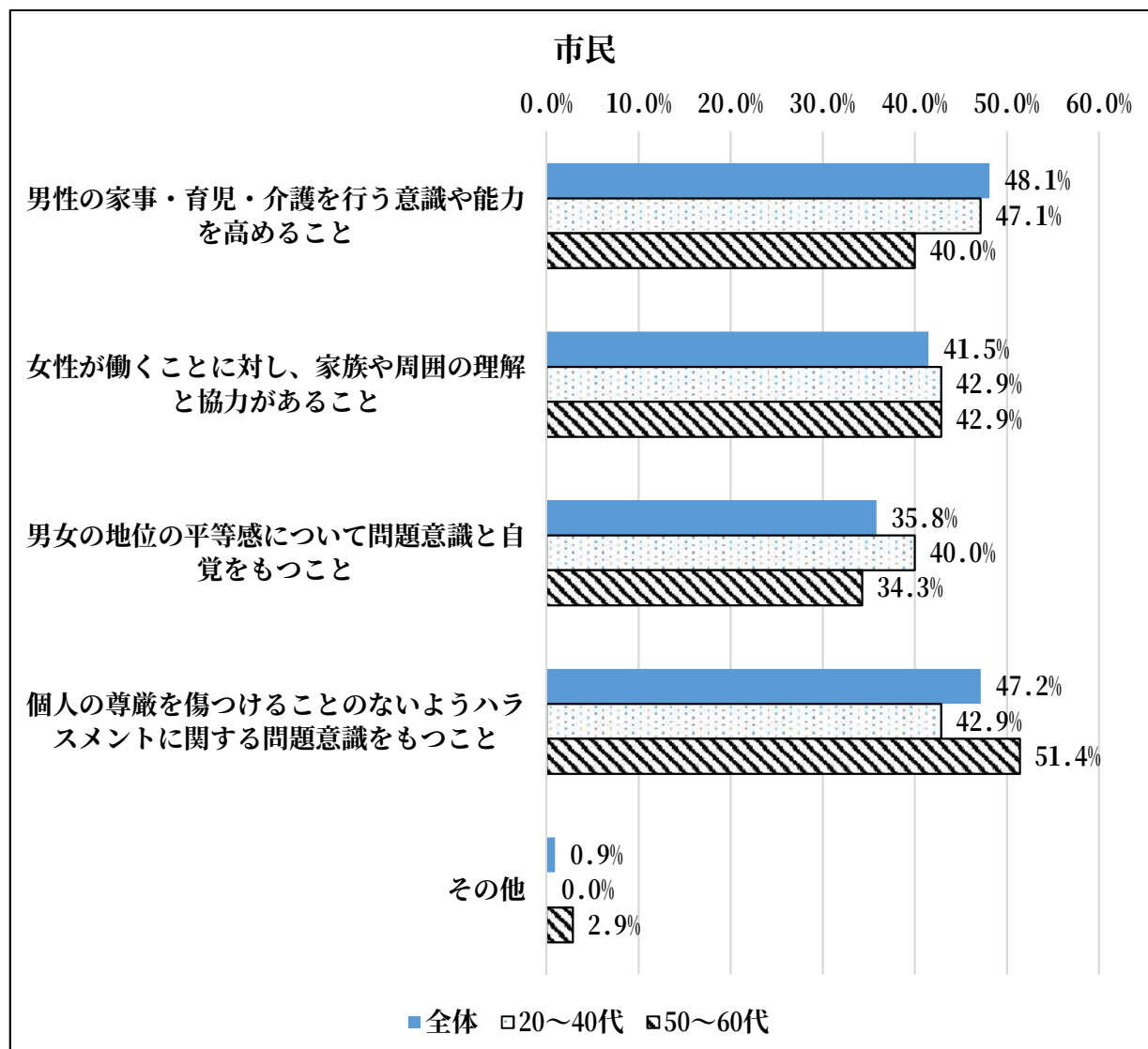
《年代別（n=106）》



〔20～40代〕	70人	66%
〔50～60代〕	35人	33%
〔不明〕	1人	1%

質問：今後、さらに男女共同参画を進めていくために、以下の区分ごとの取組としてどのようなことが必要だと思いますか。（区分ごとに、あてはまるもの2つまで選択）

■ 市民・事業者・教育機関・町会・自治会や NPO 等の地域の項目ごとに一番多い意見を抜粋
 ≪全体・年代別≫



- ・「その他」の回答
 - 社会的なシステムをつくること。

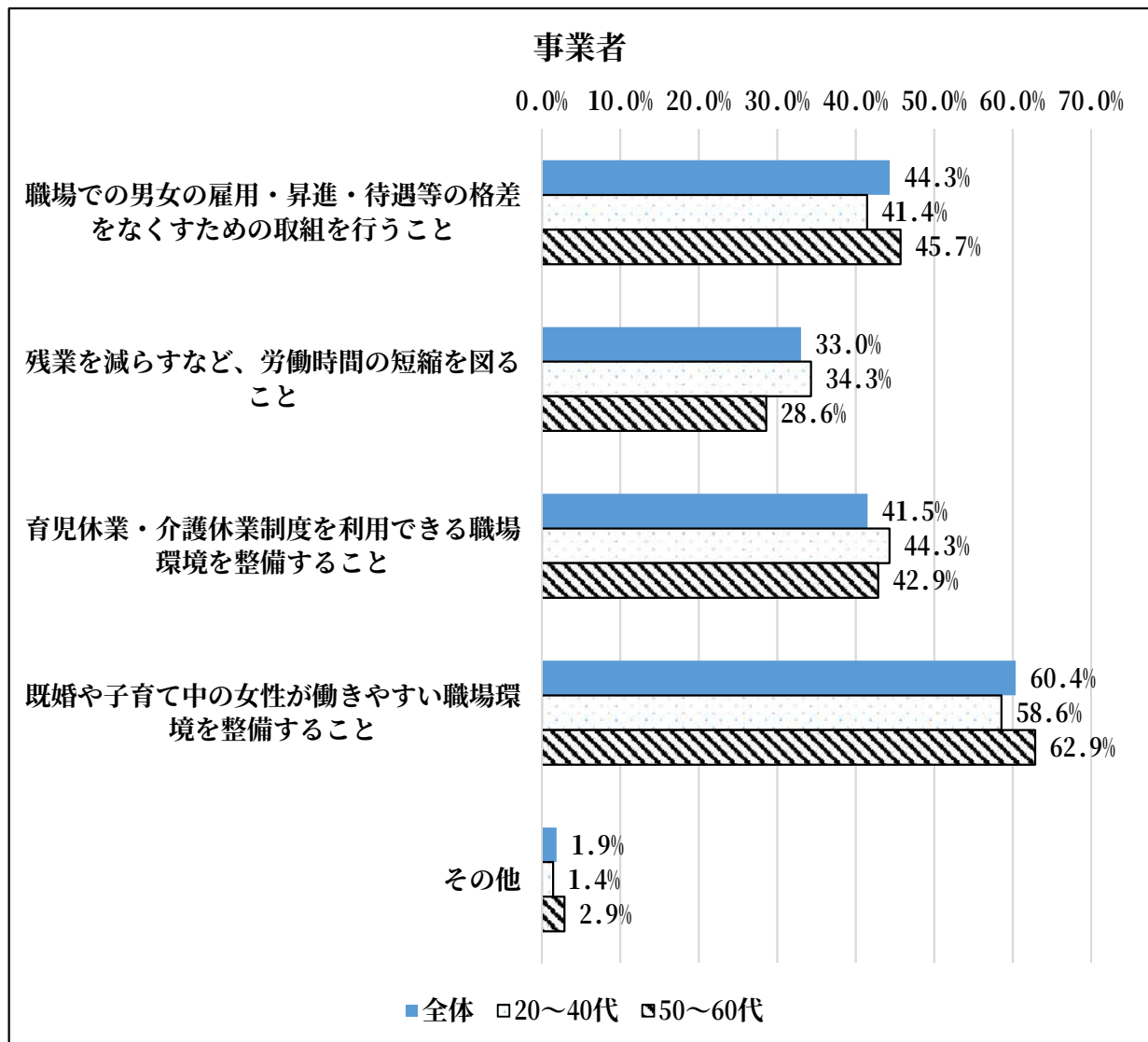
≪全体≫

- ・「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」 48.1%

≪年代別≫

- 20～40代 「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」 47.1%

- 50～60代 「個人の尊厳を傷つけることのないようハラスメント（嫌がらせ、いじめなど）に関する問題意識を持つこと」 51.4%



・「その他」の回答

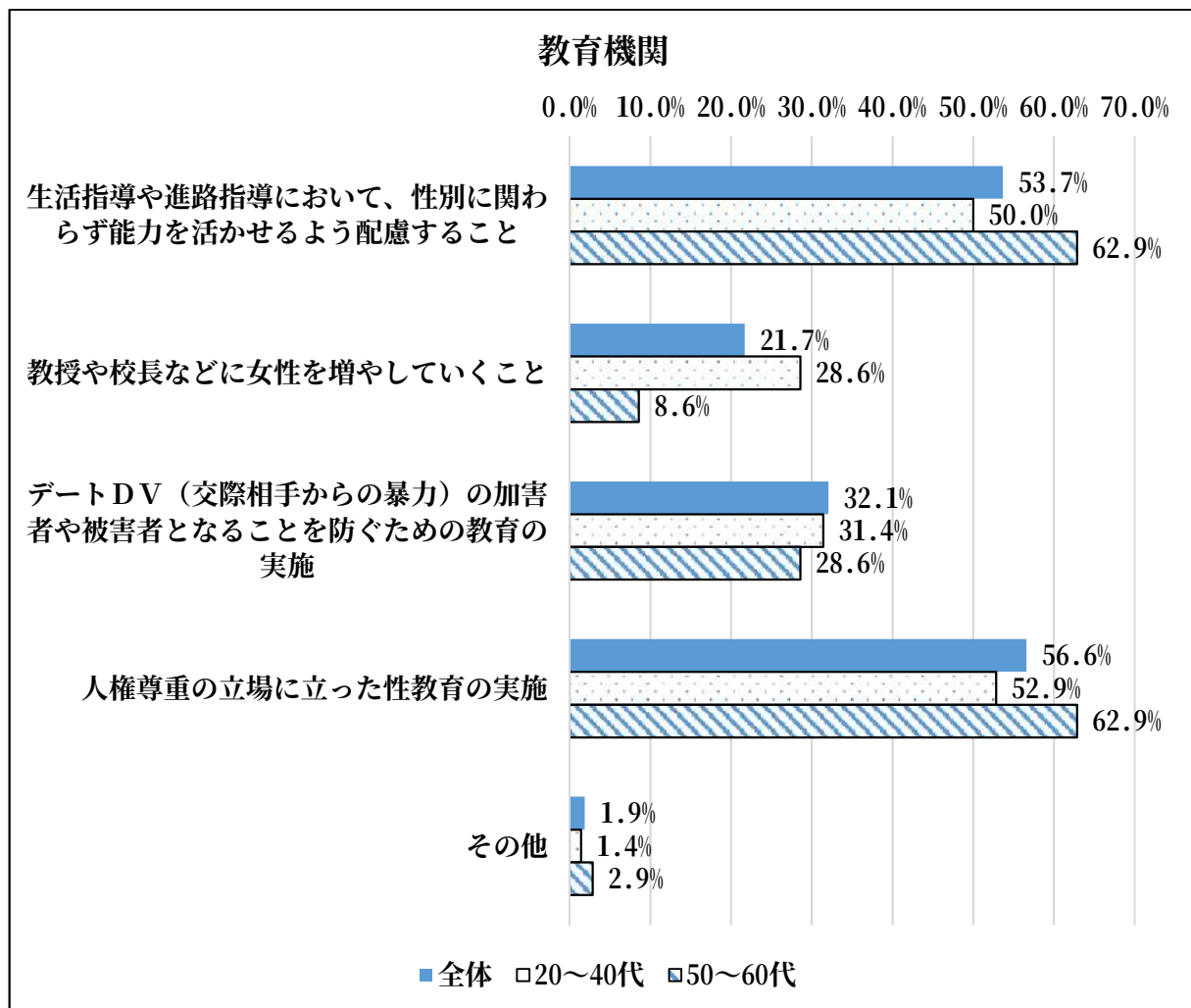
- 社員になれずにパートで働いていると子供の体調で仕事を休む事になると給与に支障が出てしまう。社員（有給）手当他考えてほしい。
- テレワークの活用。

《全体》

- ・「既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備すること」 60.4%

《年代別》

- 20～40代 「既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備すること」 58.6%
- 50～60代 「既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備すること」 62.9%



・「その他」の回答

- 幼児からの習い事にも制度を設けてほしい。
- 教育システムを変えること。

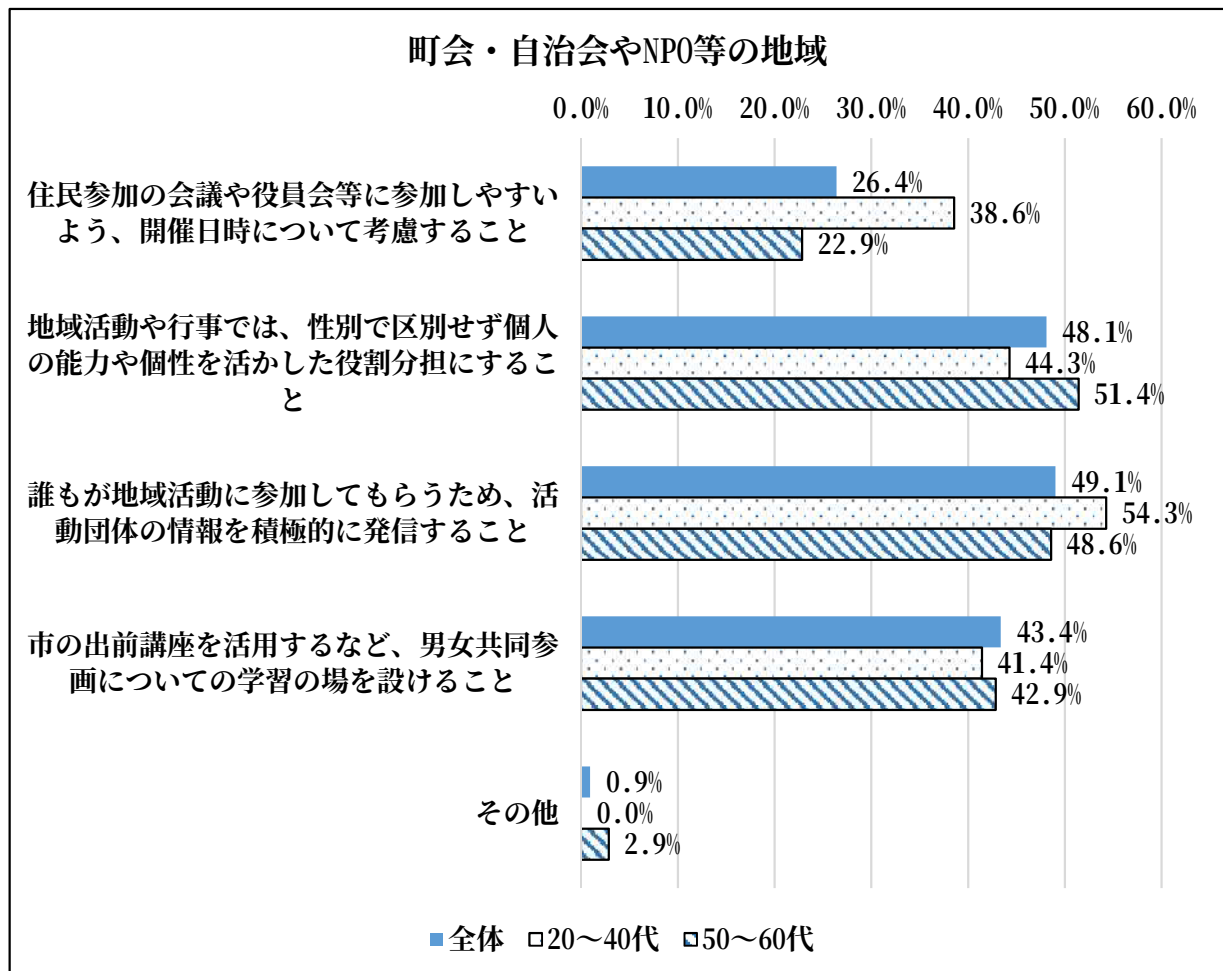
《全体》

- ・「人権尊重の立場に立った性教育の実施」 56.6%

《年代別》

- 20~40代 「人権尊重の立場に立った性教育の実施」 52.9%

- 50~60代 「生活指導や進路指導において、性別に関わらず能力を活かせるよう配慮すること」「人権尊重の立場に立った性教育の実施」 62.9%



・「その他」の回答

- 町会・自治会の人をターゲットに学習の場を設けては。避難所や防災には女性その他の方々の視点が必要。

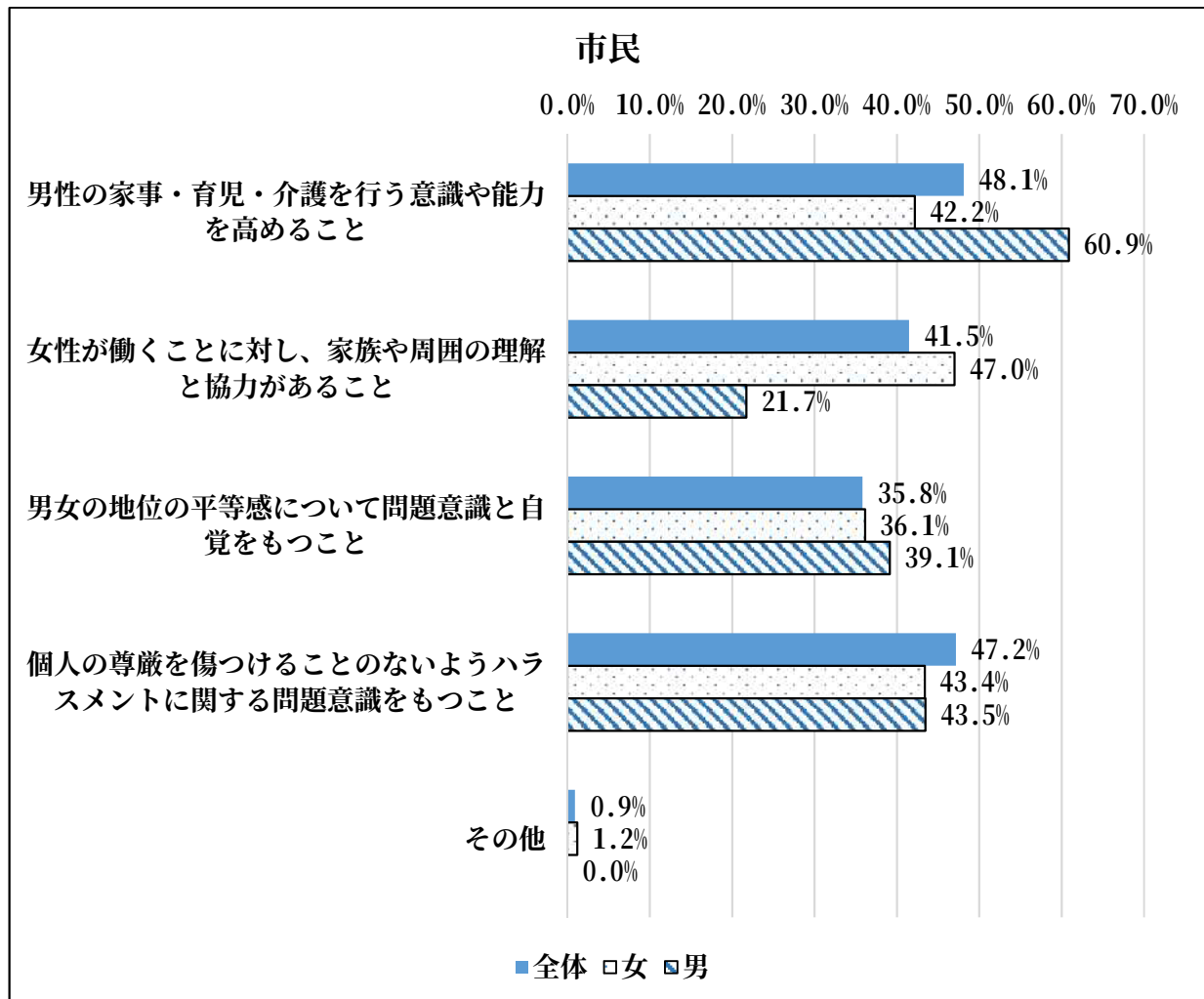
《全体》

- ・「誰もが地域活動に参加してもらうため、活動団体の情報を積極的に発信すること」 49.1%

《年代別》

- 20～40代 「誰もが地域活動に参加してもらうため、活動団体の情報を積極的に発信すること」 54.3%
- 50～60代 「地域活動や行事では、性別で区別せず個人の能力や個性を活かした役割分担にすること」 51.4%

《全体・男女別》



・「その他」の回答

- 社会的なシステムをつくること。

《全体》

- ・「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」 48.1%

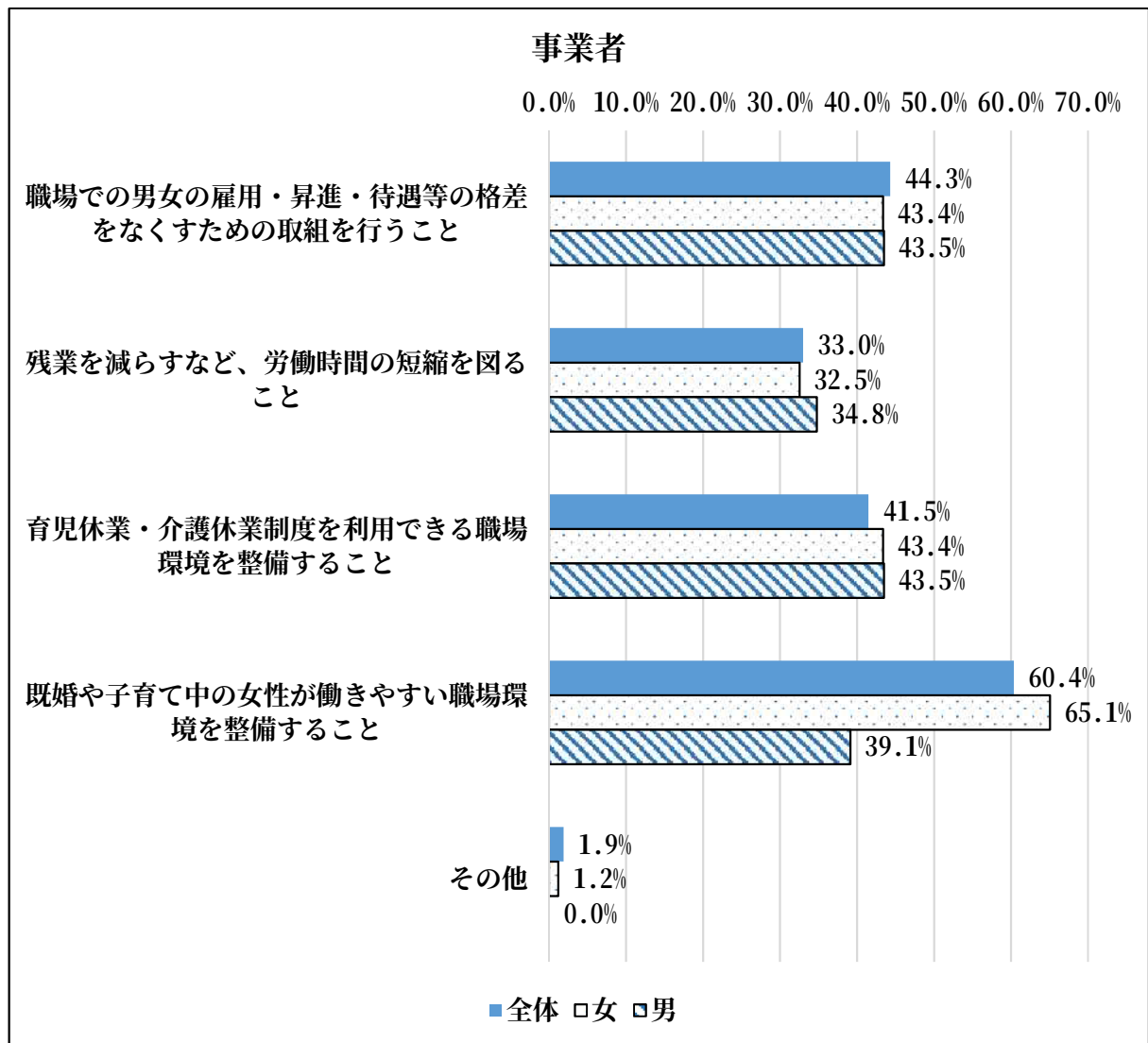
《男女別》

■ 女性

- ・「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」 47.0%

■ 男性

- ・「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」 60.9%



・「その他」の回答

- 社員になれずにパートで働いていると子供の体調で仕事を休む事になると給与に支障が出てしまう。社員（有給）手当他考えてほしい。
- テレワークの活用。

《全体》

- ・「既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備すること」 60.4%

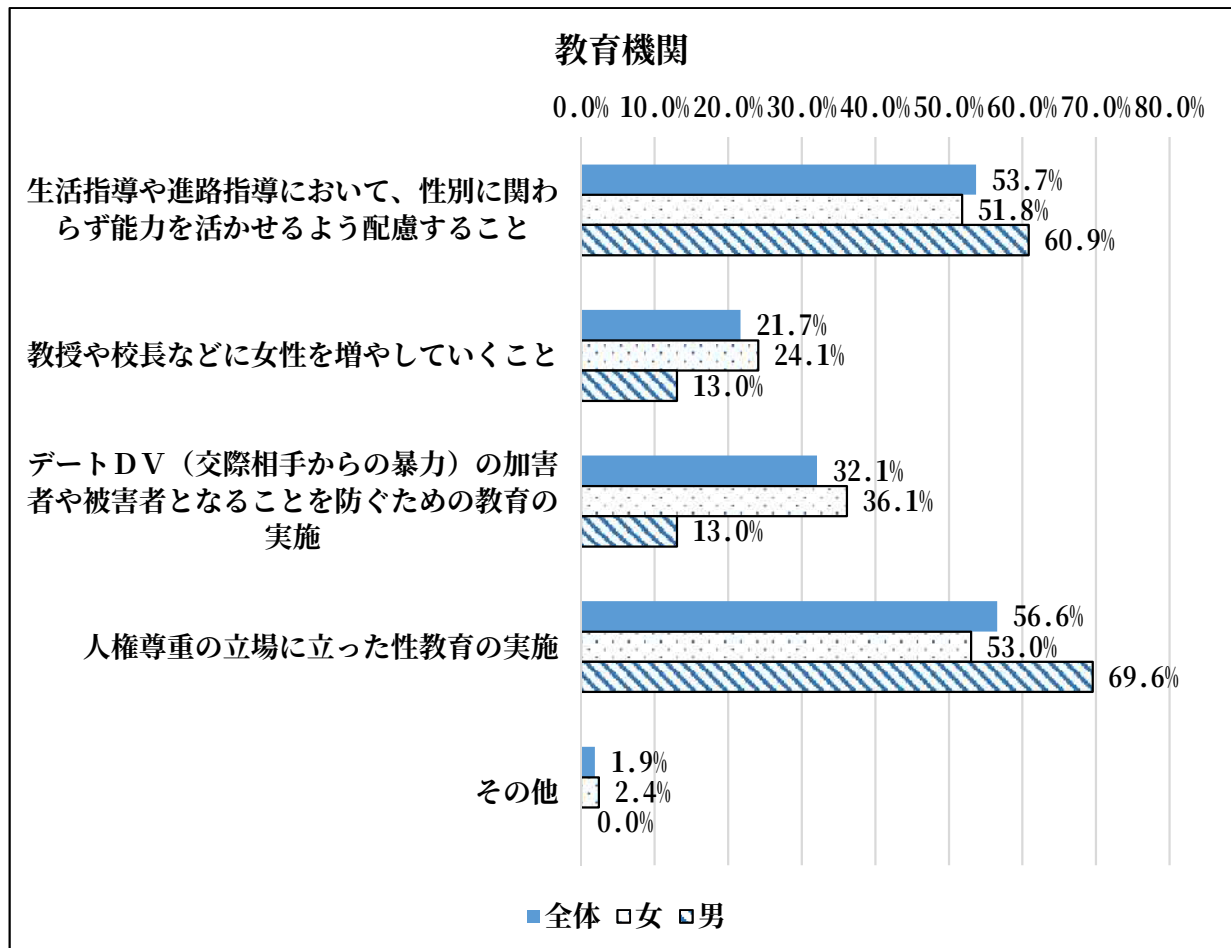
《男女別》

■ 女性

- ・「既婚や子育て中の女性が働きやすい職場環境を整備すること」 65.1%

■ 男性

- ・「職場での男女の雇用・昇進・待遇等の格差をなくすための取組を行うこと」 43.5%
- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」 43.5%



・「その他」の回答

- 幼児からの習い事にも制度を設けてほしい。
- 教育システムを変えること。

《全体》

- ・「人権尊重の立場に立った性教育の実施」 56.6%

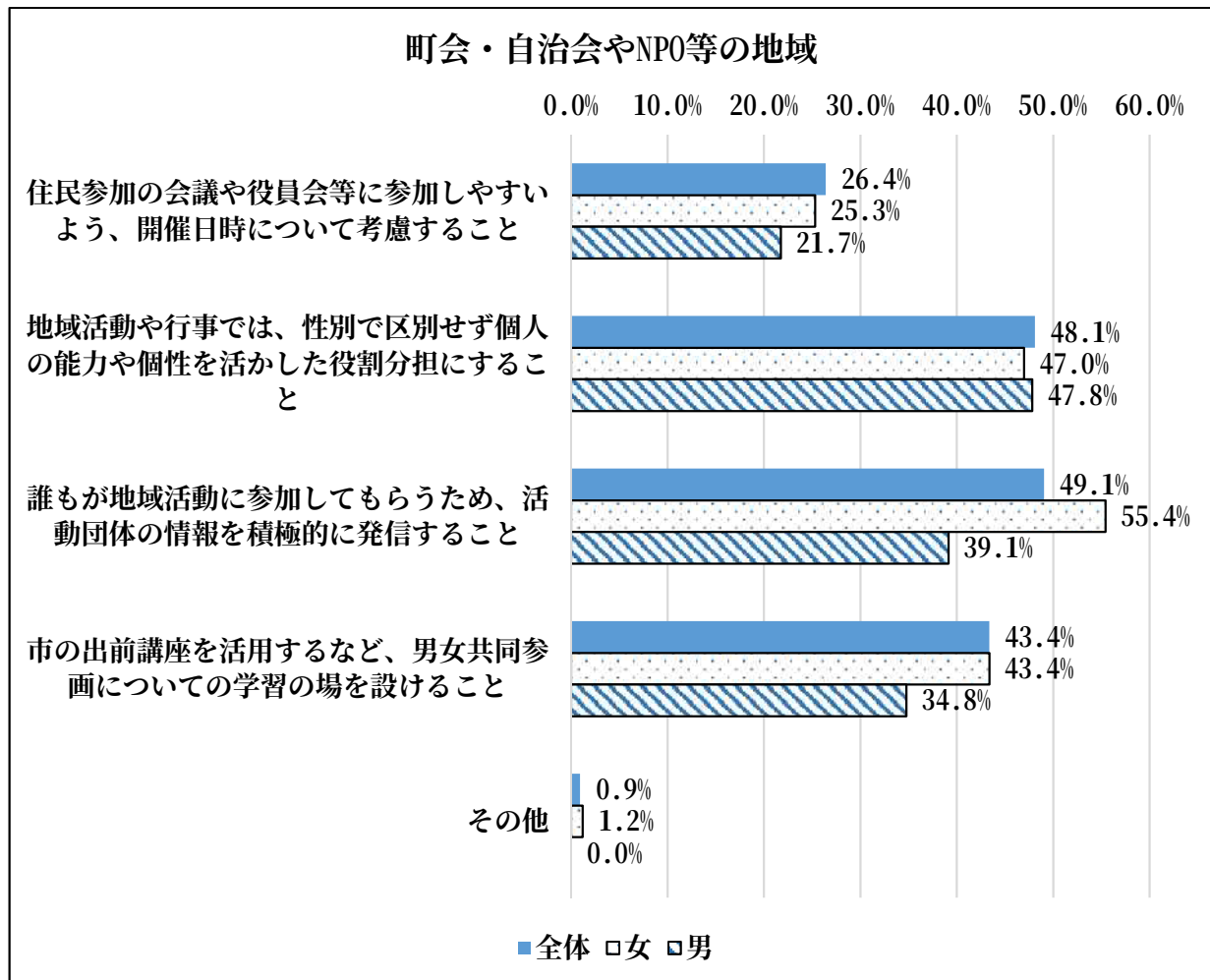
《男女別》

■ 女性

- ・「人権尊重の立場に立った性教育の実施」 53.0%

■ 男性

- ・「人権尊重の立場に立った性教育の実施」 69.6%



・「その他」の回答

- 町会・自治会の人をターゲットに学習の場を設けては。避難所や防災には女性その他の方々の視点が必要。

《全体》

- ・「誰もが地域活動に参加してもらうため、活動団体の情報を積極的に発信すること」 49.1%

《男女別》

■ 女性

- ・「誰もが地域活動に参加してもらうため、活動団体の情報を積極的に発信すること」 55.4%

■ 男性

- ・「地域活動や行事では、性別で区別せず個人の能力や個性を活かした役割分担にすること」 47.8%

1 ワークショップ全体を通じて、ご自身の生活の中で実践してみようと思ったこと 【抜粋】

家庭	・家庭内での分担について自分の家庭を振り返り、性別に偏りがないようにしていきたい。自分の身近にある出来事を当たり前と思わずにもう一度見直したい。 ・自分が家庭を築いた時に、性別関係なく家事育児をどう分担するかを考えること。 ・自分が子育てするようになったら、ジェンダー観について夫婦で話し合いたい。 ・将来、自分の子どもの将来への影響を考えて、夫婦で協力して楽しく「お手伝い」を身に付けさせ、家庭の性別役割分担の垣根を減らしたい。
学校	・友人や身近な人に男女共同参画社会の実現が必要であることを共有したい。 ・学校や職場における男女共同参画の課題について気付いていないと感じた。物事への意識を高めて生活したい。
地域・社会	・自分自身、地域の状況をあまり把握していないと感じた。地域の活動に積極的に参加して、社会の状況を知る姿勢を作りたい。 ・身近な八王子市にも着目して調べていきたい。 ・アルバイトの労働環境等への意識をさらに高めたい。 ・就職活動においても、企業の働き方や人を見るという点が大切ということを改めて感じた。 ・企業の様々な制度について調べてみたい。
その他	・フラットな視点から捉えていくことを実践したい。 ・無意識のうちにしていた行動に気づくように意識して行動する。 ・物事を放って置かずに話すことを心掛ける。 ・自己解決できることは自分で行う努力をして、知らないことを自分で学ぶことを大切にしたい。 ・男女共同参画を否定的に捉えず、自分の周りで良い点を見つけることが、今後の社会の明るさに繋がると思う。

2 ワークショップ全体を通じて、より詳しく知りたいことがあればお書きください。(自由記述)
【抜粋】

家庭	・家庭内の性別役割分業や、育休・産休に対する意識。 ・家事をする男性はどれくらいいるのか。 ・共働きでの家事分業の状況、男性が家事をしない理由（性別役割分担意識以外で）。 ・男性に焦点を当て、男女共同参画が進んできた点・課題点について。 ・本当の意味で平等に扱われるライフスタイルとは具体的にどんなものか。 ・共働きで働きたいと思っても、収入面で男性に頼ることになるだろうし、男性から専業主夫になりたいと言われたら悩む女性は多いのか、それにはどんな背景があるのか。
学校	・学校では男女共同参画や性別役割についてどんな教育がされているのか。また、社会変動に伴ってどんな工夫がされているのか。 ・教育機関において、評価されている男女平等に向けた取組の例。
地域・社会	・職場における待遇の男女格差は実際にどうなっているのか。 ・今は学生で周りから守られているため男女格差を感じないが、社会人になった時、家庭を持った時にどんな男女差別を受ける可能性があるのか。
市	・男女共同参画における現在の取組内容、どのような効果または改善点があるのか。 ・今後、男女共同参画推進条例についてどう市民に伝えていくのか。
その他	・SOGI などの第三の性について、必要な対策や配慮。 ・現代の若者の、ジェンダーや男女共同参画についての考え。 ・すでに社会に出ている若い世代が、男女共同参画についてどう思っているのか。 ・男女共同参画社会の実現に向け、学生はどのような行動を徹底していくべきか。 ・ジェンダー・ギャップ指数の順位が高い国の政策や歴史の変遷。

2 LINE アンケート 調査結果

実施期間：令和3年3月12日(金)17:00 ～ 令和3年3月21日(日)23:59

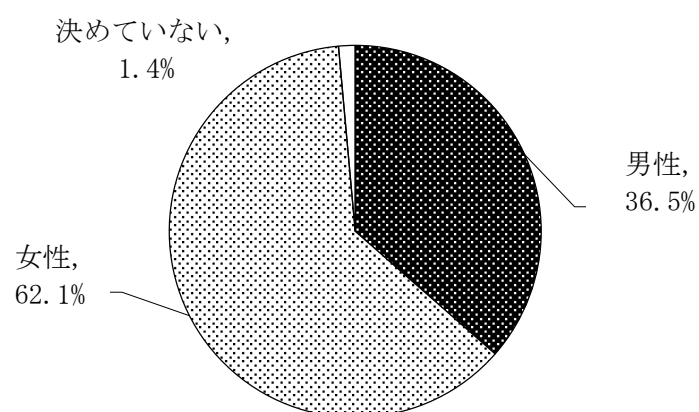
登録者数：5,539人（令和3年3月12日17:00時点）

回答件数：417人（回答率：7.5%）

1 回答者の属性

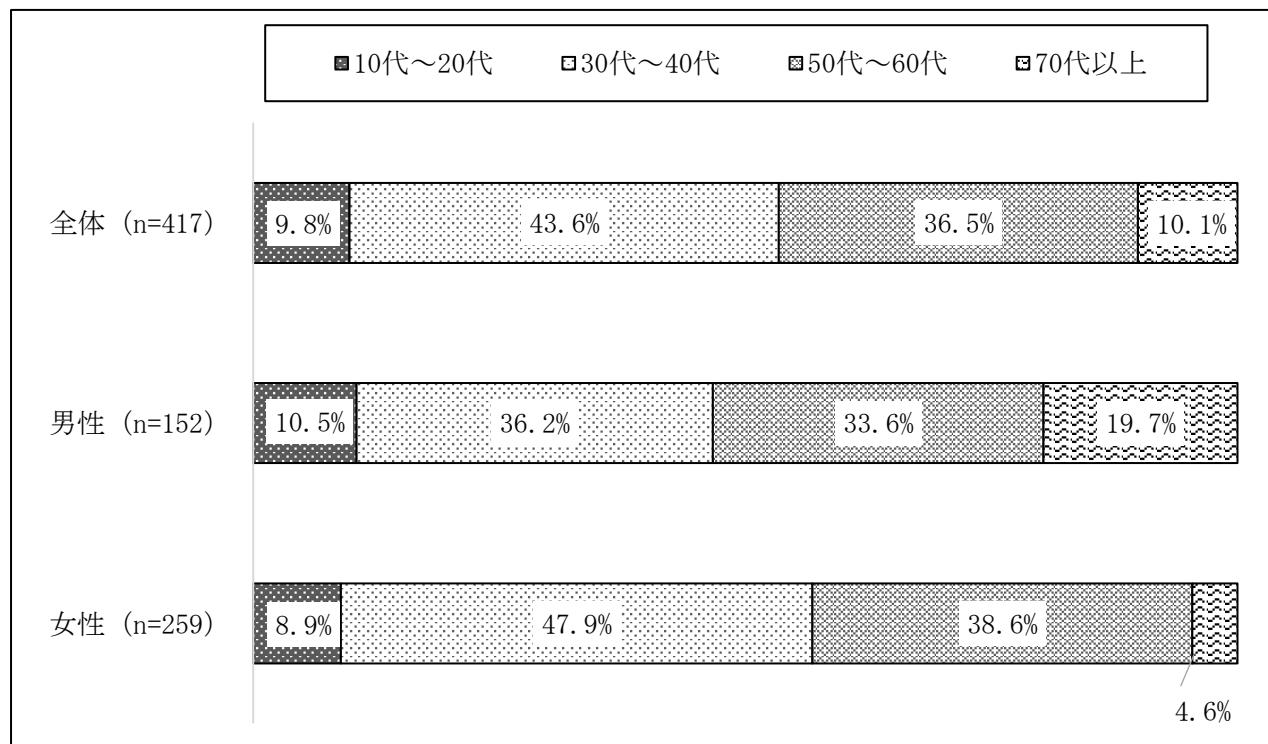
(1) 性別

設問1：あなたの性別を、お聞かせください。（☑は1つ）



(2) 年代

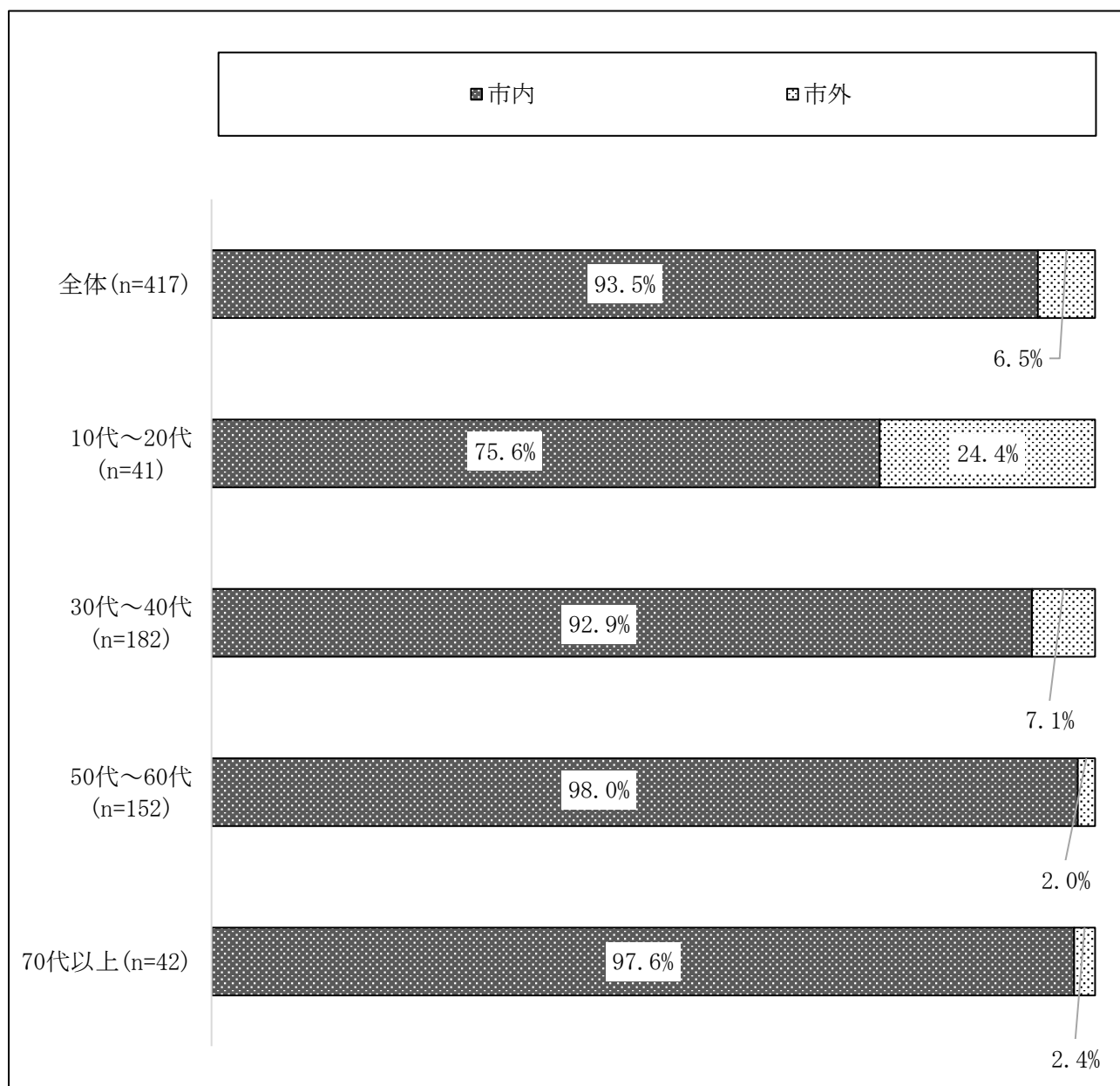
設問2：あなたの年齢を、お聞かせください。（☑は1つ）



(3) 居住地

設問 3：あなたの居住地を、お聞かせください。(☑は1つ)

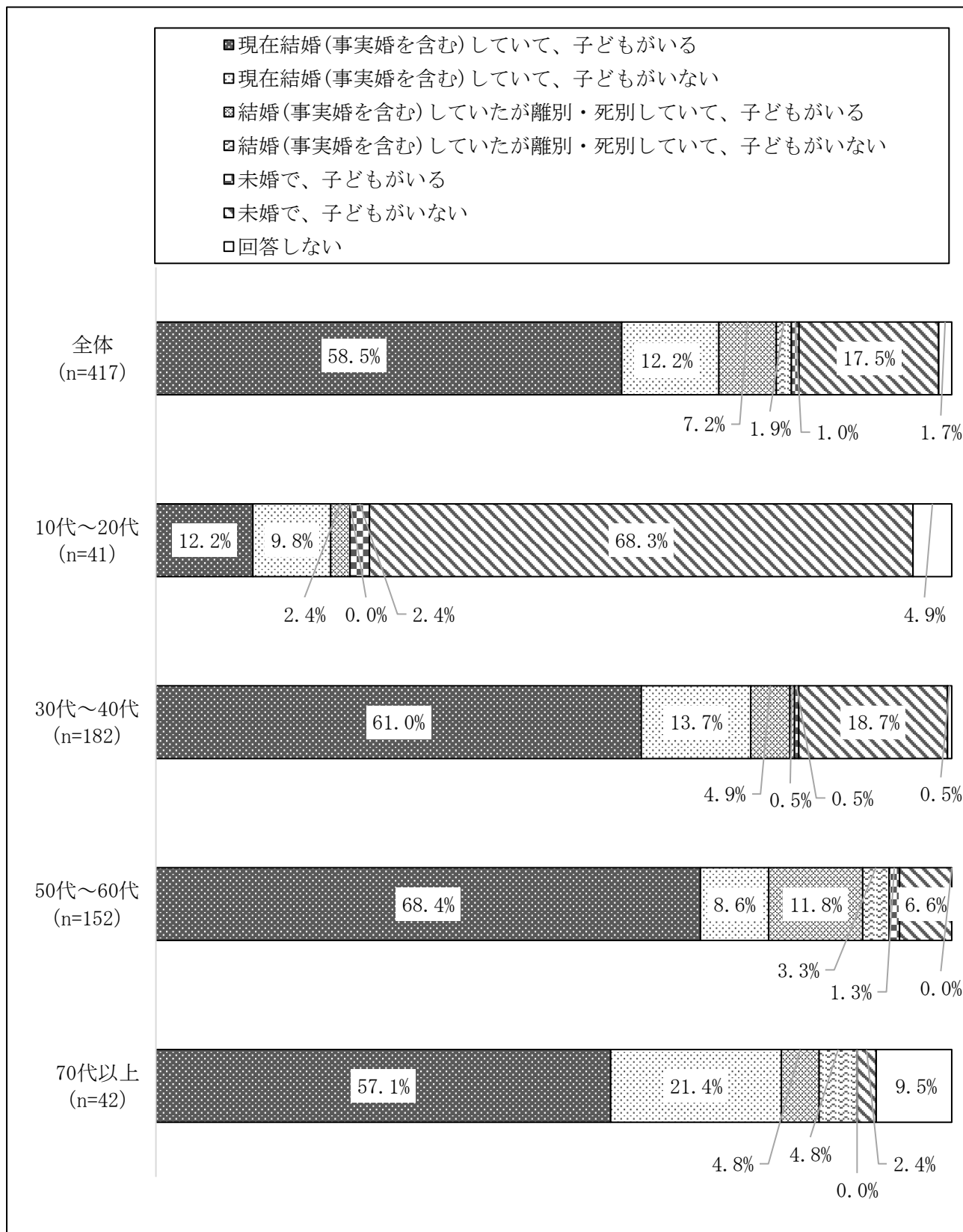
■年代別



(4) 婚姻状況・子どもの有無

設問 4：あなたの家庭について、お聞かせください。同居の有無は問いません。(☑は1つ)

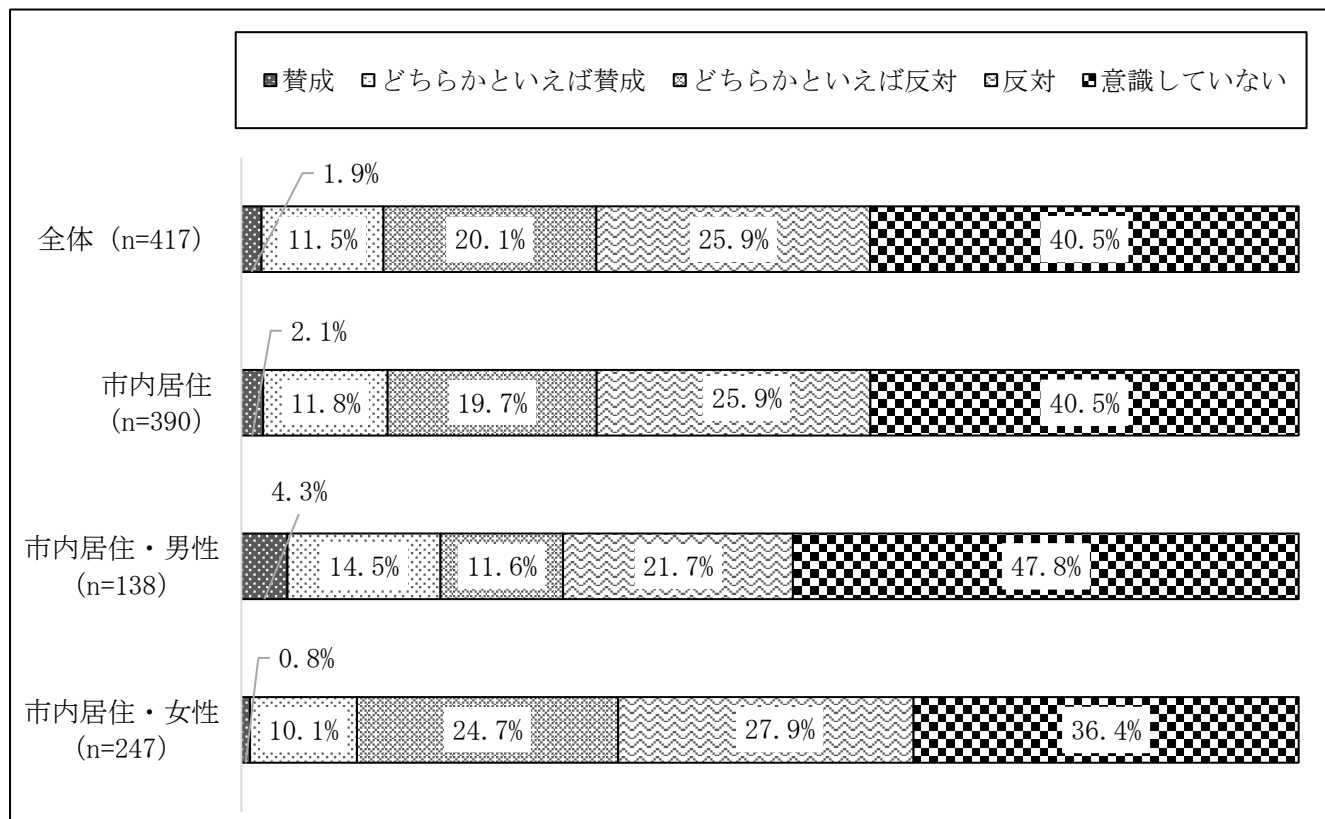
■年代別



2 男女平等意識について

設問 5：あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。(☑は1つ)

■全体、市内居住・性別



全体

- ・「賛成」(1.9%)と「どちらかといえば賛成」(11.5%)を合わせた『賛成(計)』が13.4%。
- ・「どちらかといえば反対」(20.1%)と「反対」(25.9%)を合わせた『反対(計)』が46.0%。
- ・「意識していない」は40.5%。

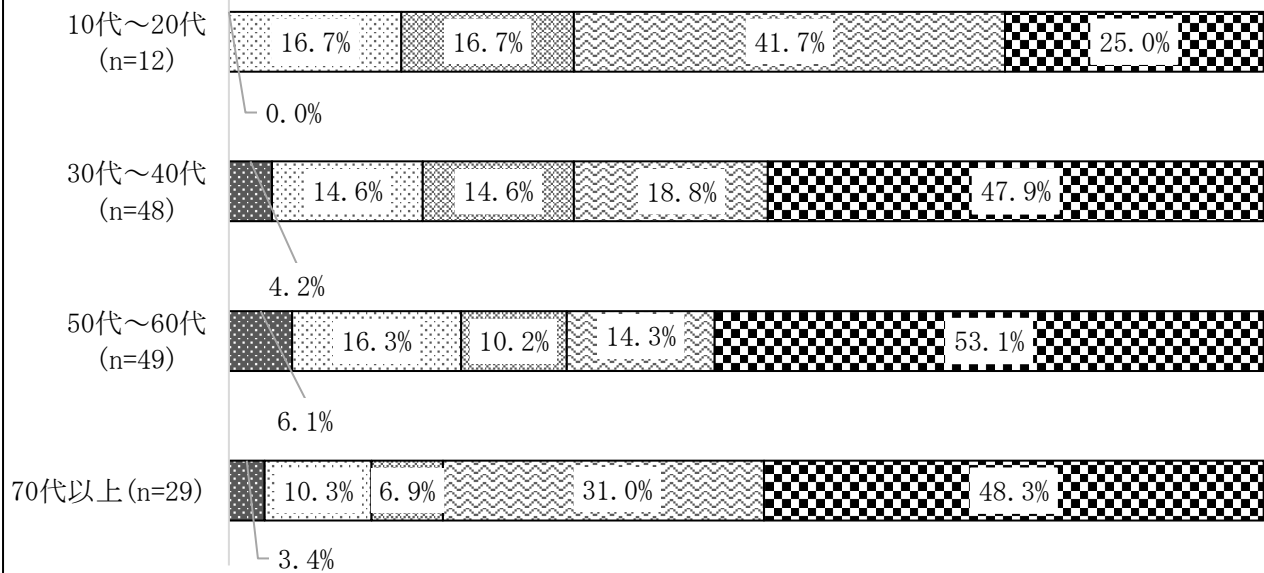
市内居住のうち性別

- ・『賛成(計)』は男性(18.8%)が女性(10.9%)より7.9ポイント高い。
- ・『反対(計)』は女性(52.6%)が男性(33.3%)より19.3ポイント高い。
- ・「意識していない」は男性(47.8%)が女性(36.4%)より11.4ポイント高い。

■市内居住・性・年代別

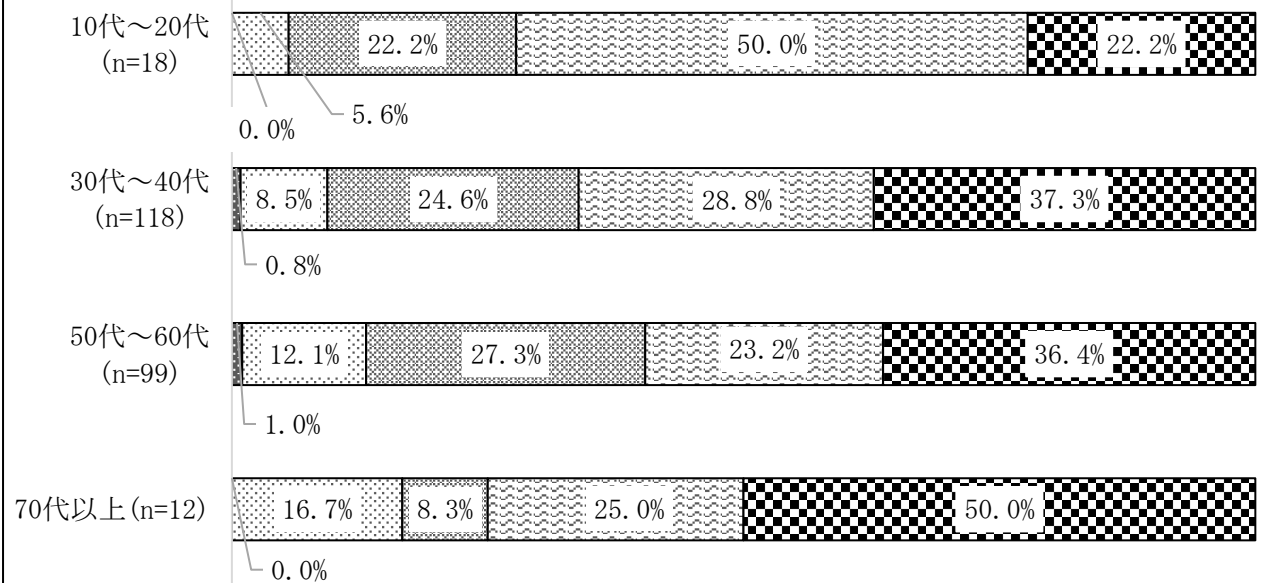
【男性】

■賛成 □どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 □反対 ■意識していない



【女性】

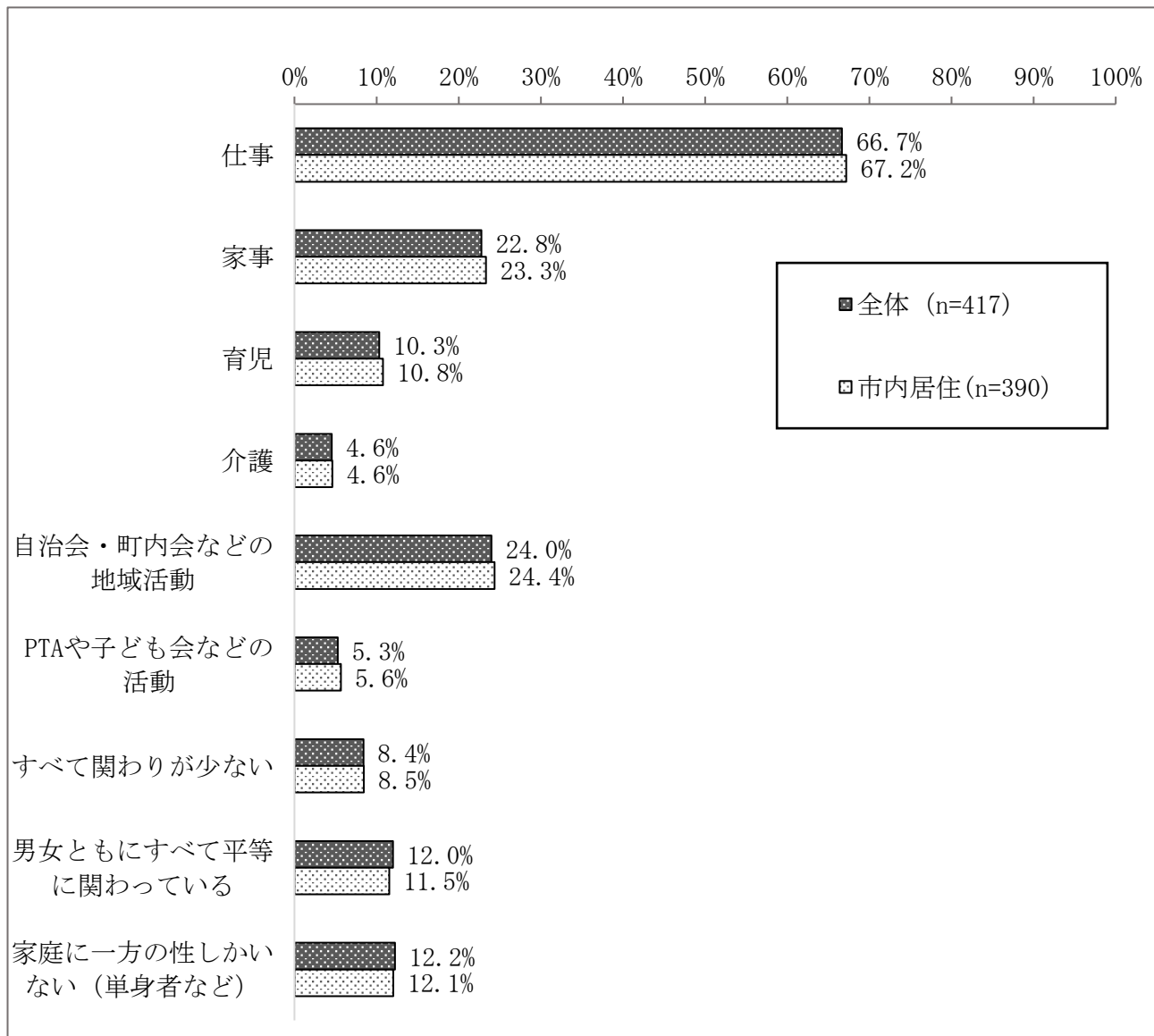
■賛成 □どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 □反対 ■意識していない



3 男性の家庭生活の関わり方の実態

設問6：あなたの家庭で、**男性**がより多く関わっているものはどれですか。（☑は複数可）

■全体、市内居住



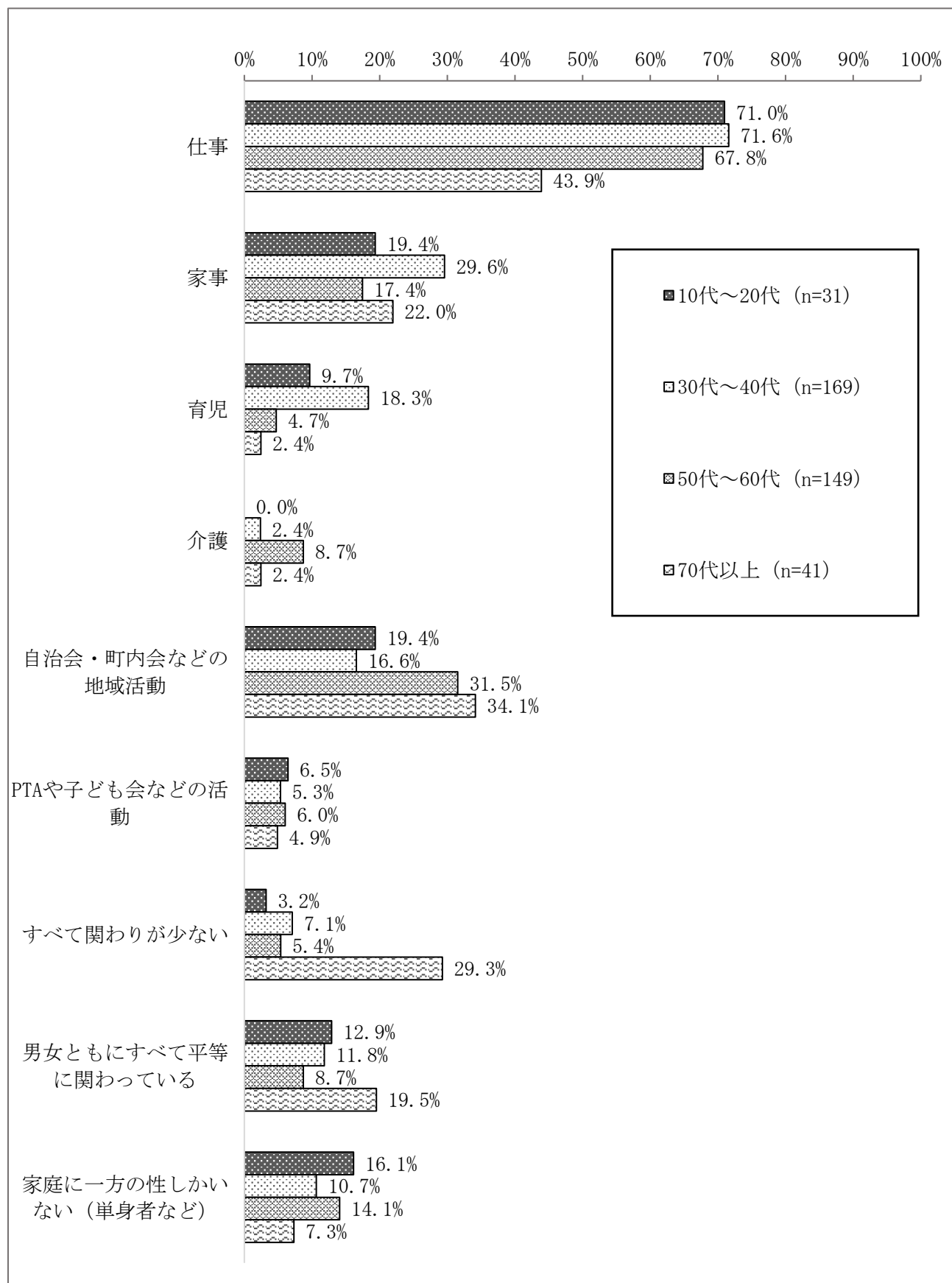
全体

- ・「仕事」(66.7%)
- ・「自治会・町内会などの地域活動」(24.0%)
- ・「家事」(22.8%)

市内居住

- ・「仕事」(67.2%)
- ・「自治会・町内会などの地域活動」(24.4%)
- ・「家事」(23.3%)

■市内居住、年代別



10代～20代

- ・「仕事」(71.0%)
- ・「家事」(19.4%)
- ・「自治会・町内会などの地域活動」(19.4%)

30代～40代

- ・「仕事」(71.6%)
- ・「家事」(29.6%)
- ・「育児」(18.3%)

50代～60代

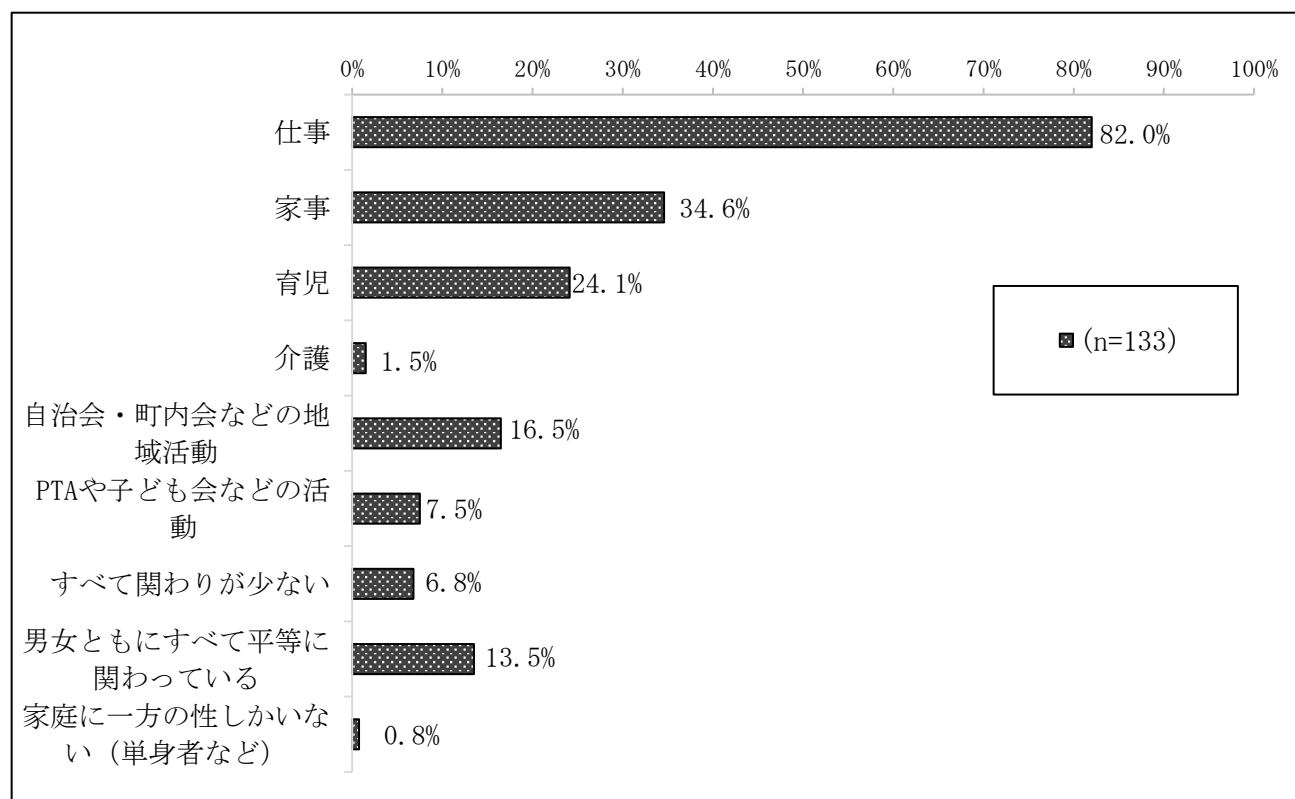
- ・「仕事」(67.8%)
- ・「自治会・町内会などの地域活動」(31.5%)
- ・「家事」(17.4%)

70代以上

- ・「仕事」(43.9%)
- ・「自治会・町内会などの地域活動」(34.1%)
- ・「すべて関わりが少ない」(29.3%)

■市内居住の10代～20代及び30代～40代のうち、

設問4で子どもの有無に関わらず「現在結婚（事実婚含む）している」と回答

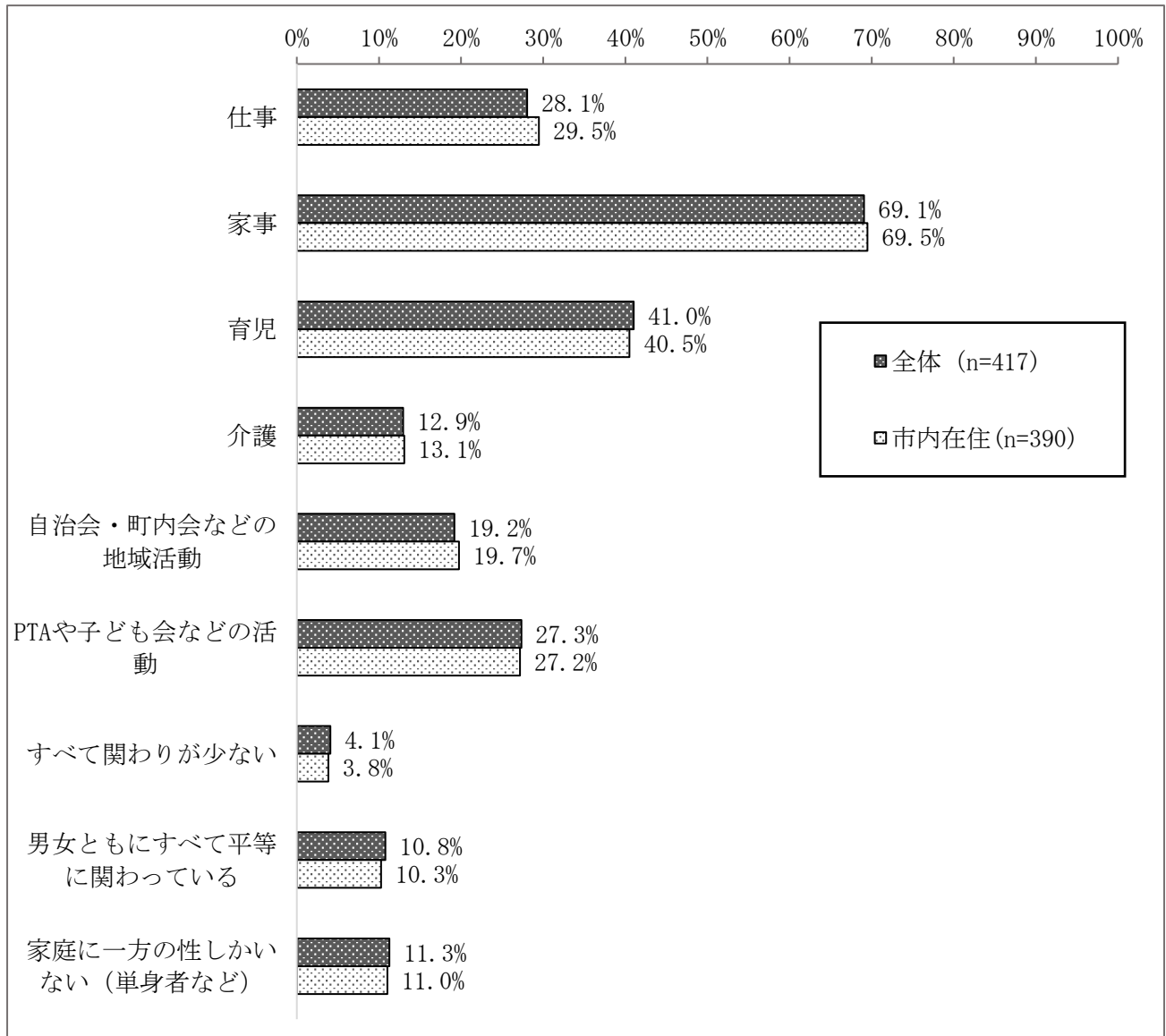


- ・「仕事」(82.0%)
- ・「家事」(34.6%)
- ・「育児」(24.1%)

4 女性の家庭生活の関わり方の実態

設問7：あなたの家庭で、**女性**がより多く関わっているものはどれですか。（☒は複数可）

■全体、市内居住



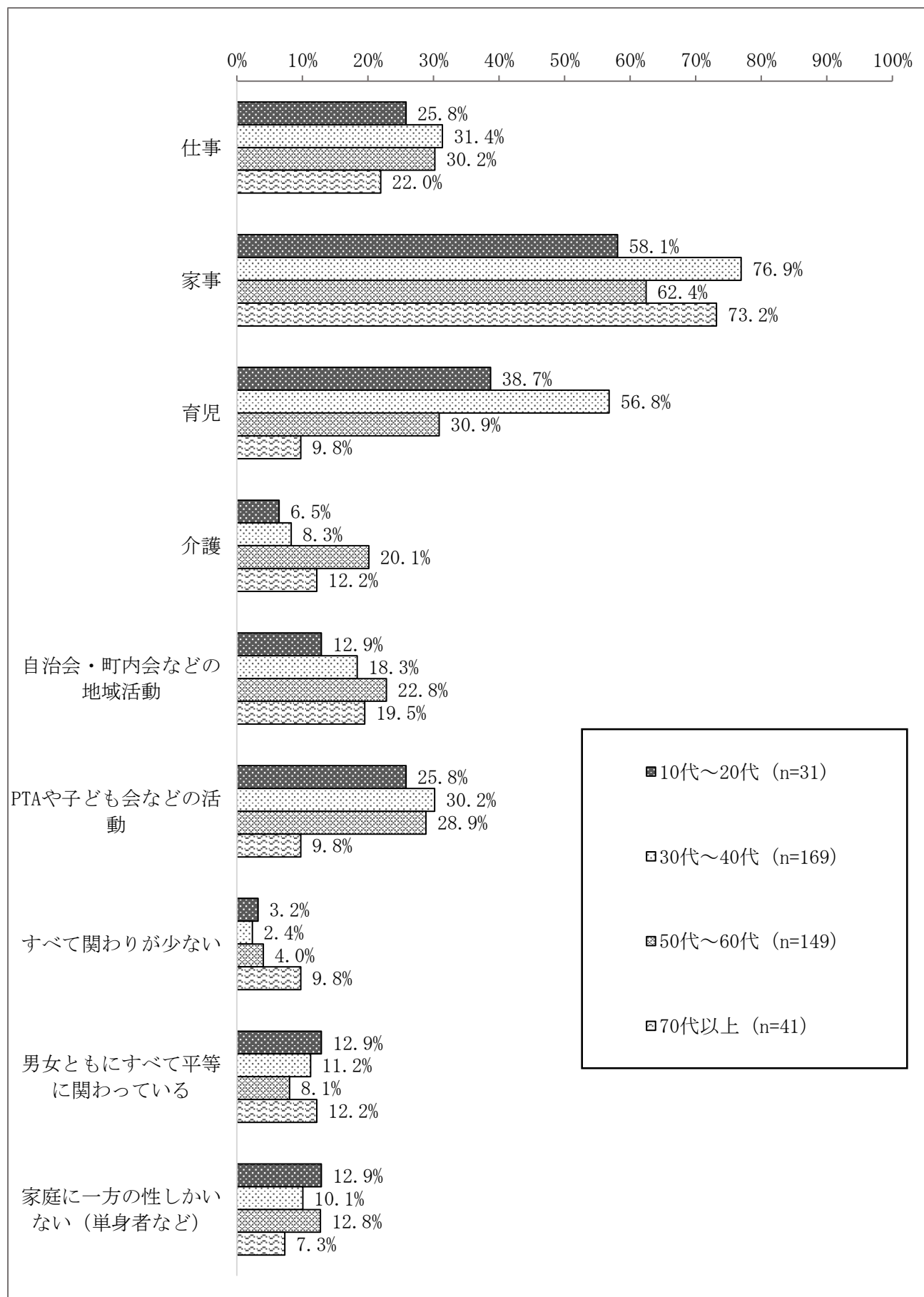
全体

- ・「家事」(69.1%)
- ・「育児」(41.0%)
- ・「仕事」(28.1%)

市内居住

- ・「家事」(69.5%)
- ・「育児」(40.5%)
- ・「仕事」(29.5%)

■市内居住、年代別



10代～20代

- ・「家事」(58.1%)
- ・「育児」(38.7%)
- ・「仕事」及び「PTA や子ども会などの活動」(ともに 25.8%)

30代～40代

- ・「家事」(76.9%)
- ・「育児」(56.8%)
- ・「仕事」(31.4%)

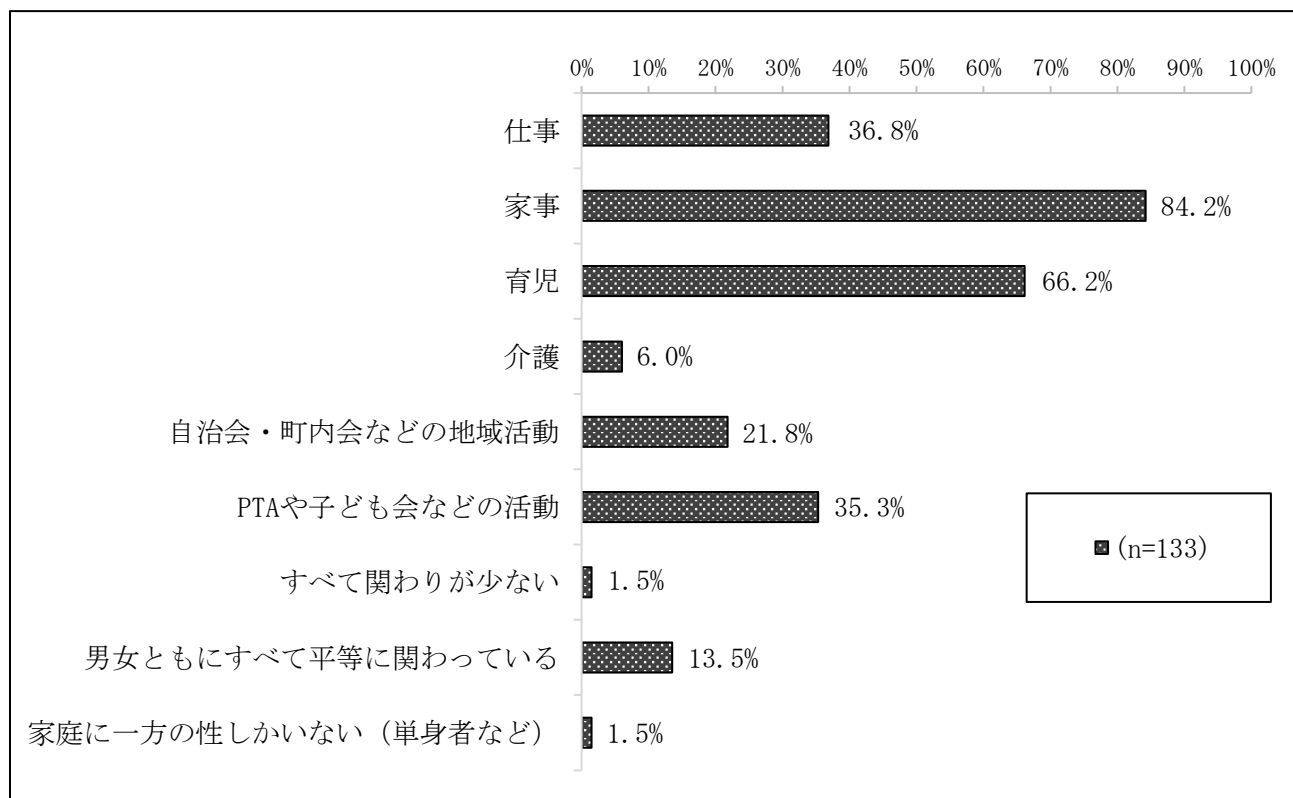
50代～60代

- ・「家事」(62.4%)
- ・「育児」(30.9%)
- ・「仕事」(30.2%)

70代以上

- ・「家事」(73.2%)
- ・「仕事」(22.0%)
- ・「自治会・町内会などの地域活動」(19.5%)

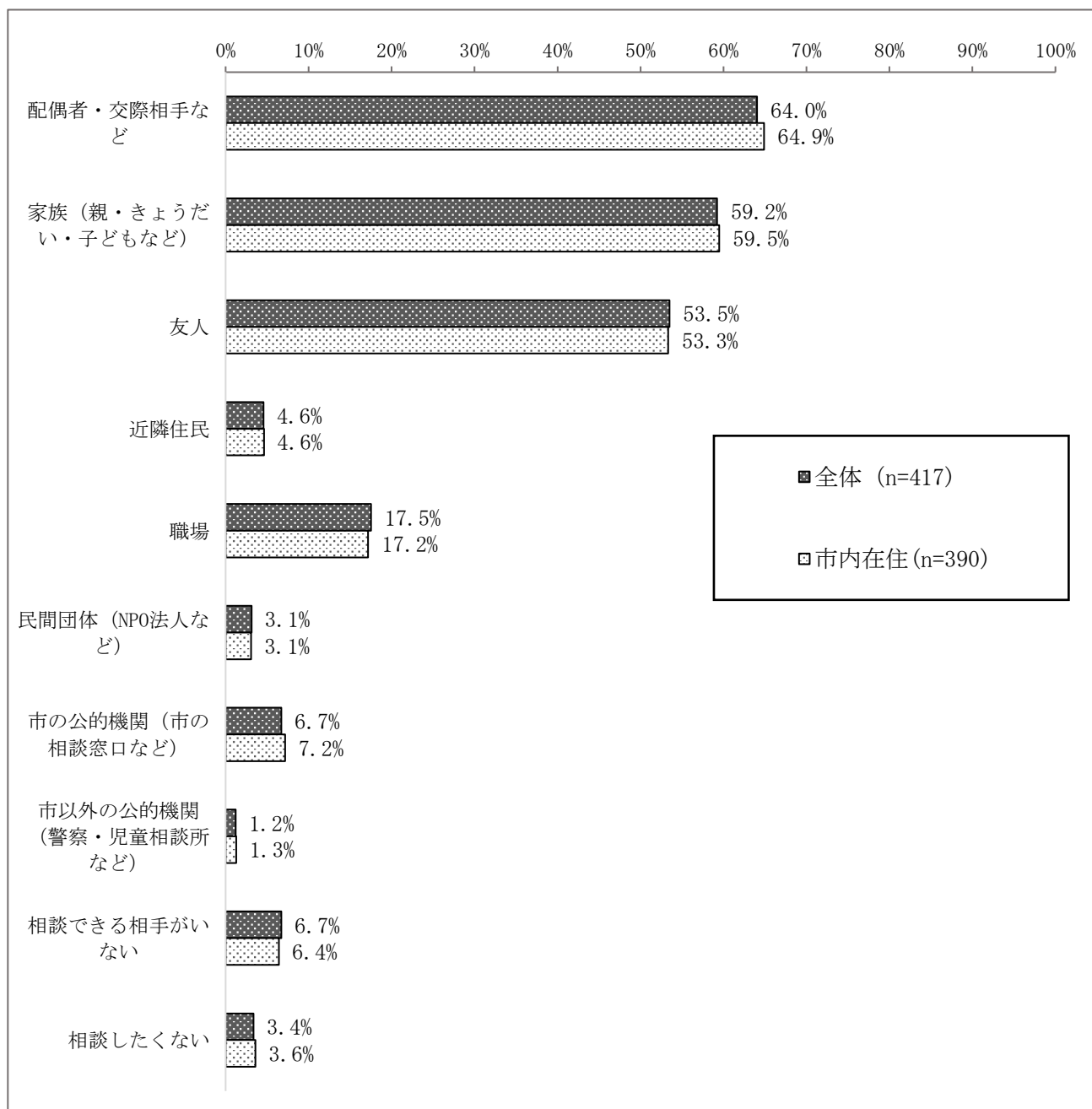
■市内居住の 10代～20代及び30代～40代のうち、
設問4で子どもの有無に関わらず「現在結婚（事実婚含む）している」と回答



- ・「家事」(84.2%)
- ・「育児」(66.2%)
- ・「仕事」(36.8%)

5 相談先

設問8：あなたは、悩みや困りごとがあるとき、どこに相談しますか。(☑は複数可)



全体

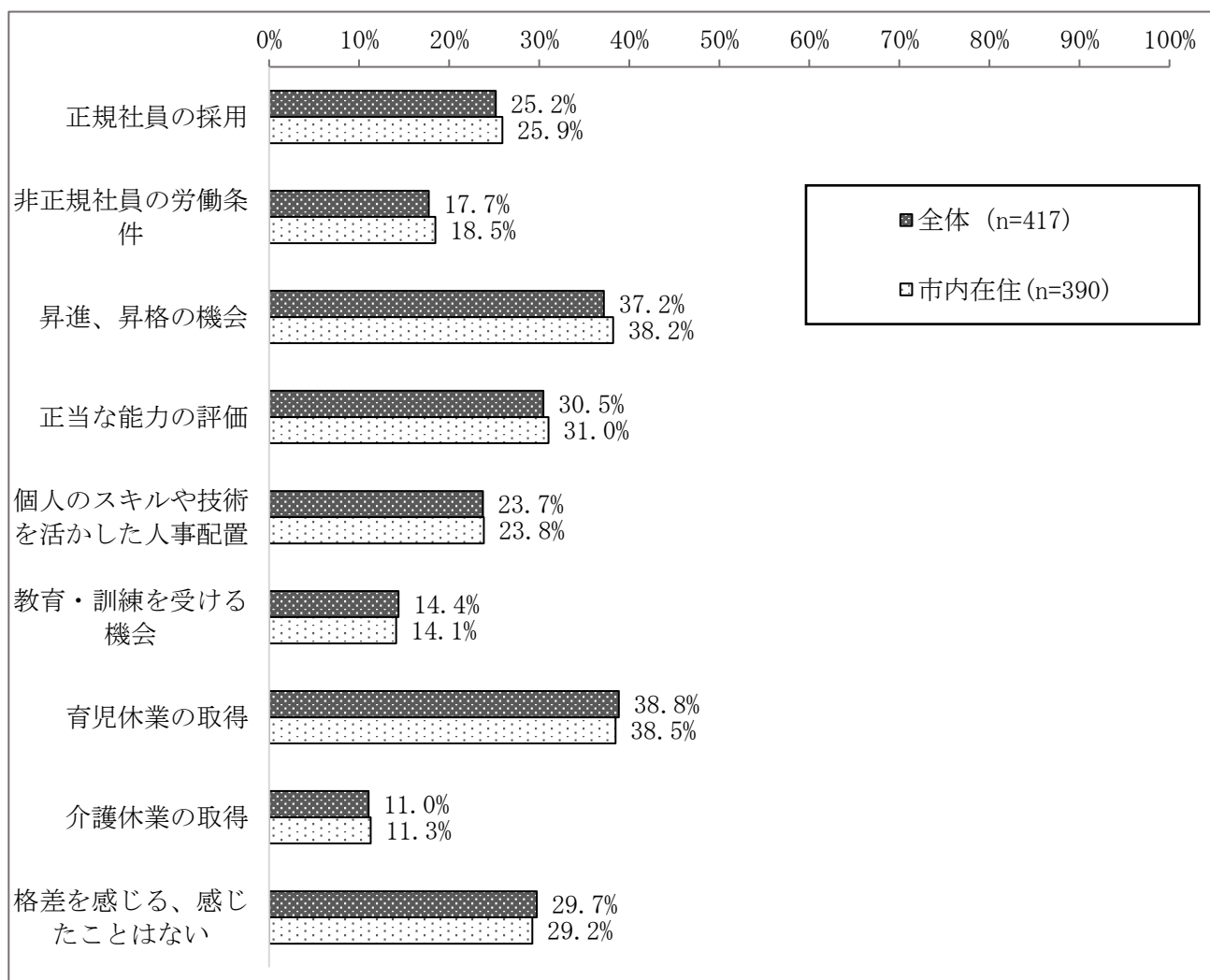
- ・「配偶者・交際相手など」(64.0%)
- ・「家族（親・きょうだい・子どもなど）」(59.2%)
- ・「友人」(53.5%)

市内居住

- ・「配偶者・交際相手など」(64.9%)
- ・「家族（親・きょうだい・子どもなど）」(59.5%)
- ・「友人」(53.3%)

6 職場における格差

設問9：あなたは、仕事内容や待遇面などで、男女格差を感じる、感じたことはありますか。(☑は複数可)



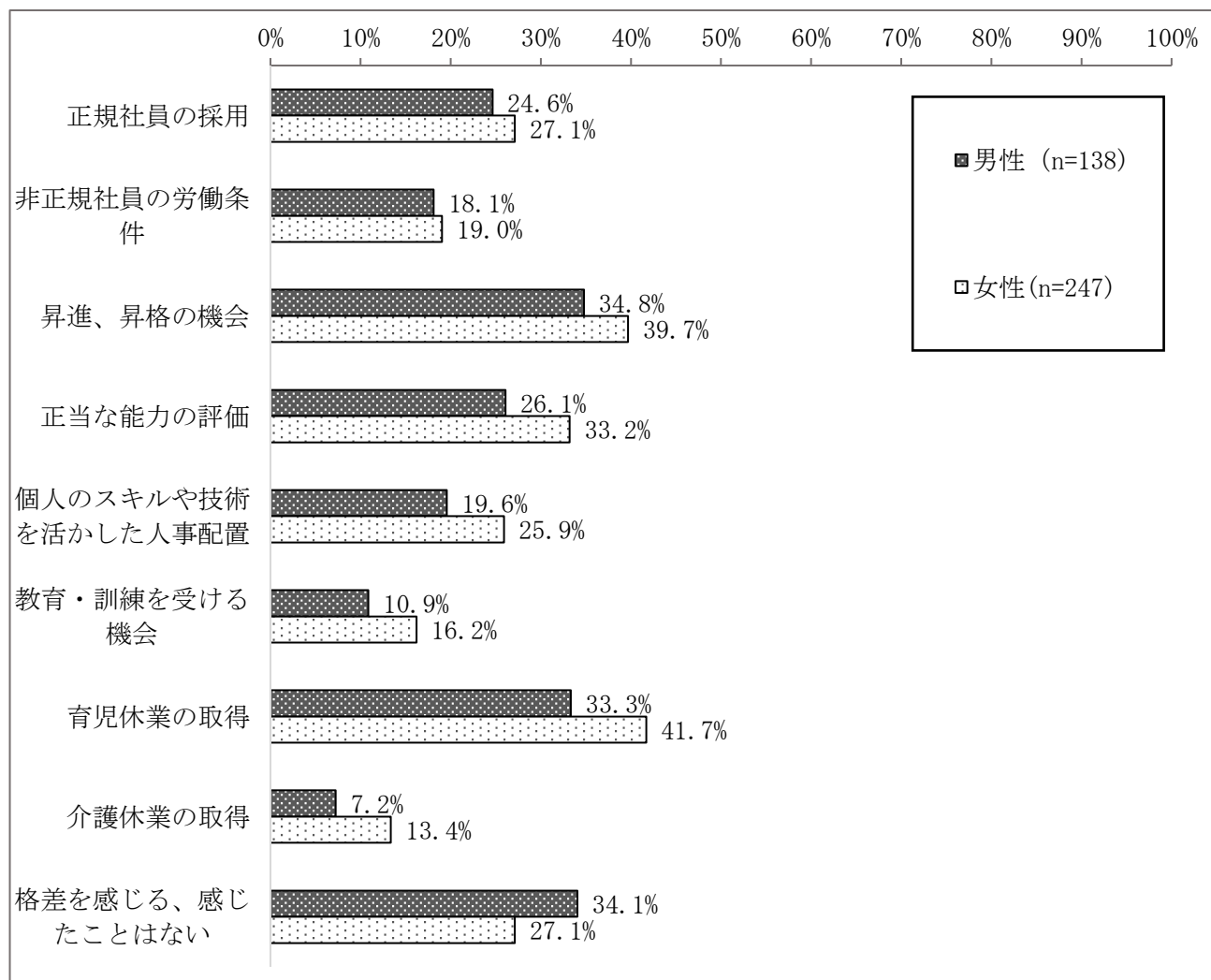
全体

- ・「育児休業の取得」(38.8%)
- ・「昇進、昇格の機会」(37.2%)
- ・「正当な能力の評価」(30.5%)

市内居住

- ・「育児休業の取得」(38.5%)
- ・「昇進、昇格の機会」(38.2%)
- ・「正当な能力の評価」(31.0%)

■市内居住、性別



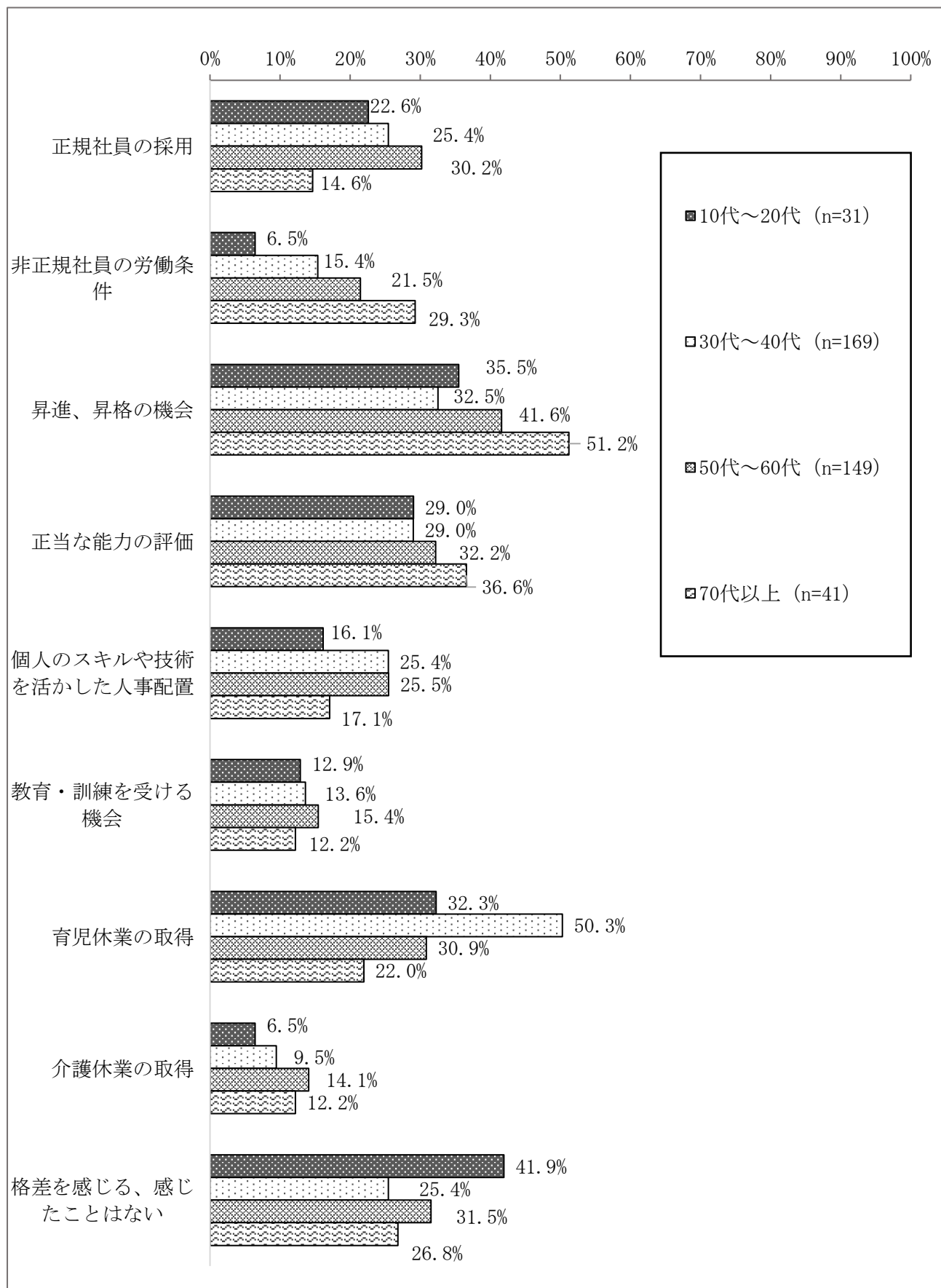
男性

- ・「昇進、昇格の機会」(34.8%)
- ・「格差を感じる、感じたことはない」(34.1%)
- ・「育児休業の取得」(33.3%)

女性

- ・「育児休業の取得」(41.7%)
- ・「昇進、昇格の機会」(39.7%)
- ・「正当な能力の評価」(33.2%)

■市内居住、年代別



10代～20代

- ・「格差を感じる、感じたことはない」(41.9%)
- ・「昇進・昇格の機会」(35.5%)
- ・「育児休業の取得」(32.3%)

30代～40代

- ・「育児休業の取得」(50.3%)
- ・「昇進・昇格の機会」(32.5%)
- ・「正当な能力の評価」(29.0%)

50代～60代

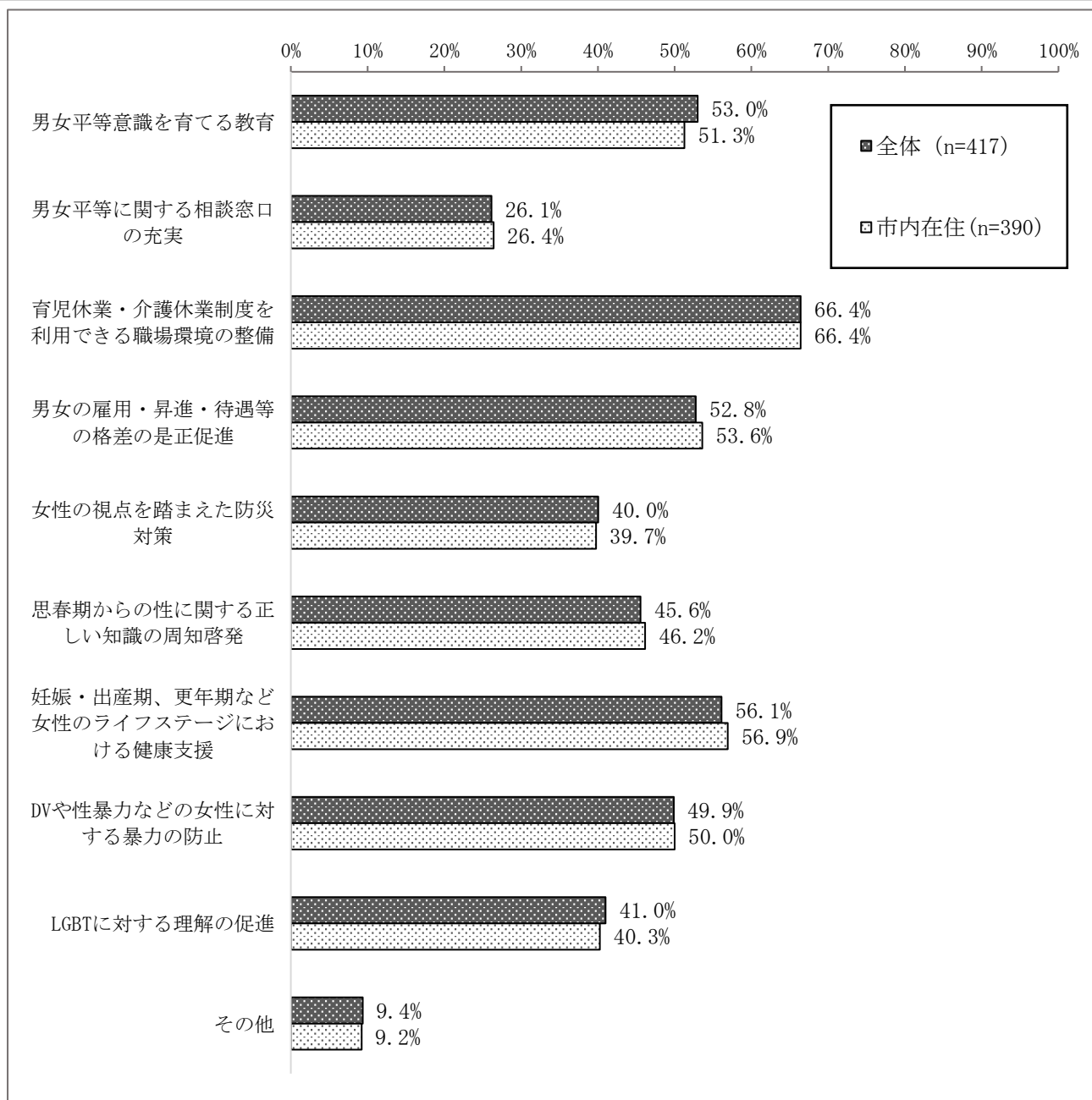
- ・「昇進・昇格の機会」(41.6%)
- ・「正当な能力の評価」(32.2%)
- ・「格差を感じる、感じたことはない」(31.5%)

70代以上

- ・「昇進・昇格の機会」(51.2%)
- ・「正当な能力の評価」(36.6%)
- ・「非正規社員の労働条件」(29.3%)

7 市に取り組んでほしいこと

設問 10：誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるために、市はどのようなことに取り組んだほうがいいと思いますか。（☑は複数可）



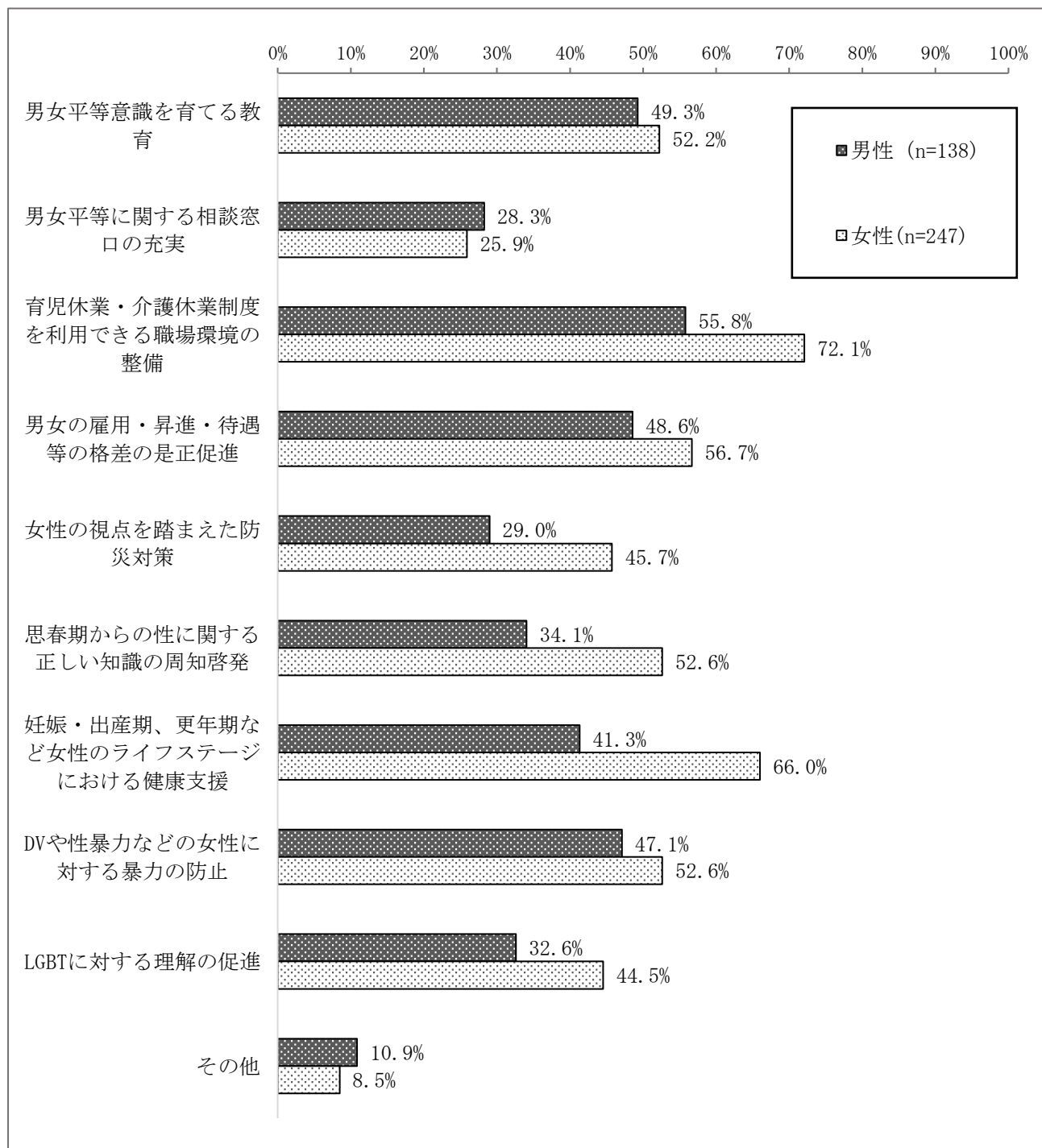
全体

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(66.4%)
- ・「妊娠・出産期、更年期など女性のライフステージにおける健康支援」(56.1%)
- ・「男女平等意識を育てる教育」(53.0%)

市内居住

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(66.4%)
- ・「妊娠・出産期、更年期など女性のライフステージにおける健康支援」(56.9%)
- ・「男女の雇用・昇進・待遇等の格差の是正促進」(53.6%)

■市内居住、性別



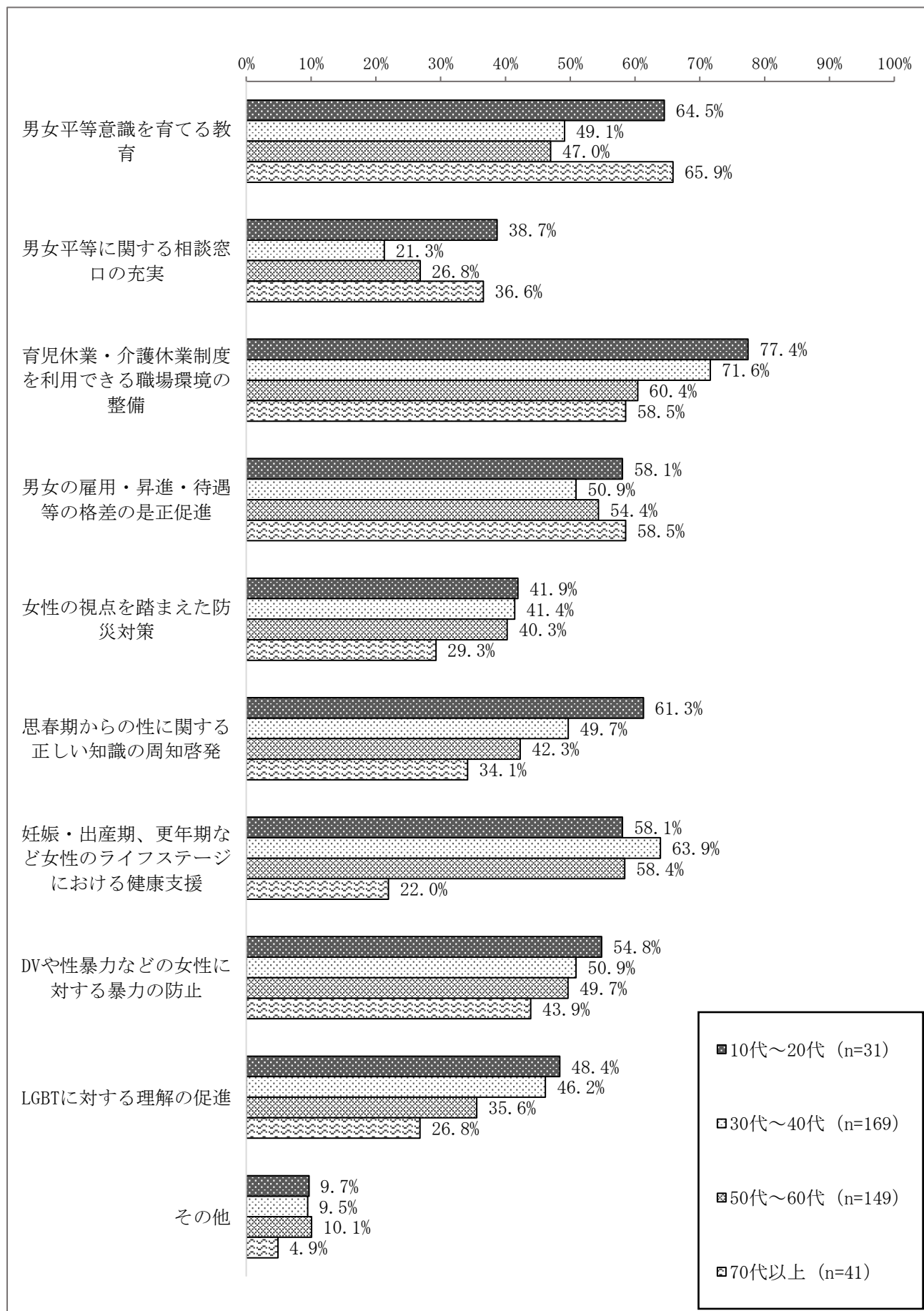
男性

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(55.8%)
- ・「男女平等意識を育てる教育」(49.3%)
- ・「男女の雇用・昇進・待遇等の格差の是正促進」(48.6%)

女性

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(72.1%)
- ・「妊娠・出産期、更年期など女性のライフステージにおける健康支援」(66.0%)
- ・「男女の雇用・昇進・待遇等の格差の是正促進」(56.7%)

■市内居住、年代別



10代～20代

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(77.4%)
- ・「男女平等意識を育てる教育」(64.5%)
- ・「思春期からの性に関する正しい知識の周知啓発」(61.3%)

30代～40代

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(71.6%)
- ・「妊娠・出産期、更年期など女性のライフステージにおける健康支援」(63.9%)
- ・「男女の雇用・昇進・待遇等の格差の是正促進」、「DVや性暴力などの女性に対する暴力の防止」(ともに50.9%)

50代～60代

- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」(60.4%)
- ・「妊娠・出産期、更年期など女性のライフステージにおける健康支援」(58.4%)
- ・「男女の雇用・昇進・待遇等の格差の是正促進」(54.4%)

70代以上

- ・「男女平等意識を育てる教育」(65.9%)
- ・「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境の整備」、「男女の雇用・昇進・待遇等の格差の是正促進」(ともに58.5%)

3 事業者アンケート 調査結果

実施期間：令和3年（2021年）5月12日（水）～5月26日（水）

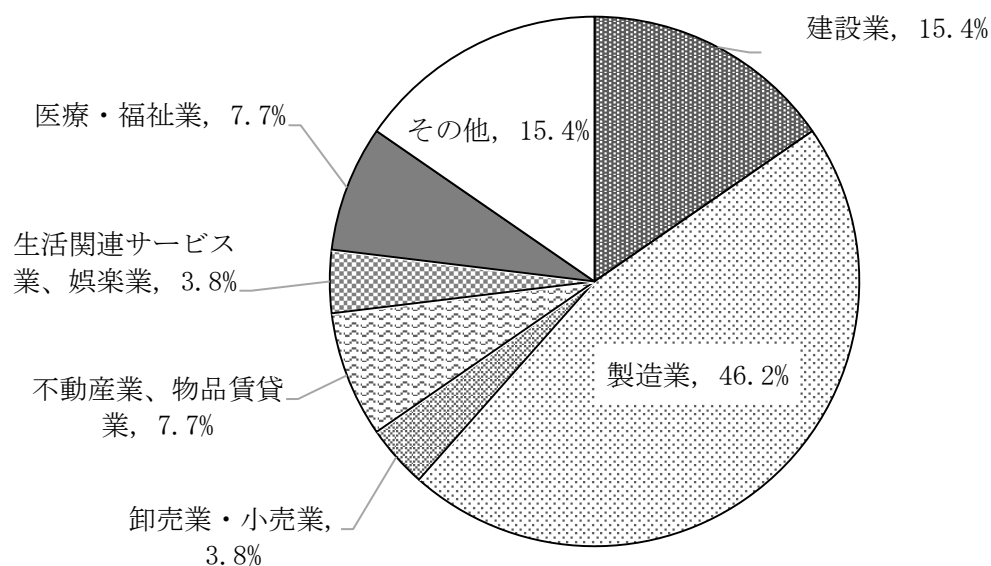
回答方法：東京都共同電子申請・届出サービスを利用したWebアンケート

対 象：八王子商工会議所会員企業 約1,500社

回 答 数：26社（回答率約1.7%）

1. 属性

【Q1】貴事業所の業種について次の項目のうちどれに当てはまりますか。（代表的なもの1つを選択）



(n=26)

「その他」と回答（4社）

- ・地質調査
- ・技術サービス業
- ・製造業及び卸売業・小売業
- ・専門サービス業

2. 事業所における女性比率

【Q2-1】 貴事業所の女性正規従業員（社長・店長等含む）は何人いますか。

【Q2-2】 そのうち女性の管理職は何人いますか。

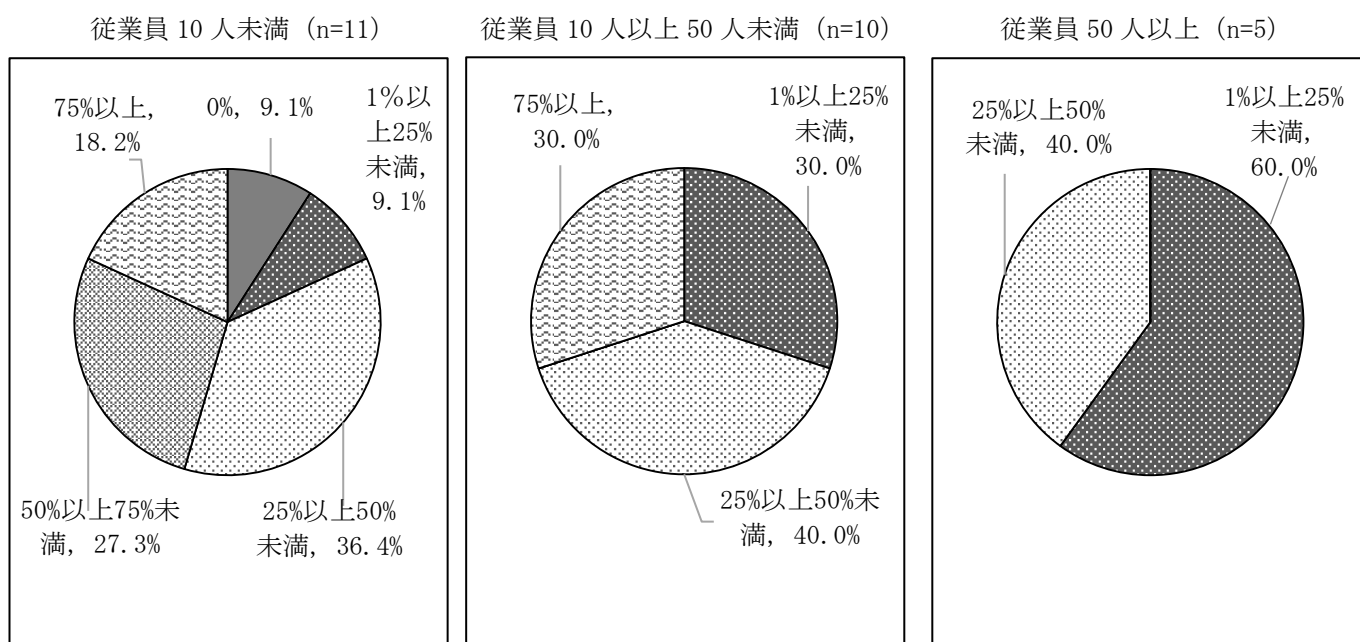
【Q3-1】 貴事業所の男性正規従業員（社長・店長等含む）は何人いますか。

【Q3-2】 そのうち男性の管理職は何人いますか。

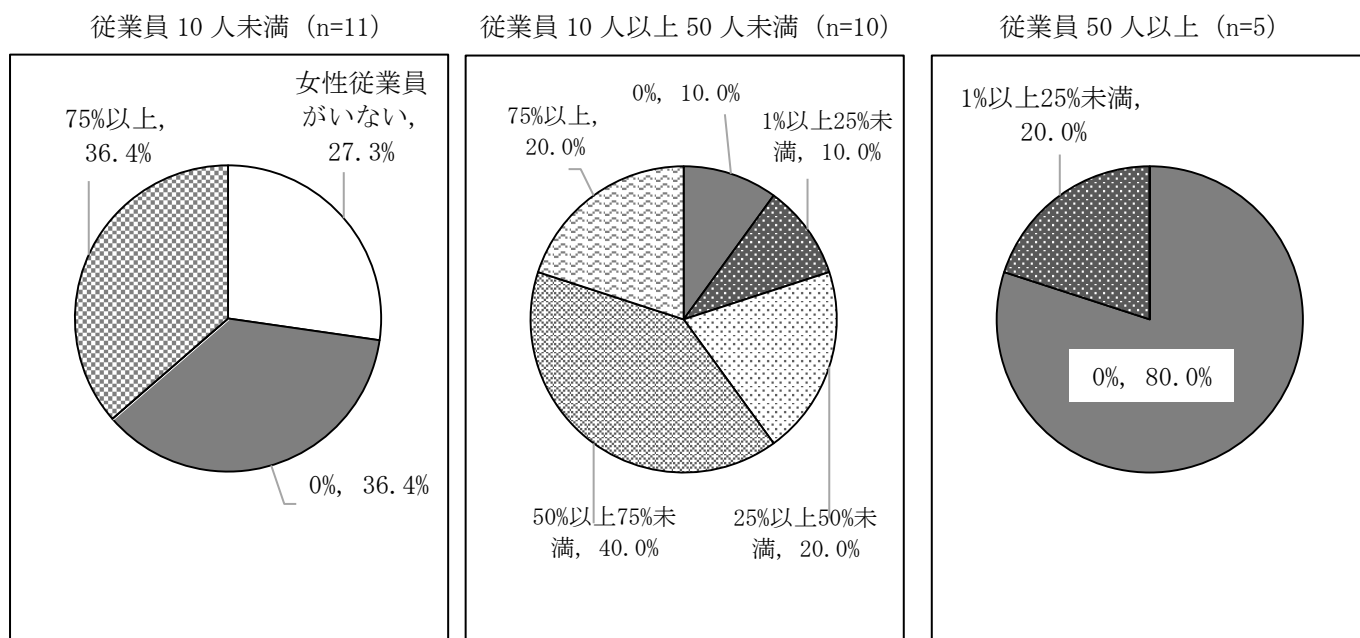
【Q4】 貴事業所の女性非正規従業員は何人いますか。

【Q5】 貴事業所の男性非正規従業員は何人いますか。

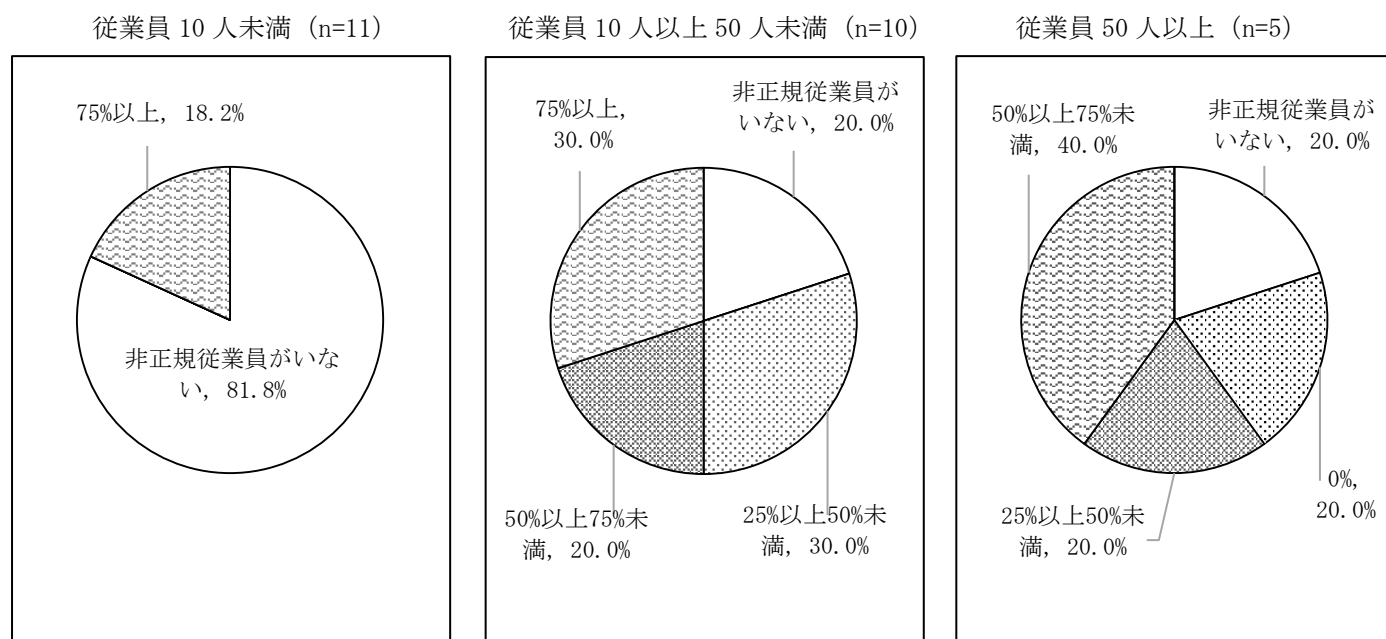
(1) 従業員規模別にみた全従業員数に占める女性（正規と非正規の合計）の割合



(2) 従業員規模別にみた正規女性従業員に占める女性の管理職の割合

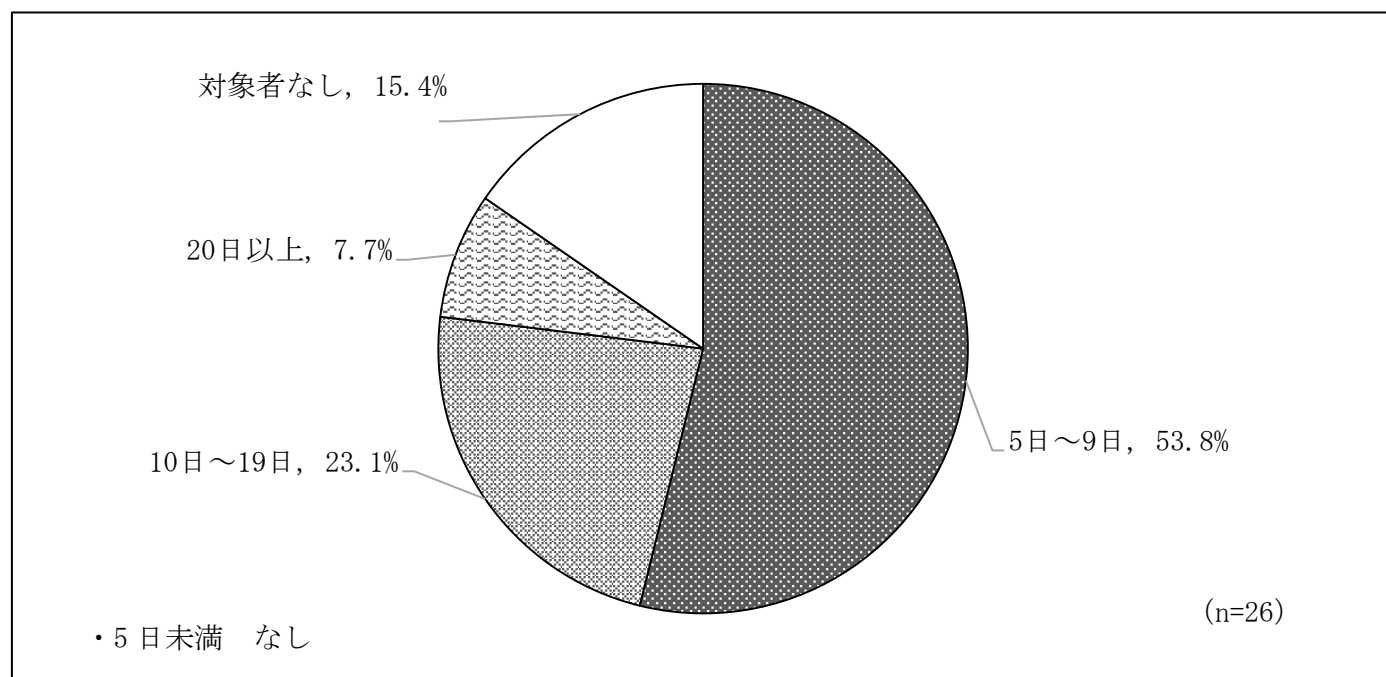


(3) 従業員規模別にみた非正規従業員に占める女性の割合



3. 有給休暇の年間取得状況（従業員 1 人平均）

【Q6】 貴事業所の有給休暇の年間取得状況（従業員 1 人平均）は次のうちどれですか。



4. 育児・介護休業取得状況

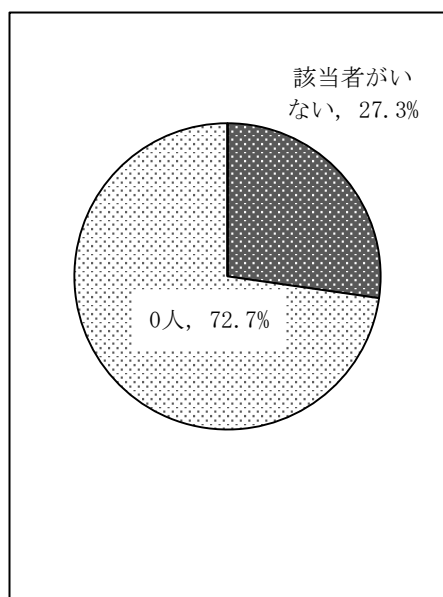
(1) 従業員規模別にみた女性従業員・男性従業員における育児休業取得の状況

【Q7-1】貴事業所の女性従業員（正規・非正規）のうち、この1年間で育児休業を取得したことがある人は何人いますか。

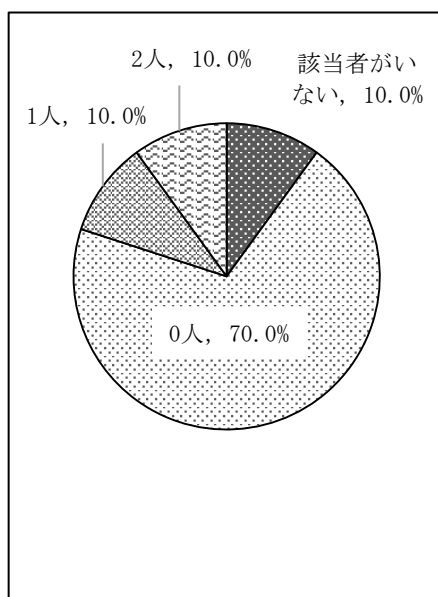
【Q7-2】貴事業所の男性従業員（正規・非正規）のうち、この1年間で育児休業を取得したことがある人は何人いますか。

【女性】

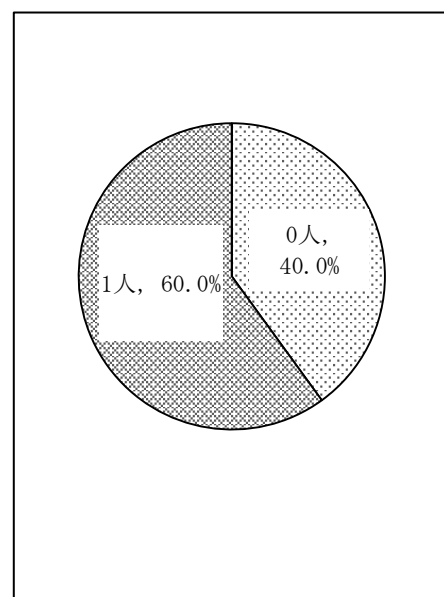
従業員 10 人未満 (n=11)



従業員 10 人以上 50 人未満 (n=10)

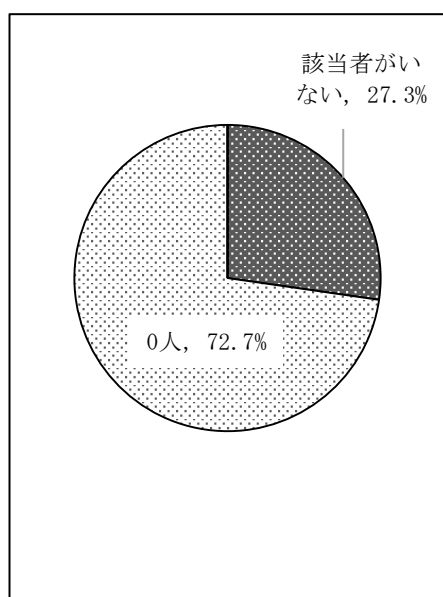


従業員 50 人以上 (n=5)

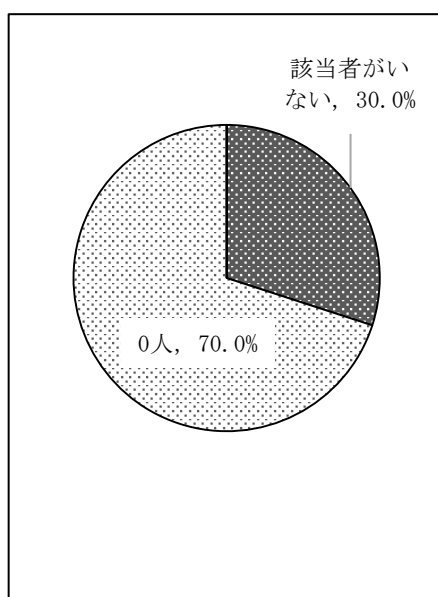


【男性】

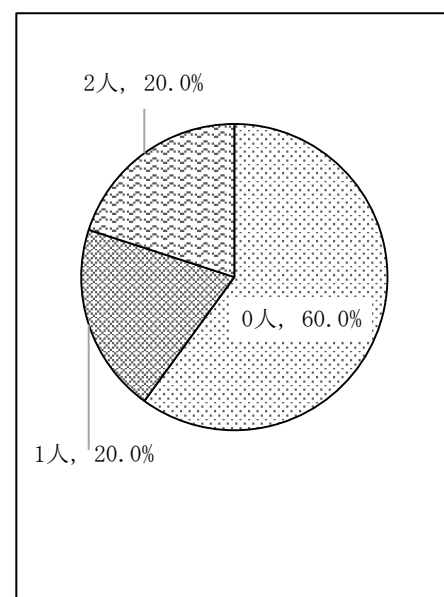
従業員 10 人未満 (n=11)



従業員 10 人以上 50 人未満 (n=10)



従業員 50 人以上 (n=5)



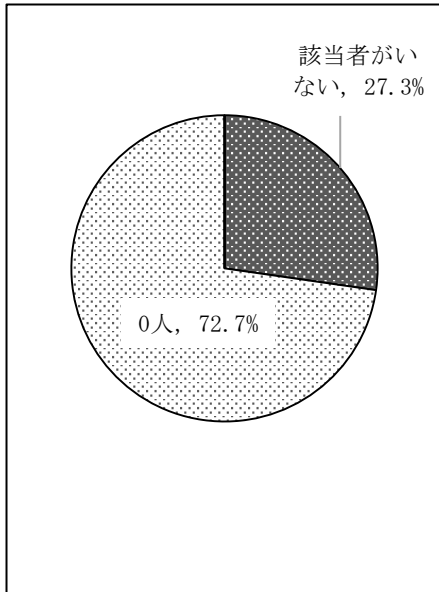
(2) 従業員規模別にみた女性従業員・男性従業員における介護休業取得の状況

【Q8-1】貴事業所の女性従業員（正規・非正規）のうち、この１年間で介護休業を取得したことがある人は何人いますか。

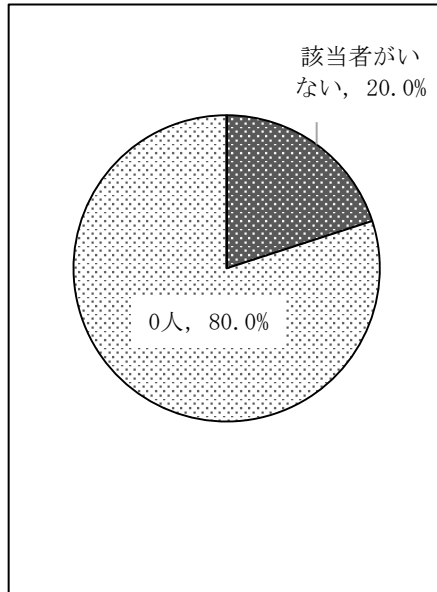
【Q8-2】貴事業所の男性従業員（正規・非正規）のうち、この１年間で介護休業を取得したことがある人は何人いますか。

【女性】

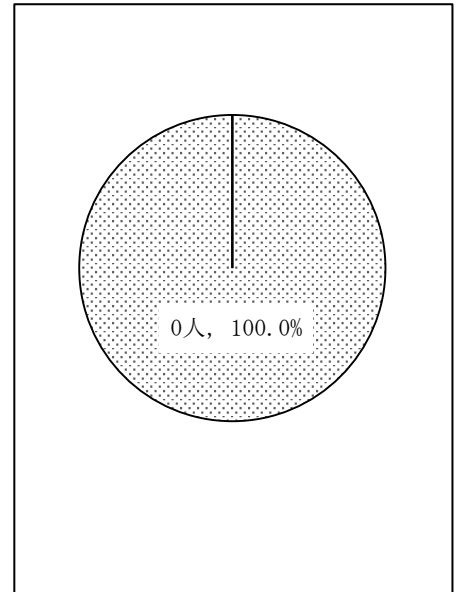
従業員 10 人未満 (n=11)



従業員 10 人以上 50 人未満 (n=10)

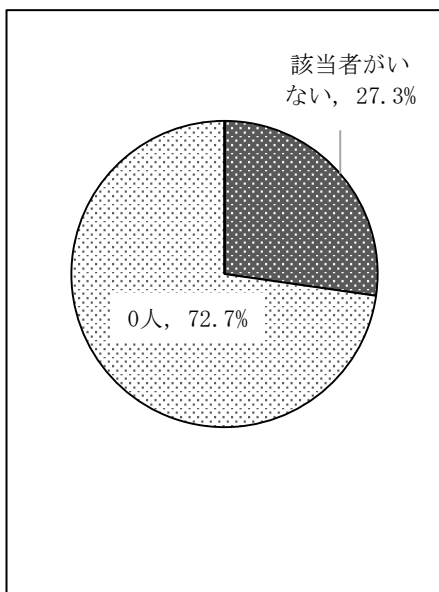


従業員 50 人以上 (n=5)

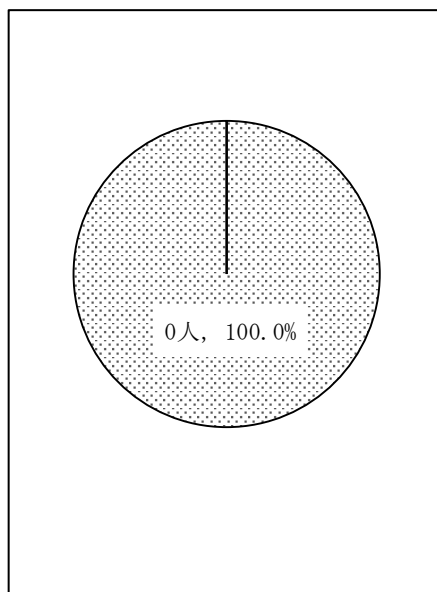


【男性】

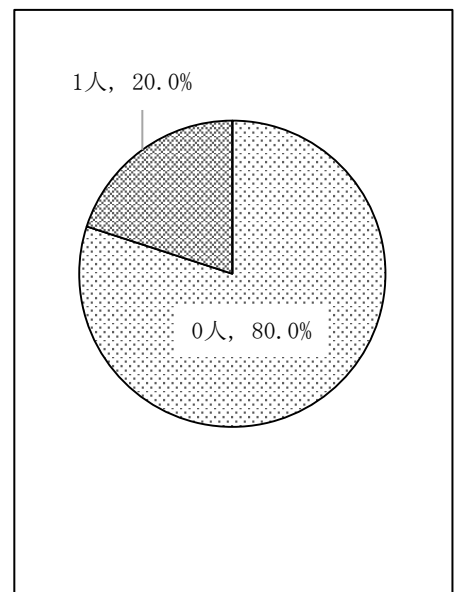
従業員 10 人未満 (n=11)



従業員 10 人以上 50 人未満 (n=10)

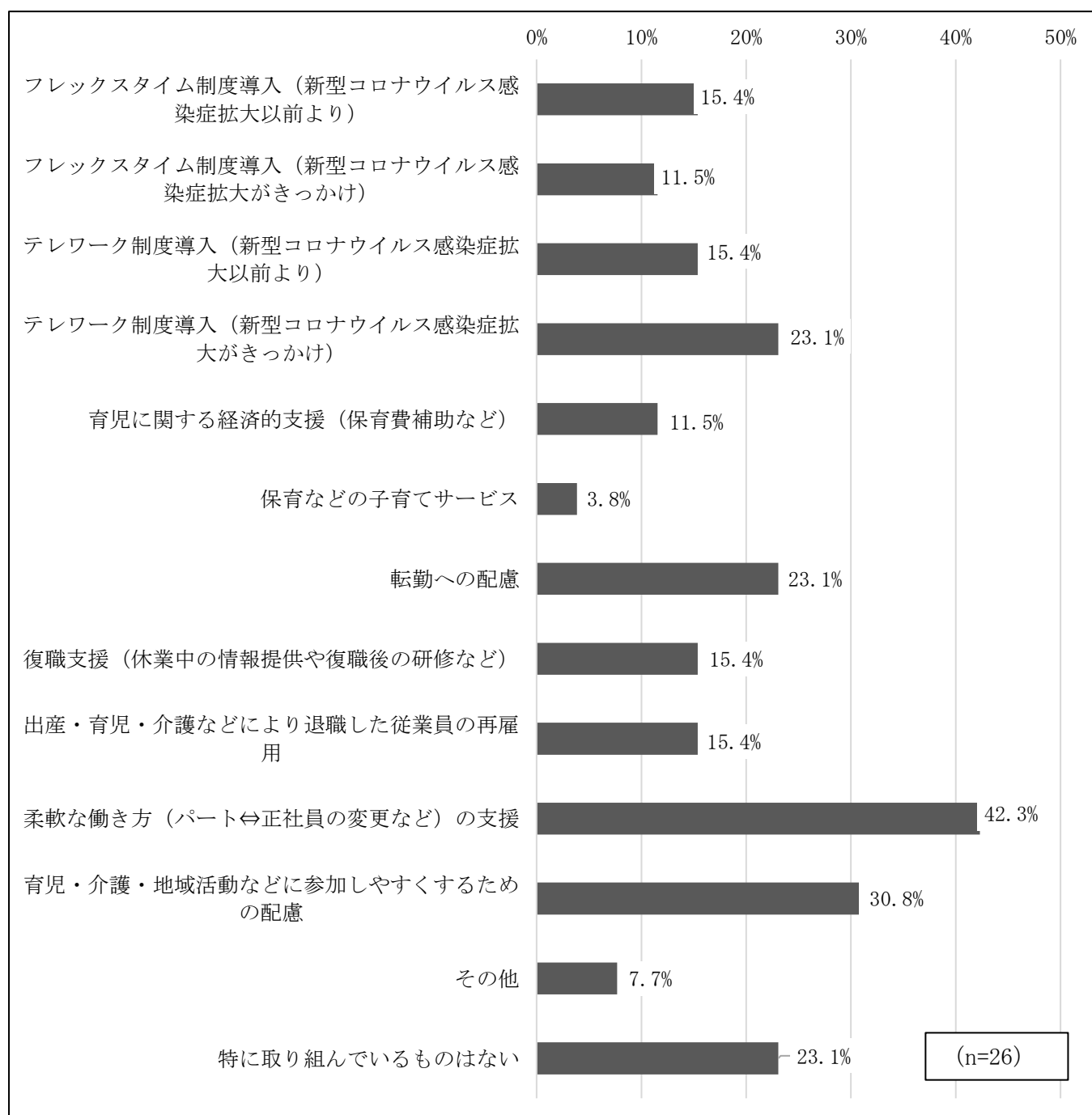


従業員 50 人以上 (n=5)



5. ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組

【Q9】 貴事業所では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために、どのような取組をしていますか。（複数選択可）

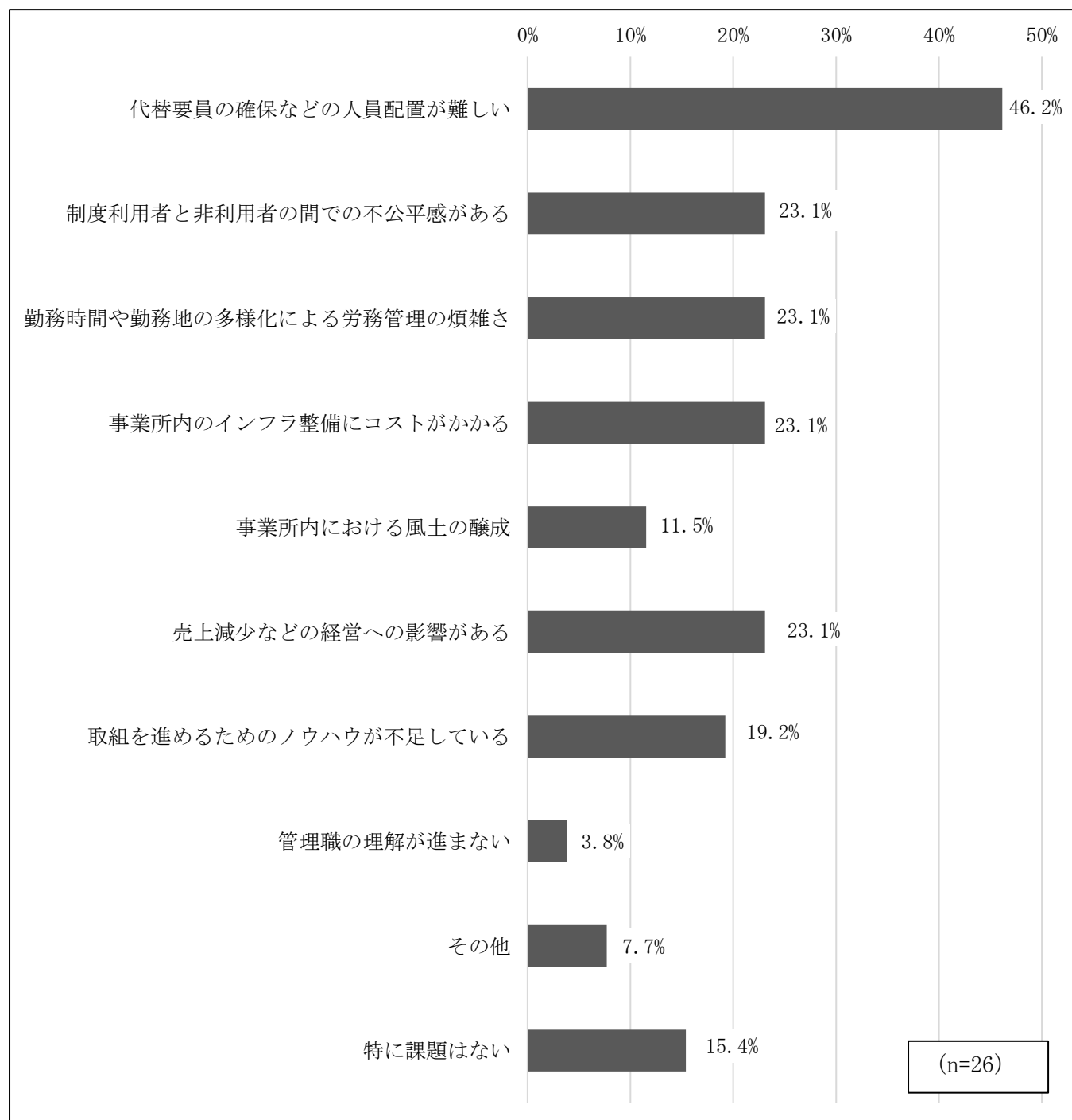


「その他」の回答（2社）

- ・勤務時間の柔軟性。
- ・短時間正社員制度、時差出勤制度、時間単位の有給休暇の取得。

6. ワーク・ライフ・バランスを進める上での課題

【Q10】 貴事業所がワーク・ライフ・バランスを進める上での課題はどのようなことですか。（複数選択可）

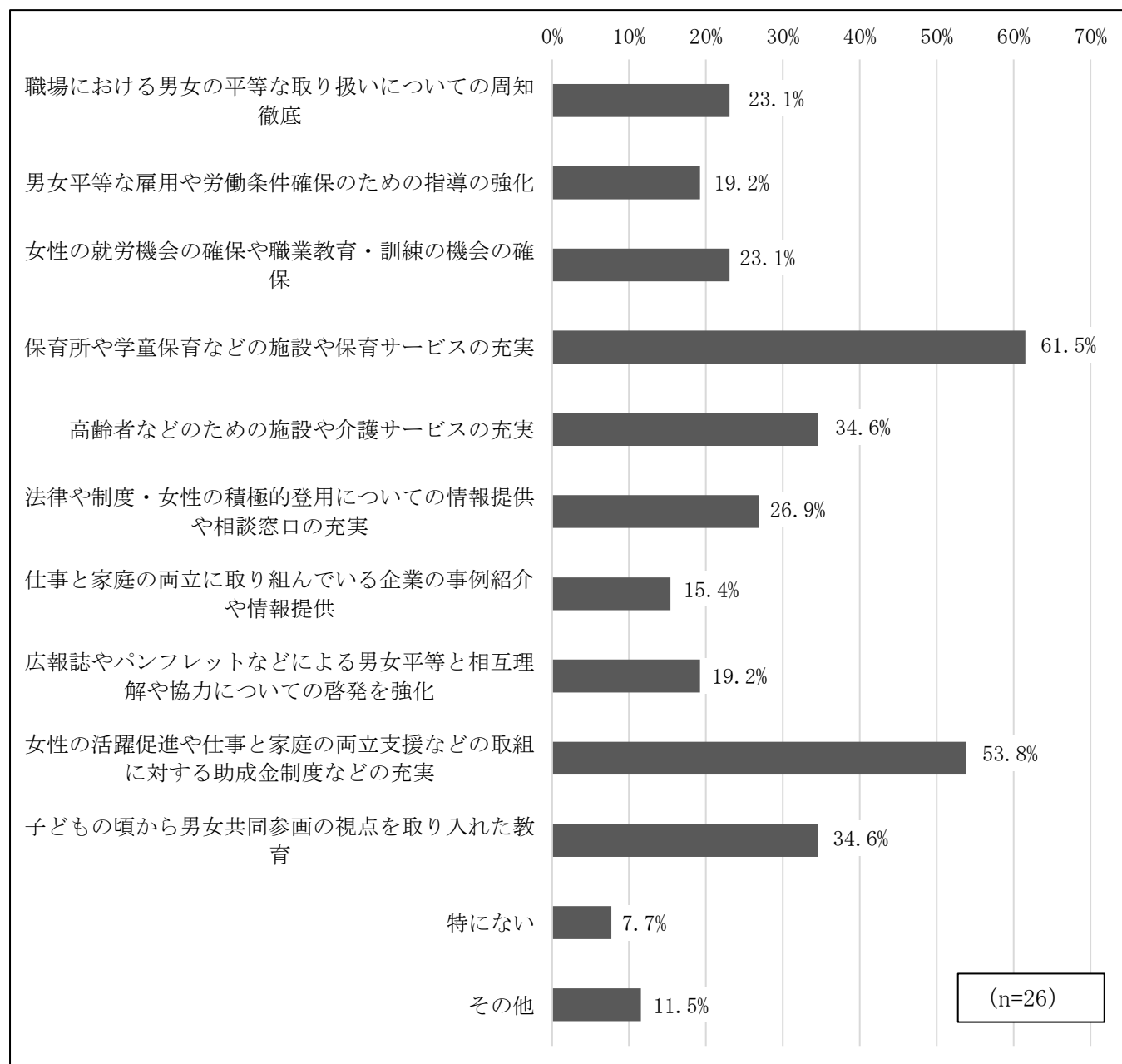


「その他」の回答（2社）

- ・介護に携わる仕事が多い従業員が多く、人対人の仕事のため、テレワークに切り替えるわけにいかない。
- ・過剰人員確保困難、風土雰囲気醸成の問題。

7. 市に取り組んでほしいこと

【Q11】男女共同参画を進めるために、市はどのようなことを取り組んだ方がいいと思いますか。(複数選択可)



「その他」の回答 (3 社)

- ・老人の介護や子育てをしながら仕事出来るように在宅ワークの促進、及び、これからは年齢に関係なく、在宅ワークやシルバー支援など、ライフスタイルや遣り甲斐の向上と生活を支える多様化の勧め。
- ・公平性を規した企画公募や実施の助成金制度の制定、また官民、オブザーバーの三者による企画の実施。
- ・弊社のような製造業では無理に進めること自体が良い事ばかりではないと思います。

8. 自由意見

【Q12】男女共同参画社会を実現するための行政の施策や、就労の場における男女共同参画のあり方などについて、ご意見、ご要望などありましたらご入力ください。（自由記述）

感情的で、能力のない女性を無理やり管理者に仕立てるようなことだけはやめた方がよい。能力あるが表に出たくないような力のある人の登用を。

高齢化も進み、労働に従事する期間が伸長し、在宅ワークも常識になりつつある今、終身雇用の考え方を捨てて、ライフスタイルに合った労働、遣り甲斐を求めた転職や起業など仕事の多様化に関する情報発信や情報提供、補助金などの支援を充実すれば雇用の安定と経済の活性化に結び付くと思う。

一部の懸念にしている法人のみの採択でなく、幅広い間口を求める。他県他市での協働事業を行ったことがあるが、男女共同社会の年度ごとの重点施策に基づく各コンセプトを明確に示した上で、意見をまとめてほしい。

製造業（特に製造現場）を指向する女性母数の拡大。

男女共同参画社会を実現は基本的に、教育から、社会環境から始める必要がある。矯正すれば、歪みが生じる。

男女共同参画を進めるにあたり、女性にとっては今までより厳しい労働環境を要求せざるを得ません。実態はそれを望まない方が多いのも事実な感じがしますので、意識改革が重要な課題かと思います。

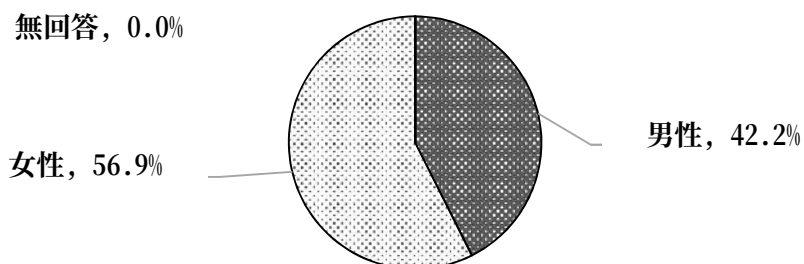
4 新人職員アンケート 調査結果

実施日：令和3年（2021年）4月5日（月）

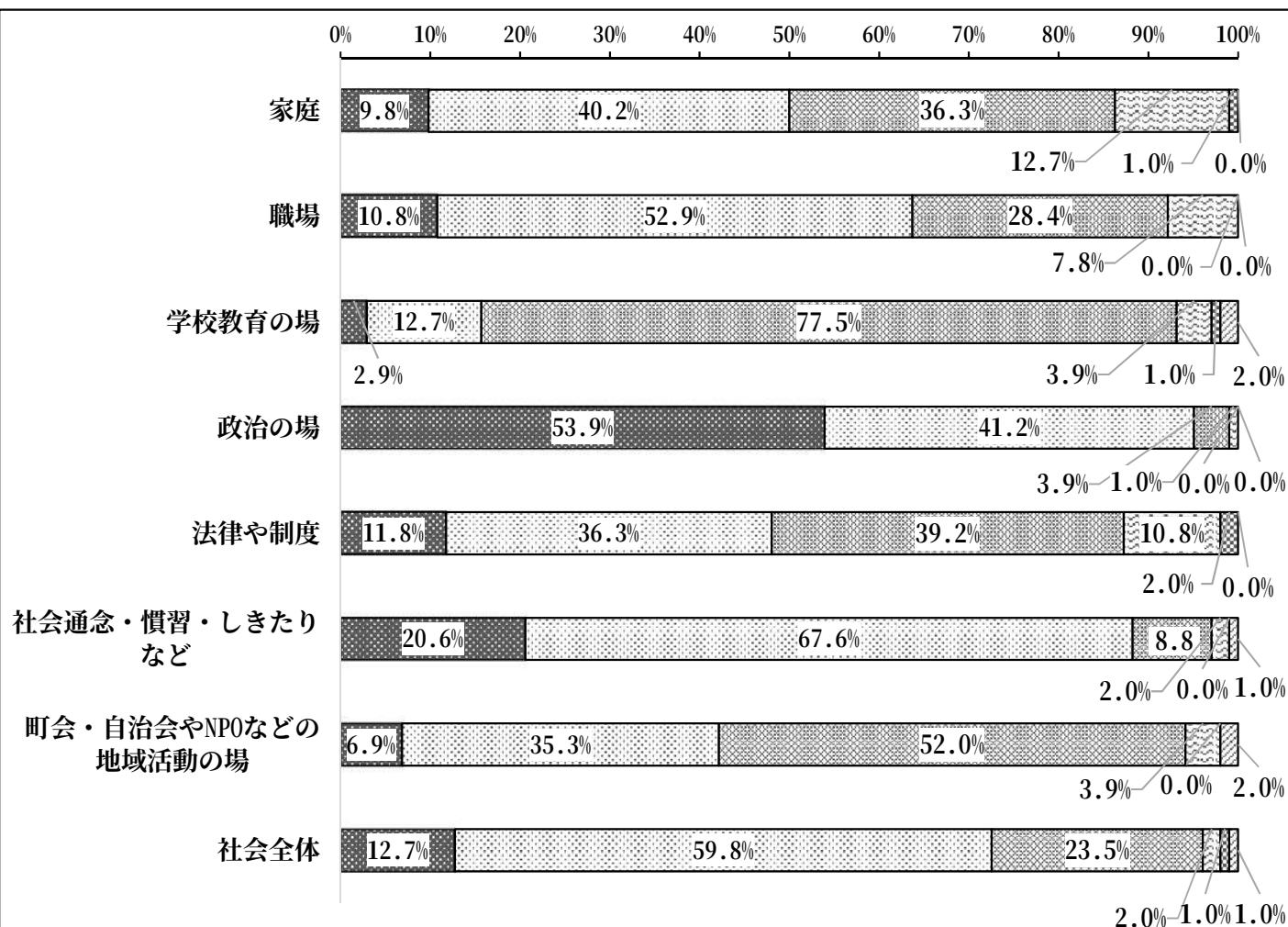
対象者：102人

回収票：102枚（回収率100%）

問1 あなたの性別を教えてください。（n=102）



問2 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。（n=102）

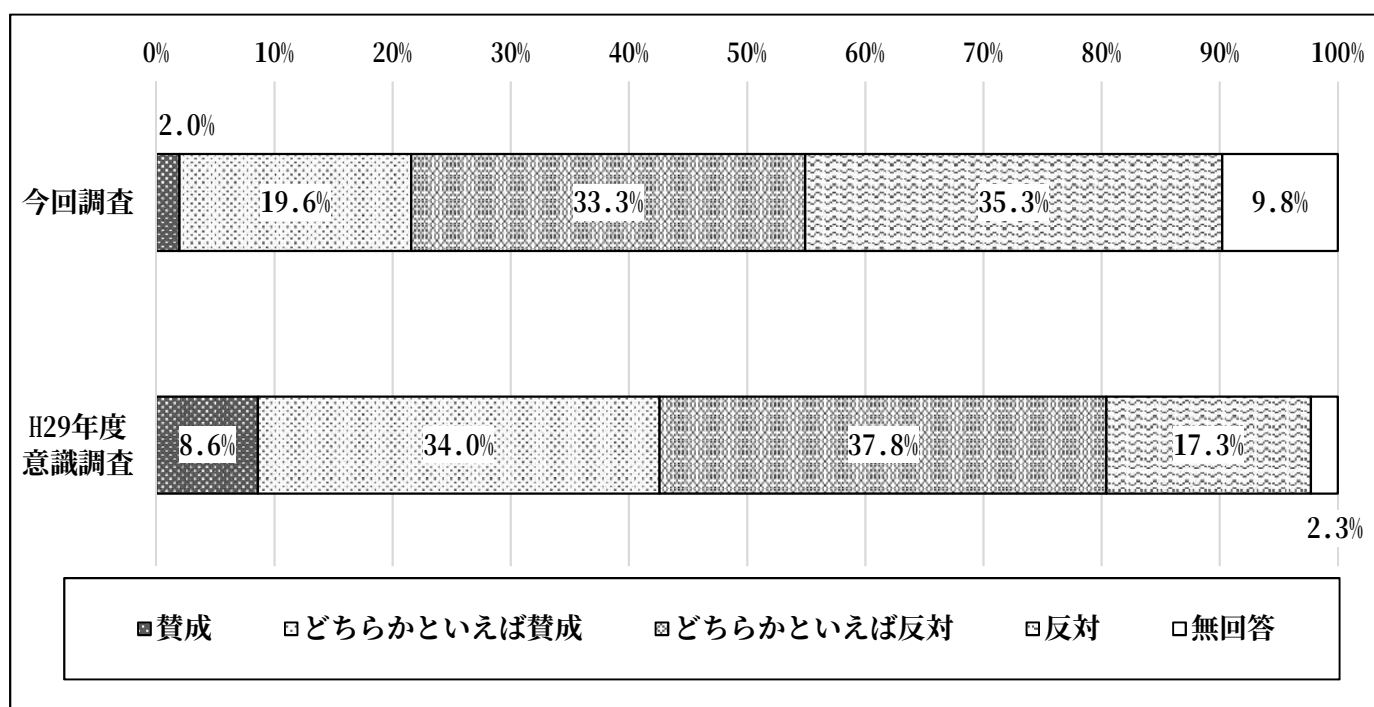


☒ 男性優遇
 ☐ どちらかといえば男性優遇
 ☒ 男女平等
 ☐ どちらかといえば女性優遇
 ☒ 女性優遇
 ☐ 無回答

平成 29 年度（2017 年度）3 月実施「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（以下、「意識調査」という。）の結果と比較すると、今回調査では、「政治の場」及び「社会通念・慣習・しきたりなど」において「男性優遇」だと感じている人の割合が高くなっている。

	今回 (%)		H29 年度意識調査 (%)		男性	女性
	男性 優遇 (計)	女性 優遇 (計)	男性 優遇 (計)	女性 優遇 (計)		
家庭	50.0	13.7	49.8	11.6	0.2	2.1
職場	63.7	7.8	62.2	5.6	1.5	2.2
学校教育の場	15.7	4.9	19.2	4.9	△3.5	0.0
政治の場	95.1	1.0	74.8	1.9	<u>20.3</u>	△0.9
法律や制度	48.0	12.7	48.8	7.5	△0.8	5.2
社会通念・慣習・しきたりなど	88.2	2.0	74.4	4.3	<u>13.8</u>	△2.3
町会・自治会や NPO などの地域活動の場	42.2	3.9	44.6	5.9	△2.4	△2.0
社会全体	72.5	2.9	72.4	6.3	0.1	△3.4

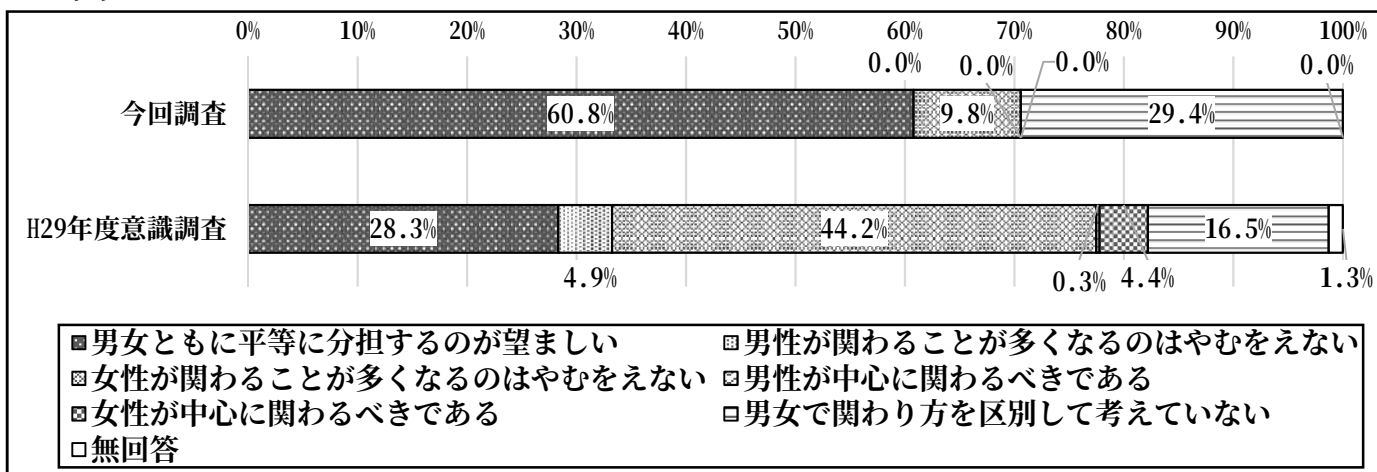
問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。(n=102)



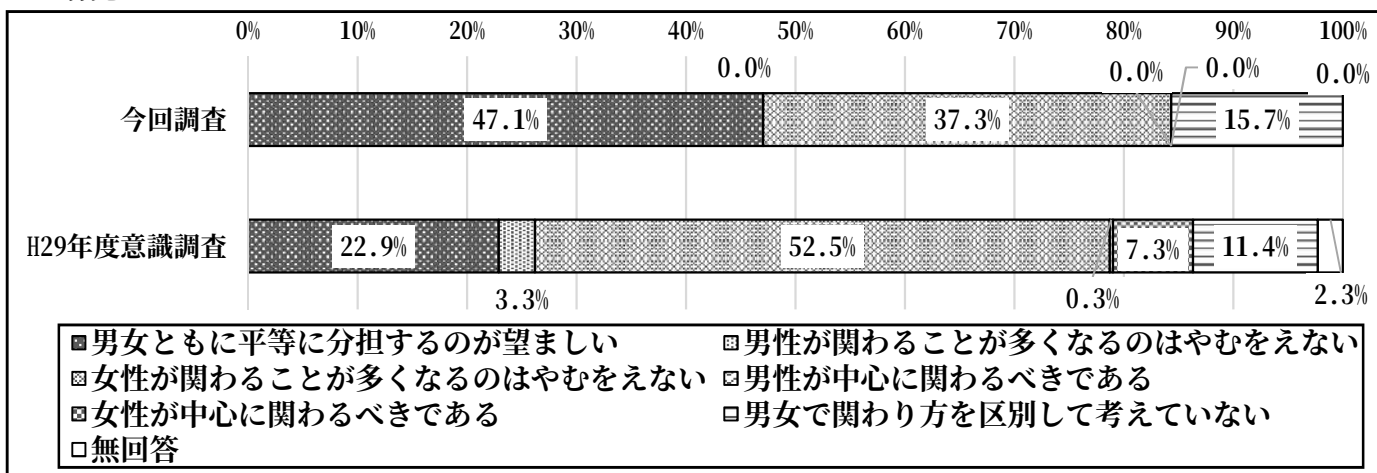
今回調査では、「反対」（35.3%）又は「どちらかといえば反対」（33.3%）と回答する人の割合が合計で 68.6% となった。平成 29 年度意識調査の結果では、この割合が 55.1%であったことから、若い世代では男女平等の意識が浸透してきていることがうかがえる。

問4 家事・育児・介護についての男女の関わり方の違いについて、どう思いますか。(n=102)

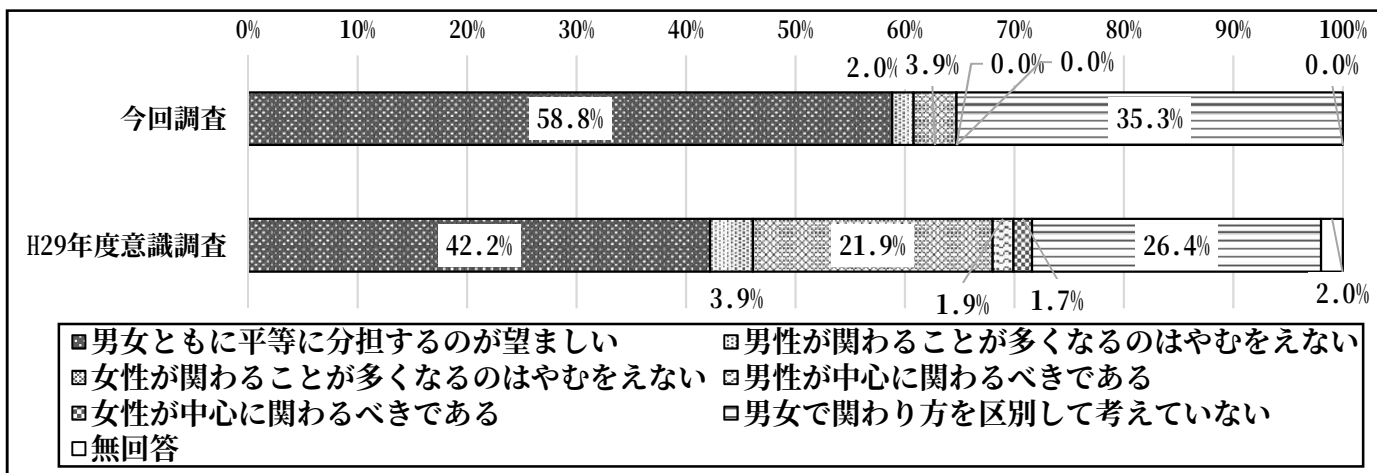
■ 家事について



■ 育児について

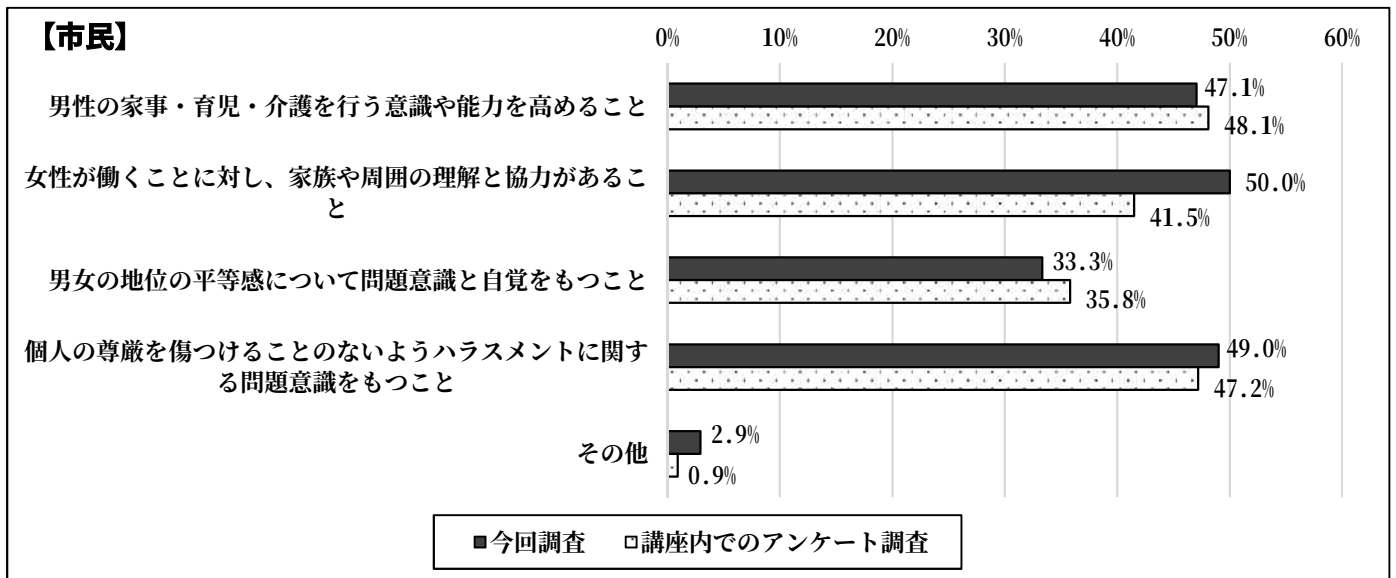


■ 介護について



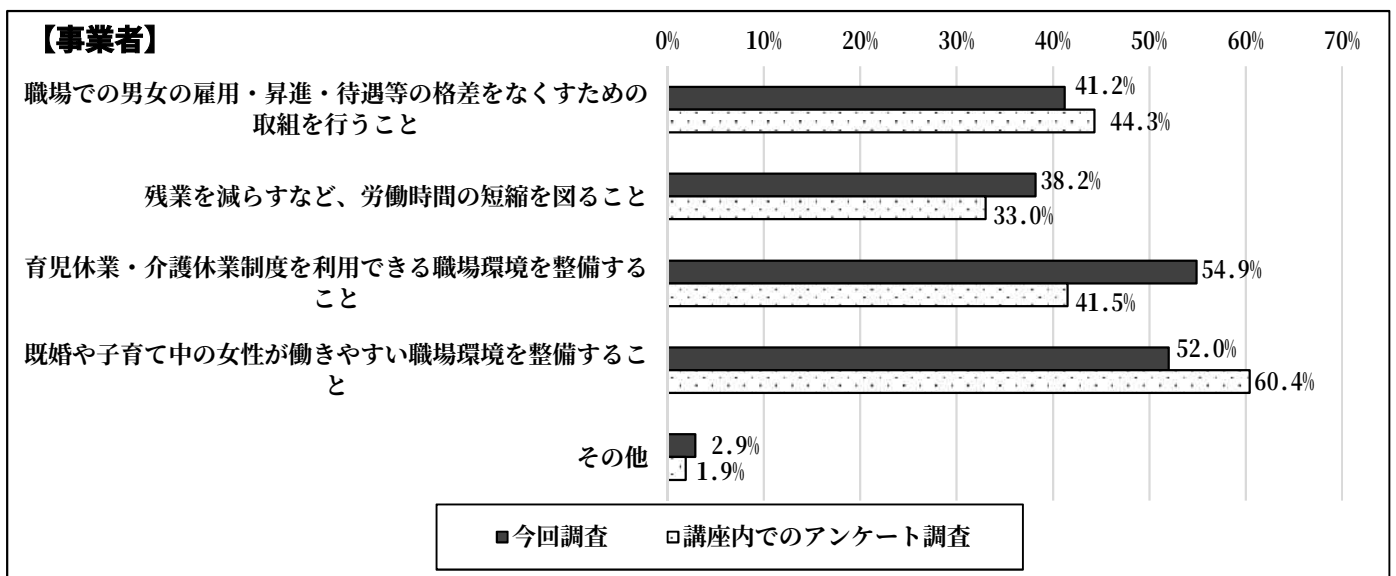
平成 29 年度意識調査を比較すると、今回調査では「男女とも平等に分担するのが望ましい」と回答する人の割合がいずれの項目も高い。

問5 今後、さらに男女共同参画を進めていくために、以下の区分ごとの取組としてどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可) (n=102)



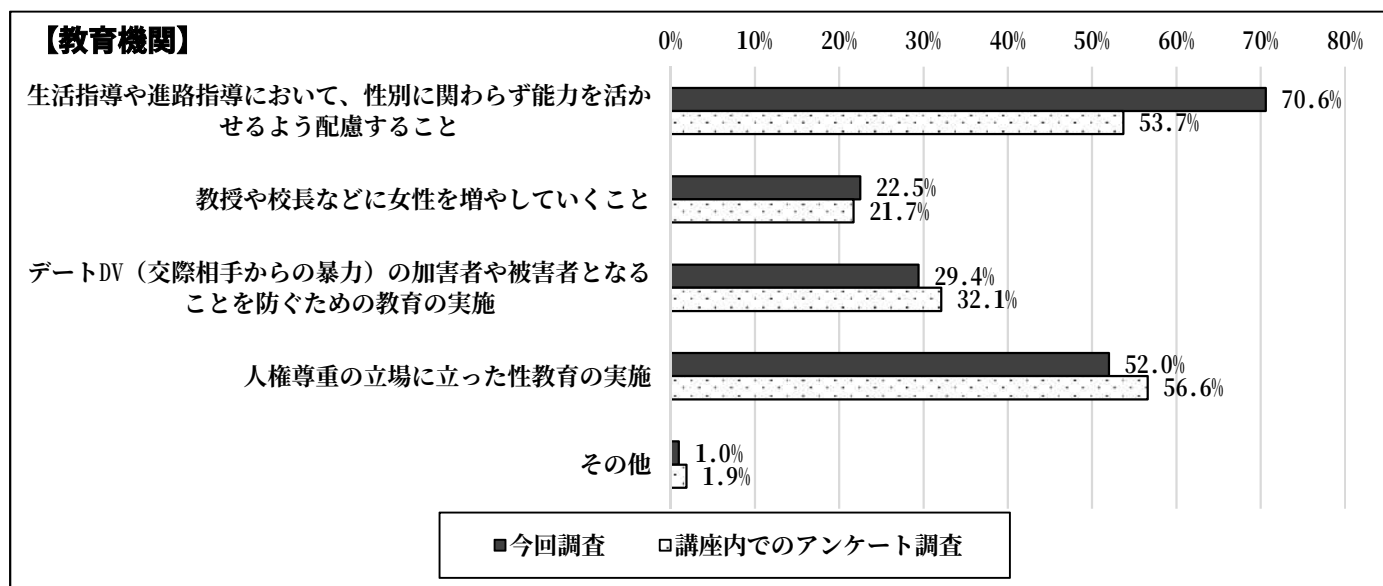
「その他」の回答 (3件)

- ・相撲の土俵に女性を上げる。
- ・男性も女性も共に選択肢1のような能力を高め、選択肢2のように理解と協力を得たい。
- ・性差で区別しないで、「私できるからやります」と言える状況づくり



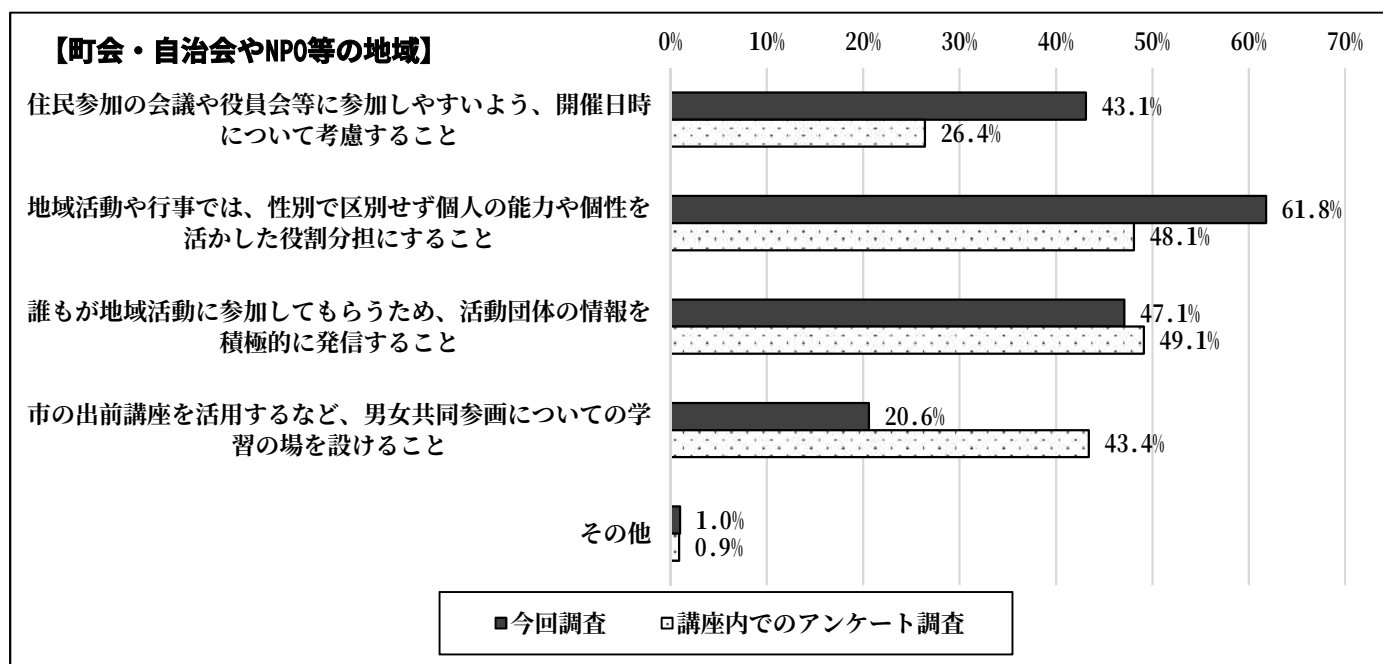
「その他」の回答 (3件)

- ・制度を作るだけでなく、実運用している企業が評価される仕組み作り
- ・共働きが不要な給与を支払うこと
- ・休業制度の活用促進



「その他」の回答（1件）

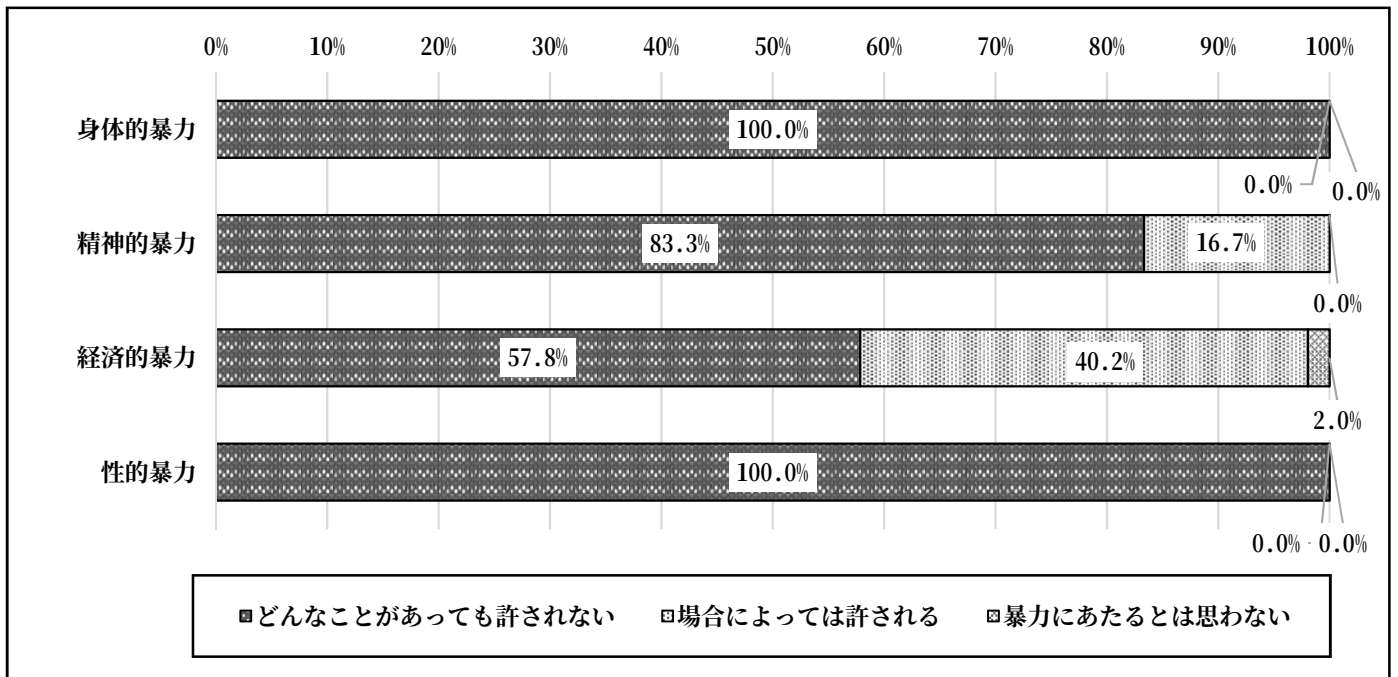
- ・評価に性差をつけない（入試等）



「その他」の回答（1件）

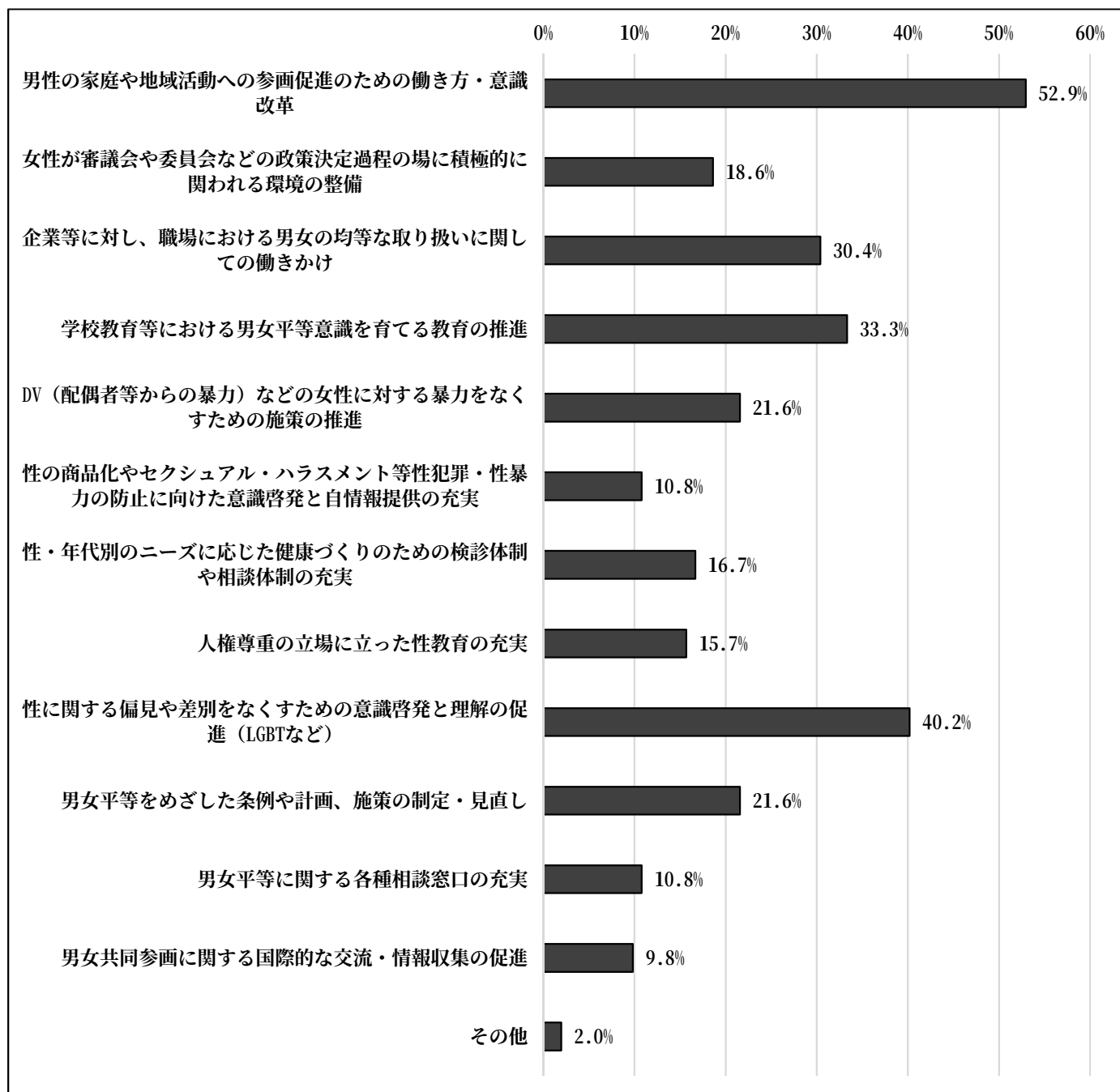
- ・共働きで参加が難しい家庭への理解

問6 配偶者、パートナー又は恋人の間での次のような行為について、どう思いますか。(n=102)



「精神的暴力」及び「経済的暴力」について、「場合によっては許される」と回答する人の割合が高い。特に「経済的暴力」については、40.2%が「場合によっては許される」と回答している。

問7 本市では、男女共同参画社会の実現に向けた施策をより一層推進するため、「男女がともに生きるまち 八王子プラン（第3次）2019 改定版」に基づき取り組みを進めています。今後、男女共同参画社会の実現に向けてさらに施策を推進していくためには、本市はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。（複数回答可）（n=102）



「その他」の回答（2人）

- ・男性の育休取得率の向上
- ・ワークライフバランスのため、働きたい日数で働ける制度（育児・介護など）

今回は、上位3つが「男性の家庭や地域活動への参画促進のための働き方・意識改革」（52.9%）、「性に対する偏見や差別をなくすための意識啓発と理解の促進」（40.2%）、「学校教育等における男女平等意識を育てる教育の推進」（33.3%）となった。

5 学童保育所アンケート 調査結果

実施期間：令和3年（2021年）5月17日（月）～6月11日（金）

回答方法：学童保育所入所者の保護者にアンケート用紙を配布、学童保育所にて回収。

回答数：491人（回答率51.9%）

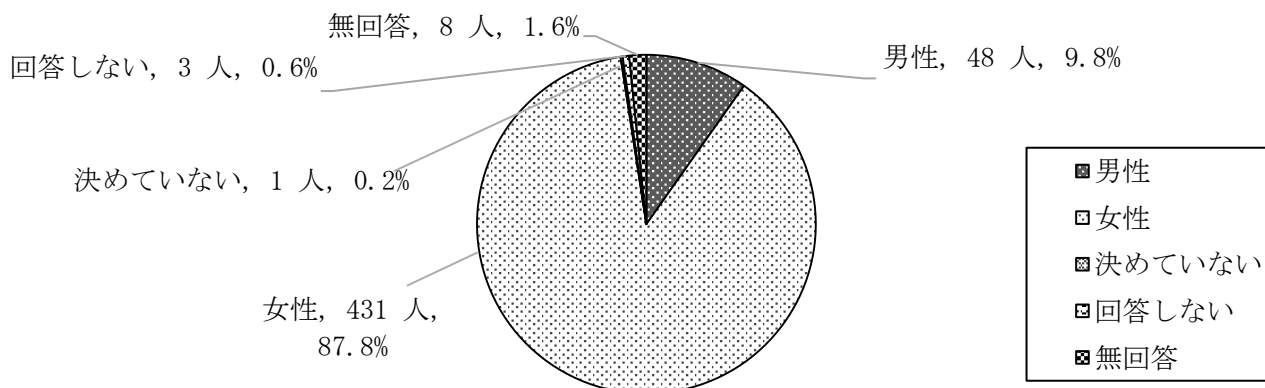
1. 対象の地域区分及び学童保育所

地域区分	学童保育所名	在籍数
中央 北部 東南部	第四小学童保育所（第1～第3クラブ）	94人
	第四小学童保育所（第4クラブ）	10人
	子安学童保育所（第1クラブ）	57人
	子安学童保育所（いずみの森第1～第4クラブ）	160人
西部 西南部	からまつ学童保育所	69人
	浅川学童保育所（第1～第2クラブ）	117人
	浅川学童保育所（第3クラブ）	29人
	東浅川学童保育所（第1～第2クラブ）	100人
	東浅川学童保育所（第3クラブ）	21人
	櫛田小学童保育所（第1～第2クラブ）	90人
	櫛田小学童保育所（第3クラブ）	21人
東部	南大沢学童保育所（第1～第2クラブ）	53人
	南大沢西学童保育所	35人
	まつぎ学童保育所（第1～第2クラブ）	89人
	計	945人

2. 属性

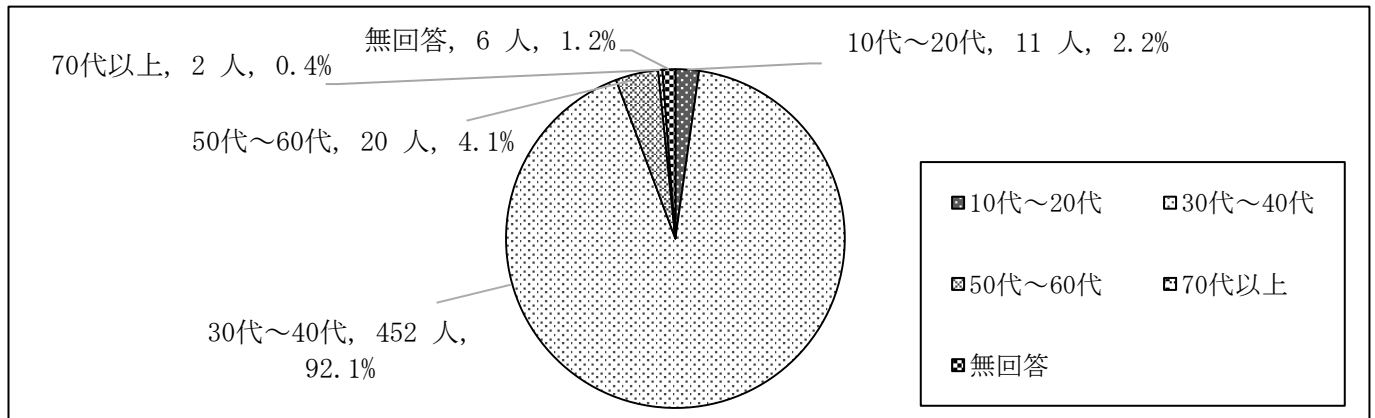
(1) 性別

あなたの性別を、お聞かせください。（☑は1つ）



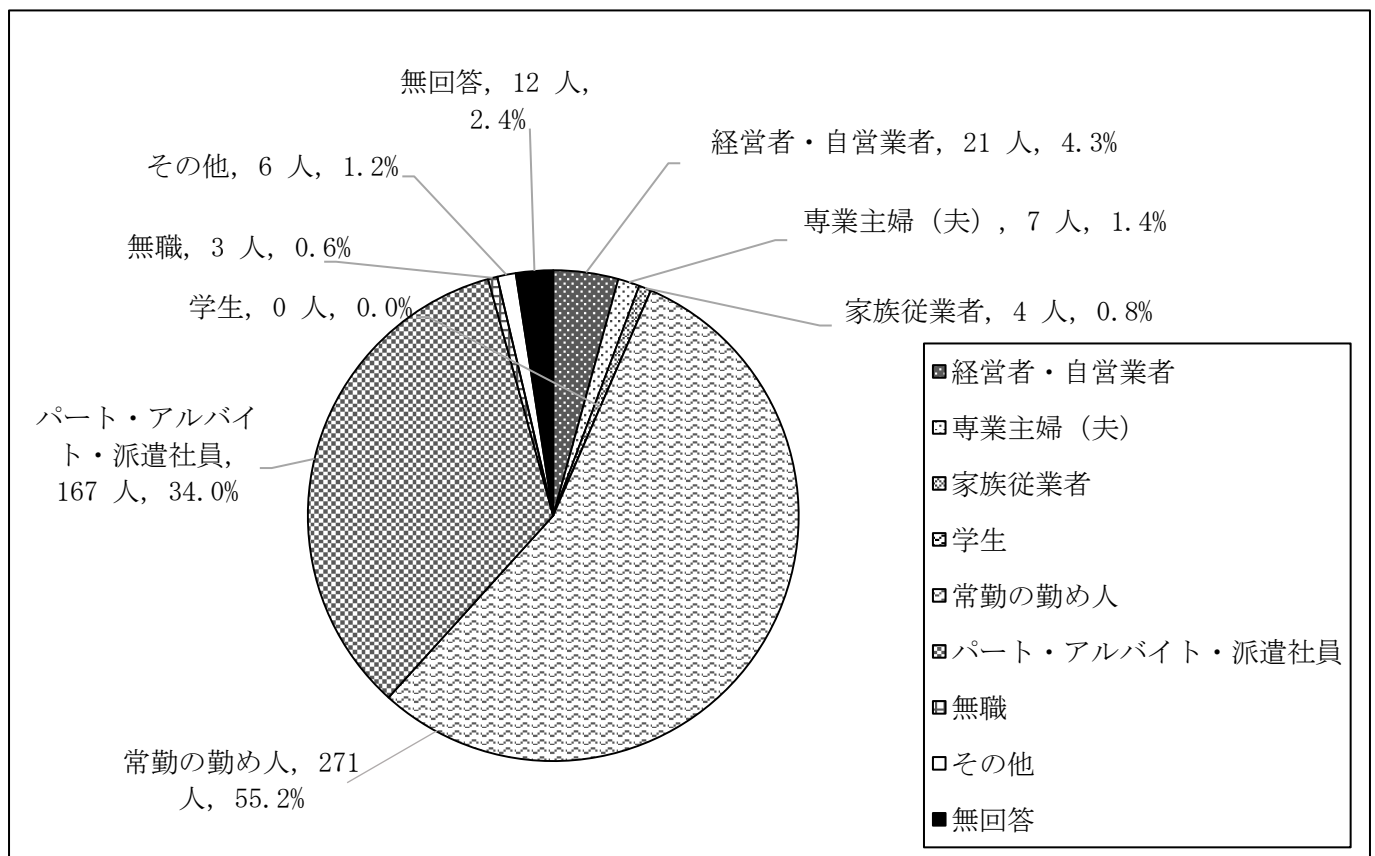
(2) 年齢別

あなたの年齢を、お聞かせください。(☑は1つ)



(3) 職業別

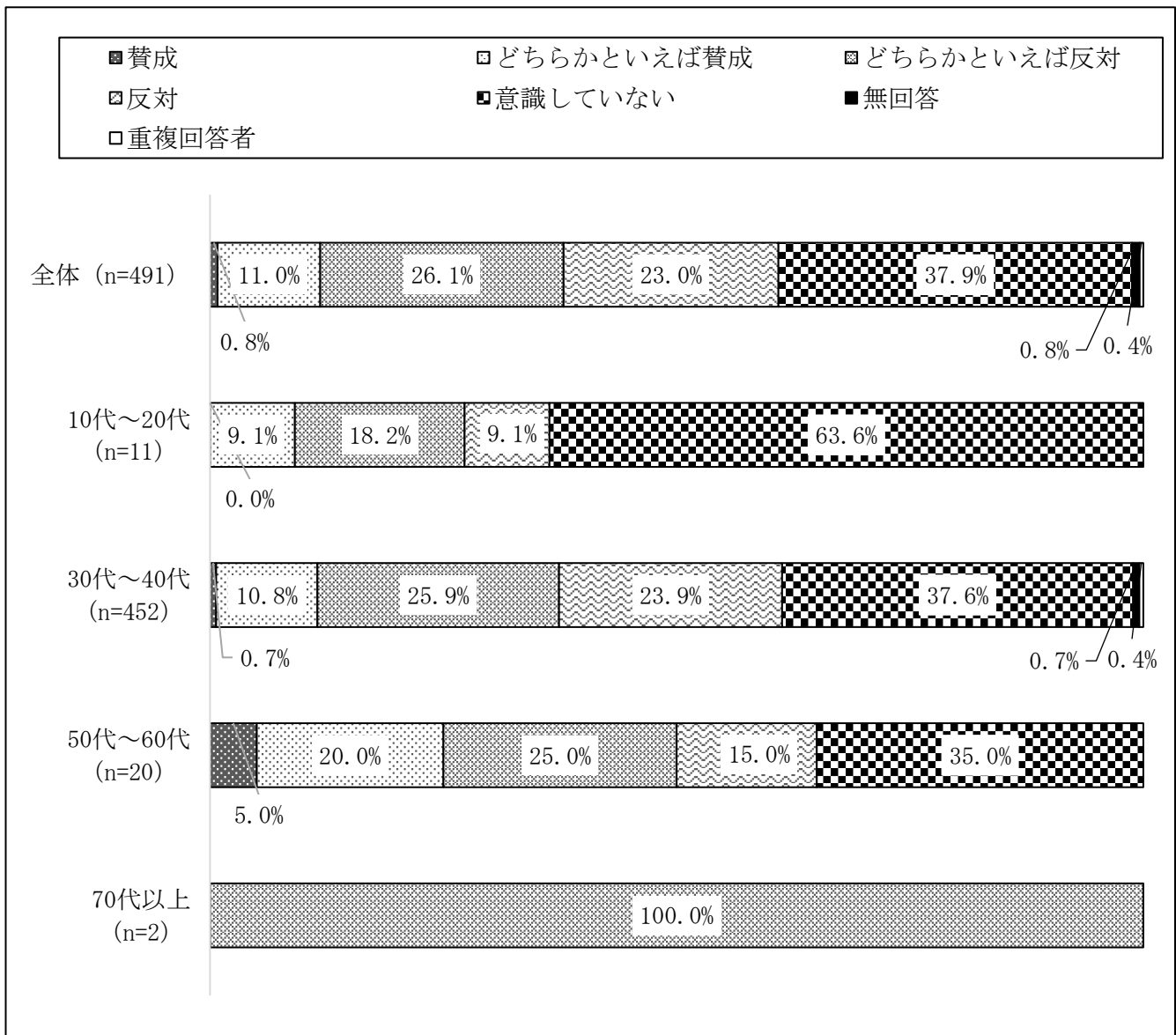
あなたは現在、どのような仕事についていますか。(☑は1つ)



3. 男女平等意識について

問1：あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。
(○は1つ)

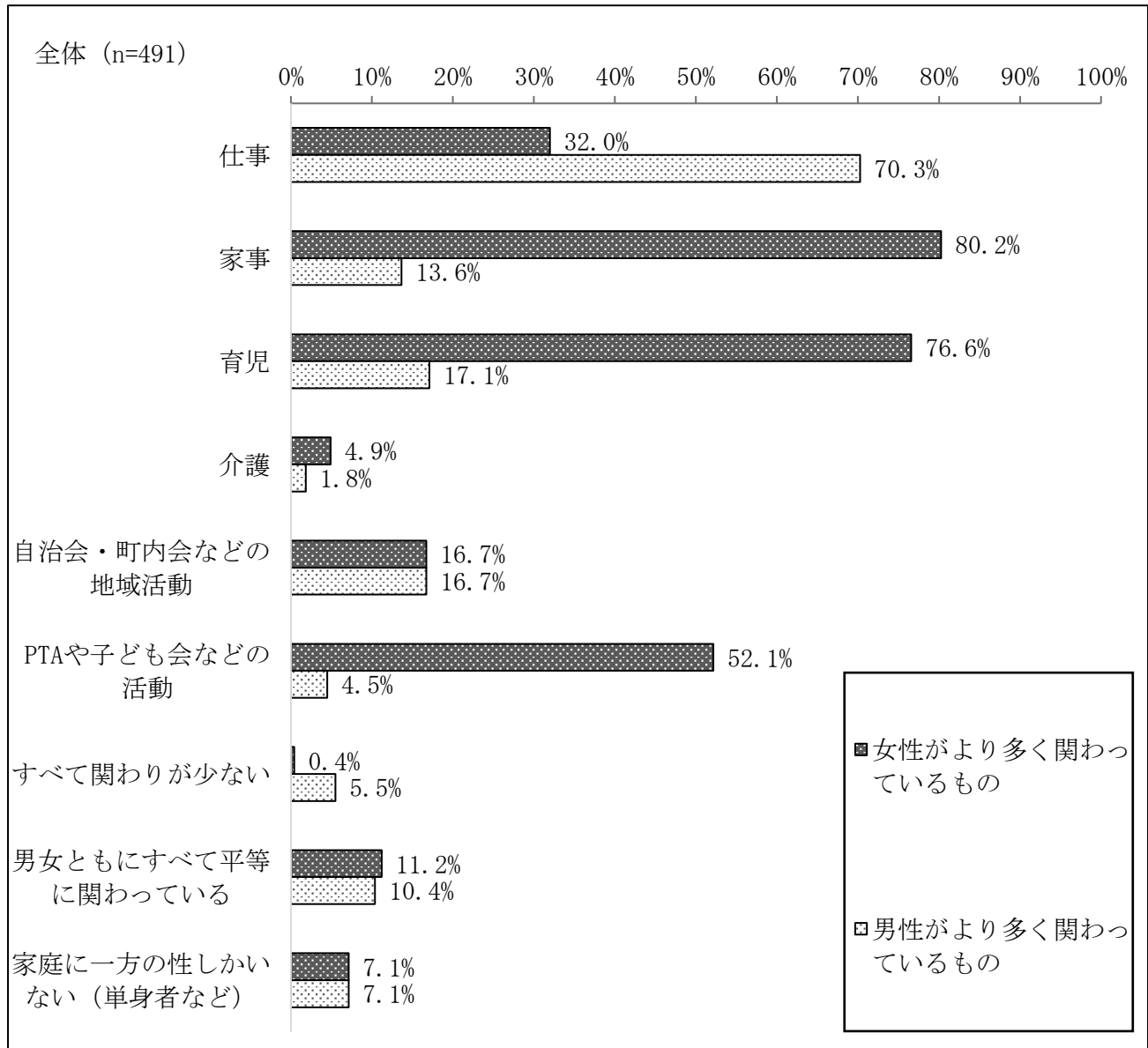
■全体・年代別



4. 家庭生活における関わり方の実態

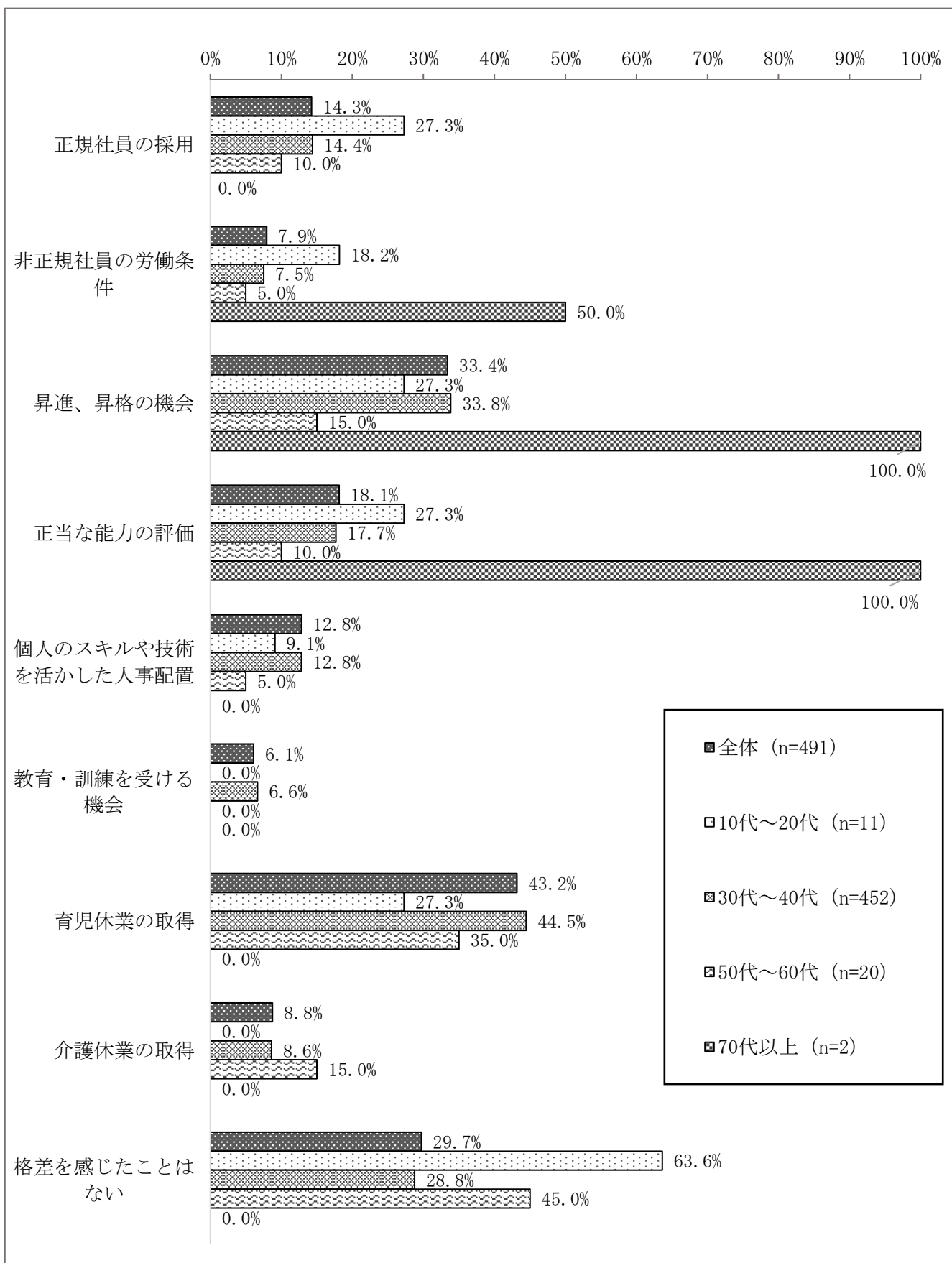
問2：あなたの家庭で、女性がより多く関わっているものはどれですか。（○は複数可）

問3：あなたの家庭で、男性がより多く関わっているものはどれですか。（○は複数可）



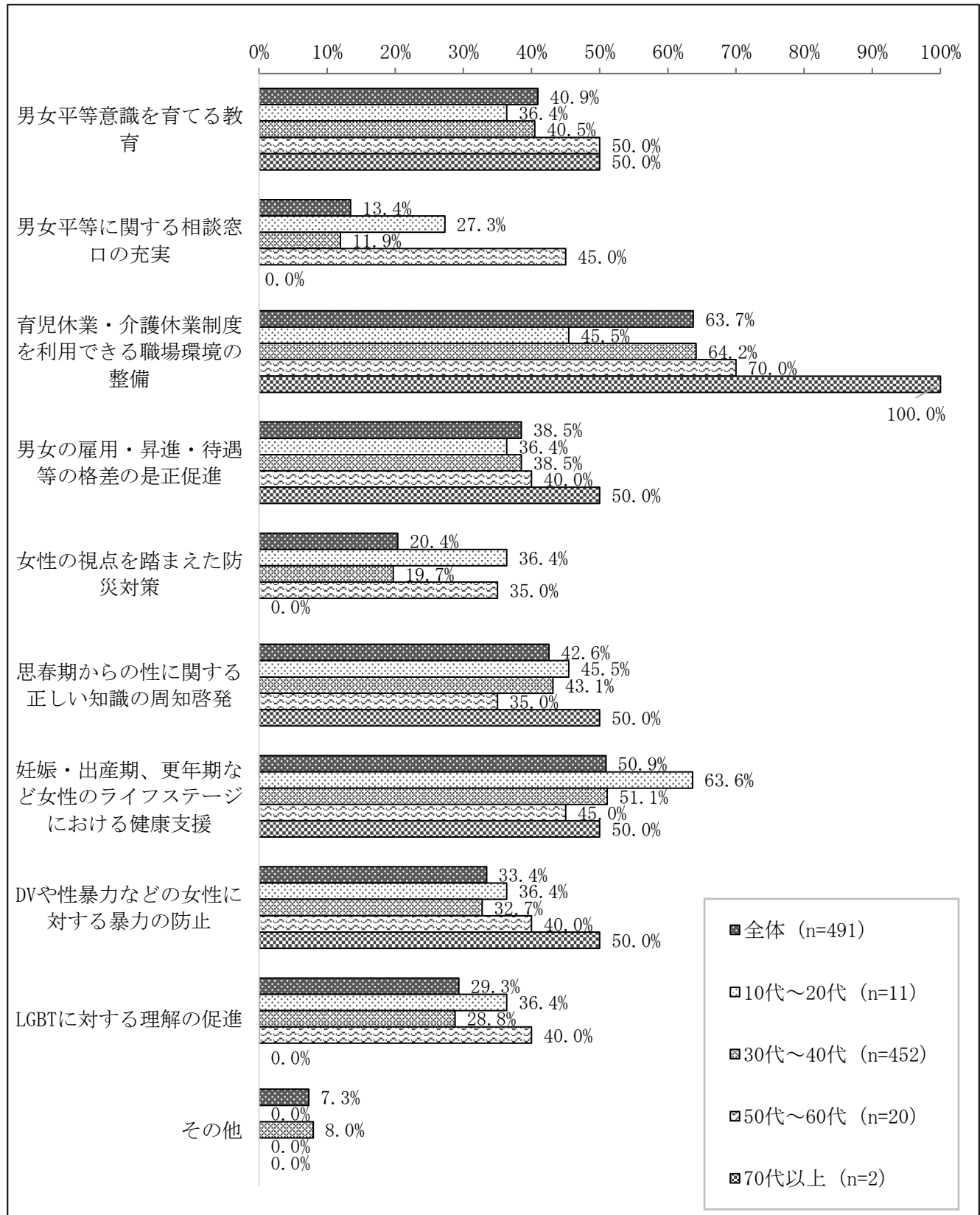
5. 職場における男女格差

問4：あなたは、仕事内容や待遇面などで、男女格差を感じたことはありますか。（○は複数可）



6. 市に取り組んでほしいこと

問 5：誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるために、市はどのようなことに取り組んだほうがいいと思いますか。（〇は複数可）



「その他」の回答（抜粋）

- ・ダイバーシティへの理解
- ・夫婦間のDVから子供を守る支援と予防
- ・労働に対する企業への改善、働きかけ
- ・男性中心職場の労働環境の改善、多くの労働者が定時退勤できる世の中になれば改善するのでは
- ・女性管理職を増やす
- ・男性が仕事と家庭を両立することへの理解を深める活動をしてほしいです
- ・育児休暇の取得
- ・在宅ワークの促進

7. 自由意見（抜粋）

家庭	・女性が社会で問題なく働き続けられたり男性が家事育児を担うことが当たり前になると良いと思います。 ・仕事で育児、家事に関わることができないなどあるが、各家庭で意見を出し合えると良いと思う。 ・家事や育児にかかわる男性は増えているが、家庭内のその他やらなければならないことはほとんど女性に負担がかかっている。 ・休日はパパが洗濯や掃除をしてくれるけど、平日はなかなか手伝ってくれない状況です。そんなときはつらく感じます。 ・夫婦間の役割で、男女が同じでなくても良いと私は思っています。家庭に無関心であったらダメですがやりたい人、手が空いているほうが自然とできれば良いのかなと思います。 ・いささか女性への配慮のみが過ぎる気もしています。男性の家事意欲が削がれては本末転倒なので、双方が必要に応じて声をあげられる環境が整っていれば良いと考えます。 ・あんまり平等にこだわりすぎるのもなあ…と思います。
事業者	・男女共同が望ましいとは言え、小さい子供を育てる女性が男性と同じ土俵に立つのはまだまだ難しいように感じます。 ・人を使う立場の人たちの意識はまだまだ問題ありと思う。 ・男の人の働き方はまだ昭和のままではないですか？パパも勤めている会社に「小さな子供を育てている社員」という配慮をもらえないと厳しいと思います。 ・育休の利用状況を鑑みてもまだまだ真の平等とはほど遠い気がします。まずは意識改革が必要でありそのためには、環境整備の充実が課題だと思われます。 ・家庭内だけでの解決は到底難しく企業の考え方、日本社会全体の考え方が家庭内の共同参画にも視点を置いた働き方にシフトしなければ個々人ではどうにもなりません。 ・本人だけ、家族だけではなく、会社の具体的な対応が不可欠だと思います。 ・仕事では女性視点を踏まえた環境、女性待遇の職場環境を増やしてほしいです。
教育	・教育として男女平等など意識付けしていくと将来的に良いと思う。 ・子供の頃から性別にとらわれない教育、選択できる教育。 ・まずは教育の中に男女平等の意識を高めるべきと感じます。 ・親世代の意識改革。男女ともに無意識の性バイアスを取り除けるような教育を小さい頃から実現できると良いと思う。

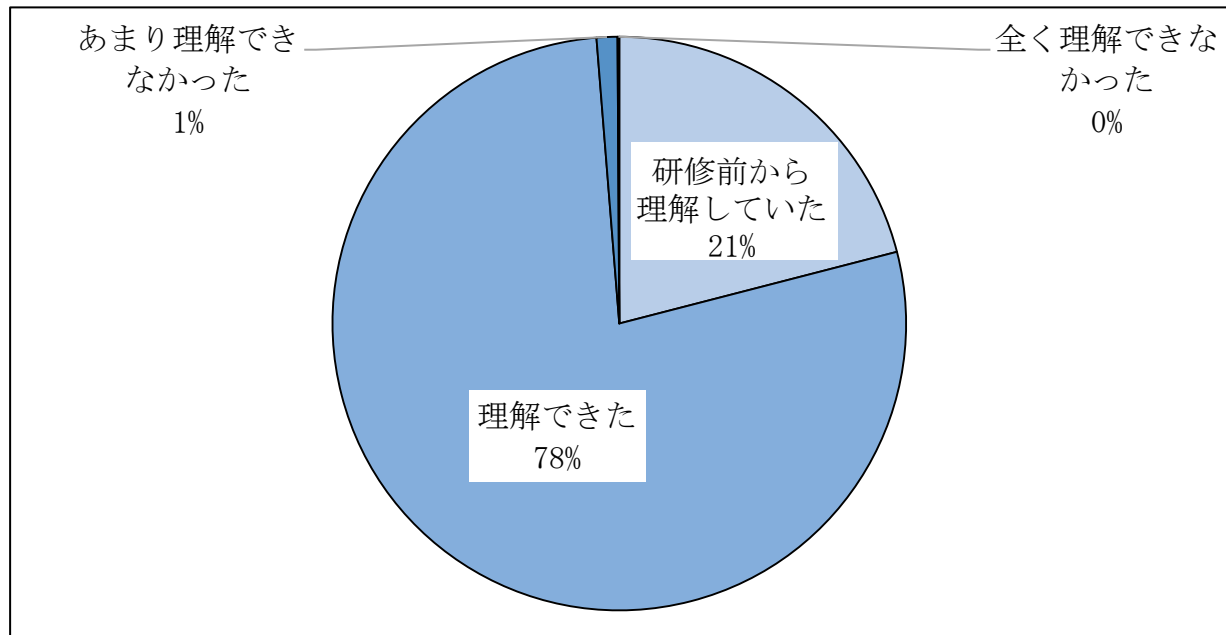
6 職員 e ラーニング研修アンケート 調査結果

研 修 名：職員 e ラーニング研修「男女共同参画基礎研修」

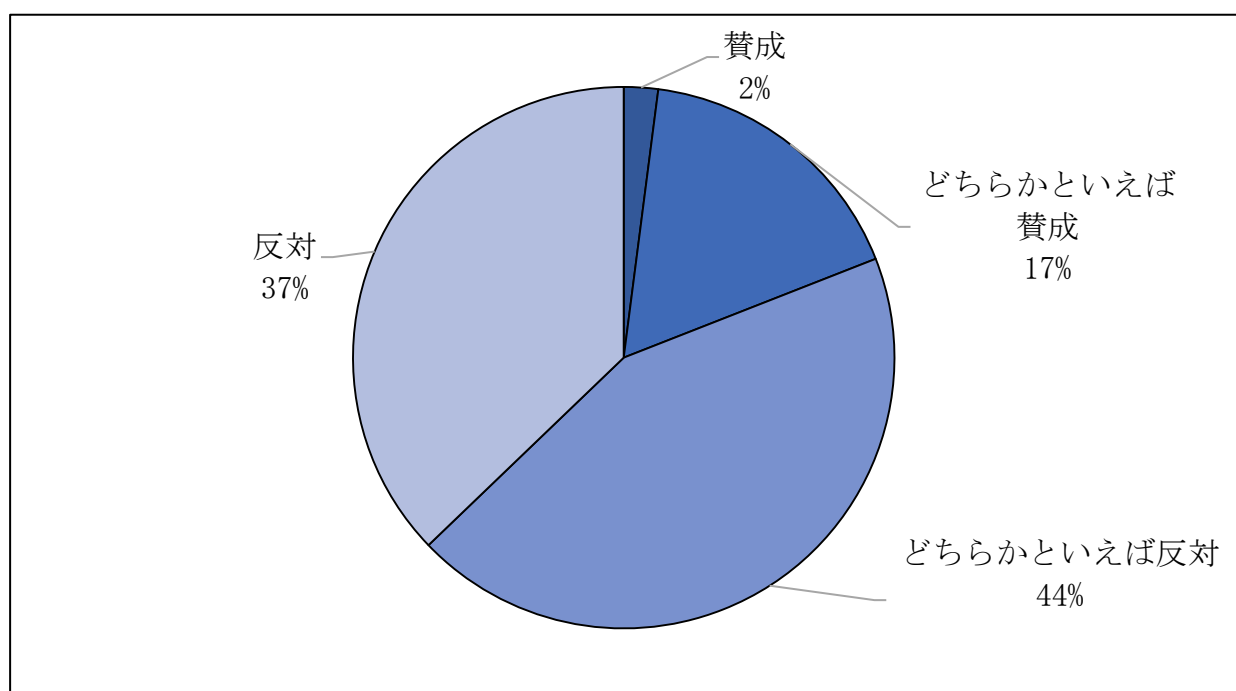
実施期間：令和 3 年（2021 年）5 月 11 日（火）～令和 3 年（2021 年）5 月 31 日（月）

対 象 者：全職員 4,062 名（うち、回答 2,615 名 回答率 64.3%）

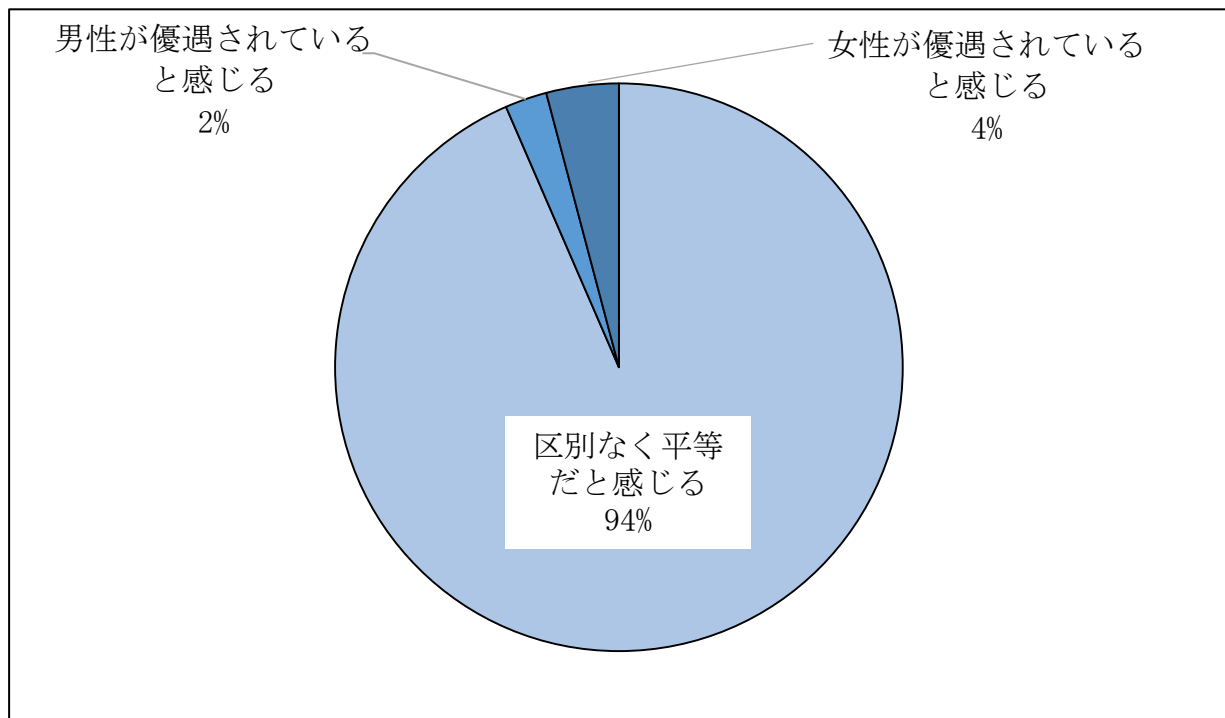
問 1：研修を受講して男女共同参画について理解できましたか。



問 2：あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。



問3：あなたの職場では、「男女の区別のない事務分担」となっていますか。



問4：問3で「男性が優遇されていると感じる」「女性が優遇されていると感じる」と回答した方にお伺いします。どのような場面で「男女の区別がある」と感じますか。【抜粋】

保育園の迎え、子どもの世話、看病は女性（母）の役割として考えられている気がする。残業したくともできる雰囲気ではない。子どもが療養中にどうしても処理しなければならない業務があって出勤すると早く帰れと言われ、仕事がしづらい。

職場の業務の進め方がフレキシブルな勤務体制に対応していないため、育児の時短等が取りにくい環境にある。

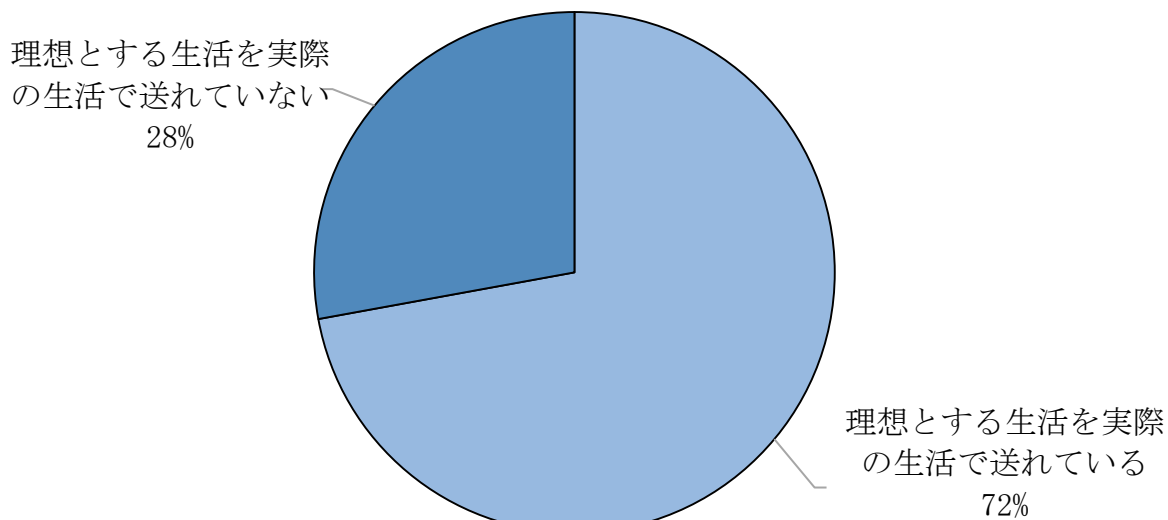
「夫は外で働き、妻は家庭を守る」的な意識が、まだ夫の中に残っている。一定の年齢以上の男性には多いと思う。

職場での女性の管理職が少ないと思う。

そもそも部署に配属されている25名の職員のうち、女性はひとりである。事務分担の区別以前に職員の配置の段階で平等な取り扱いがされているのか疑問である。

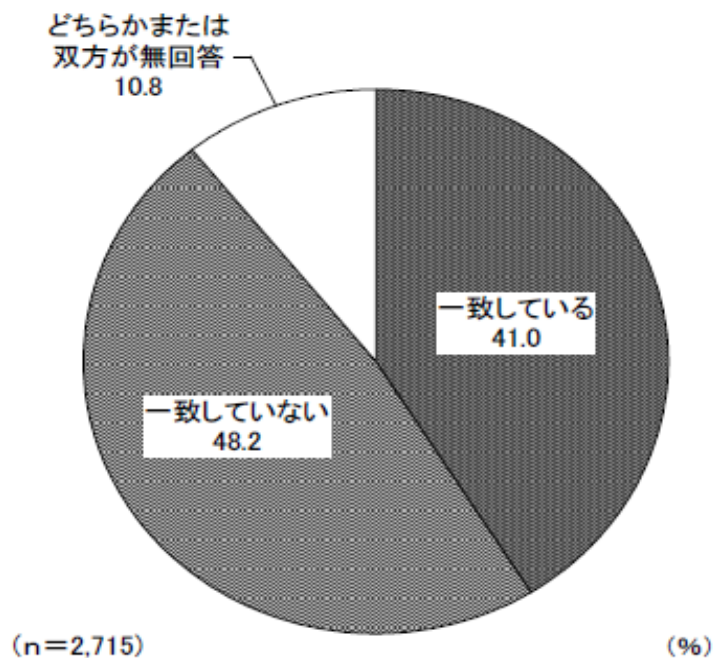
男性職員の方が負担の多い仕事が多く、残業を強いられることが多く、職場の庶務は女性が担っている等、男女平等と言われる社会の中、仕事の割振りに疑問を感じている。

問5：「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）など、あなたの理想とする生活を実際の生活で送れていますか。



（参考）令和2年度市政世論調査の結果より抜粋

ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、①希望と②実際の2つの回答が一致した人（①希望する優先度のおりに②実際の優先度が実現できている人）の割合（41.0%）は4割強となっている。一方、2つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のおりに②実際の優先度が実現できていない人の割合（48.2%）は5割近くとなっている。

問6：問5で「理想とする生活を実際の生活で送れていない」と回答した方にお伺いします。
その弊害となっていることは何ですか。【抜粋】

まだまだ男女平等という考え方が日常に浸透していない部分があり、「家庭生活」や「地域、個人の生活」においては、女性が負担するものが多くあると思う。（例えば、家事、子育て、町内会等の仕事）

主人の会社は有給休暇などが使える環境下でない為、子供の行事（入園、卒園、入学、卒業式）などの参加が出来ない事など。

男性は仕事、女性は家事という固定概念があるために、それが日常生活に溶け込んでしまっていること。

子育て、仕事、経済面、心の余裕など自分だけの時間はほとんど作れない。自分を犠牲にするしかない。

地域も家庭も世の中も私自身もまだまだ未だに性別による固定的な役割分担意識が残っていると思う。日々仕事や家庭子供のことで忙しく考えたことはなかったが今回この研修を受けてみて改めてワーク・ライフ・バランスについて考えてみようと思った。子供にも男だから女だからとは言っていないものの、男の子だからこうなってほしいとか女の子だから…という思いがあったが、その辺も私自身の考えを改めて子供に接してみようと思う。

日本のこれまでの社会が男性と女性の分業体制で成り立ってきたため、それぞれの意識と生活スタイルを変えていかなければ理想とする生活には近づかないだろう。

残業が多いため、平日、子どもと過ごす時間が短く、配偶者（夫）に負担をかけていることにストレスを感じている。

男女共同参画を推進するためには、ワーク・ライフ・バランスの推進を実現し、ゆとりのある職場環境を保障することが重要であると思う。特に民間企業や学校職場の働き方が変わらないと家庭での男女の役割分担が変えられない。

テレワークやリモートワークが実施されていないため、働く場所が固定され、住む場所が自由に選べない。

問7：研修の感想をお寄せください。【抜粋】

性別による役割分担などの意識は、子供の頃からの教育や親の言動の影響が大きいので、地道な意識改革が必要と思う。

男女共同参画を進めるためには政策、方針決定に男女が対等に参画するという意識の変革が必要だと思う。

現在はだいぶ男性の育児参加が増えてきているように思いますが民間企業では難しい所も多いと思う。公的機関からどんどん制度を利用し、社会全体が変わるようになればいいと思う。

条例を策定し、実効力をもって全市に広めていくためには、市民を巻き込んで取り組みを進めていく必要がある。

男女共同参画社会は、男性に対しても女性に対しても有益な社会であると思う、現実には様々なところに性差によるハードルや不利益が残っていると感じる。時間はかかるが、法律や条例による制度作りを通じて、一人一人の意識を変えてもらうよう働きかけを継続して行うしかないのかなと思う。

社会全体が変わるには、教育現場での子供たちへの認識教育、具体的なアプローチが必要と思った。

八王子市での個人に向けて男女共同参画に取り組む姿勢は素晴らしいと思うが、一般の企業ではまだこの考えが浸透していないように感じる。雇用側の意識も同時に改革して欲しいので、行政からの推進活動に期待している。